

特268-308
1200501126013
308

特268

0m 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 3 4 i

始



特268
308



三つく 風京園鑑

月
換



此字

天

地

人



ニコく風景圖鑑目次

題字……………	牧野元次郎氏書	三
各篇郷土玩具挿畫……………	牧野司郎氏畫	三
宮城……………		一
外宮……………		二
内宮……………		三
靖國神社……………		四
靖國神社……………		五
出雲大社……………		六
出雲大社大鳥居……………		六
關東篇		
ニコく月報募集寫真「子供の笑顔」		
東京府		
櫻田御門……………		七
楠公銅像……………		七
行幸通り丸ビル一帯……………		七
東京驛……………		八
新國會議事堂……………		八
日比谷公園……………		九
不動貯金銀行九段支店……………		九
銀座通り……………		九
不動貯金銀行日本橋支店……………		〇
三越……………		〇
歌舞伎座……………		〇
日本橋……………		〇
不動貯金銀行本店……………		一
頭取牧野元次郎氏……………		二
不動貯金銀行本店營業所……………		二
同 大黒様神殿……………		三
同 大會議室……………		三
増上寺……………		四
徳川家墓廟……………		四
愛宕山……………		四
泉岳寺……………		五
不動貯金銀行乃木坂支店……………		五
青山御所……………		六
赤坂離宮……………		六
護國寺……………		六
不動貯金銀行白山支店……………		七
傳通院……………		七
植物園……………		七
西郷銅像……………		八
上野公園……………		八
不動貯金銀行上野支店……………		八
東照宮……………		九
地下鐵道……………		九
帝國博物館……………		九
霞吳記念堂……………		九
國技館……………		一〇
金龍山淺草寺……………		一〇
不動貯金銀行兩國支店……………		一〇
多摩御陵……………		一一
龜戸天神……………		一一
神宮球場……………		三
村山貯水池……………		三
飛鳥山公園……………		三
神奈川縣		
不動貯金銀行横濱支店……………		四
横濱埠頭……………		四
川崎大師……………		四
根岸競馬場……………		五
鶴見總持寺……………		五
掃部山公園……………		五
鎌倉宮……………		六
鶴岡八幡宮……………		六
圓覺寺……………		六
不動貯金銀行横須賀支店……………		七
箱根蘆の湖……………		七
伊豆大島		
波浮の港……………		六
大島三原山の噴煙……………		六
大島風俗……………		六
千葉縣		
成田不動尊……………		九
香取神宮……………		九
宗吾齋堂……………		九
銚子海岸……………		一〇
木更津海岸……………		一〇
清澄山……………		一〇
牧野元次郎先生……………		一〇
壽像安置所の記念記……………		一〇
久留里小學校……………		一一
圓覺寺……………		一一
牧野元次郎先生壽像……………		一一
茨城縣		
香島神宮……………		三
水郷湖米……………		三
好文亭……………		三
大洗海岸……………		三
磯節踊……………		三
筑波山……………		三
笠間稻荷……………		三
栃木縣		
神橋……………		三
陽明門……………		三
中禪寺湖……………		三
華嚴の瀧……………		三
鹽原温泉……………		三
不動貯金銀行宇都宮支店……………		三
群馬縣		
妙義山……………		三
不動貯金銀行前橋支店……………		三
草津温泉……………		三
榛名湖……………		三
伊香保温泉……………		三
埼玉縣		
長瀧……………		三
奥羽篇		
ニコく月報募集寫真「子供の笑顔」		
福島縣		
白河關址……………		元
東山温泉……………		元
猪苗代湖……………		元
飯坂温泉……………		元
宮城縣		
鹽釜神社……………		元
青葉城址……………		元
仙臺名物館……………		元
不動貯金銀行仙臺支店……………		元
五大堂……………		元
瑞巖寺……………		元
雄島……………		元
金華山……………		元
岩手縣		
盛岡美人の踊……………		元
岩手山……………		元
石割櫻……………		元
青森縣		
岩木山……………		元
青森埠頭……………		元
淺虫温泉……………		元
秋田縣		
能代港と能代橋……………		元
十和田湖……………		元
田澤湖……………		元
秋田首領……………		元
男鹿半島の奇勝……………		元
秋田名物のふき……………		元
山形縣		
最上川……………		元
モンペ安……………		元
千歳山……………		元
中部篇		
ニコく月報募集寫真「子供の笑顔」		
静岡縣		
久能山東照宮……………		元
修善寺温泉……………		元
熱海温泉……………		元
不動貯金銀行静岡支店……………		元

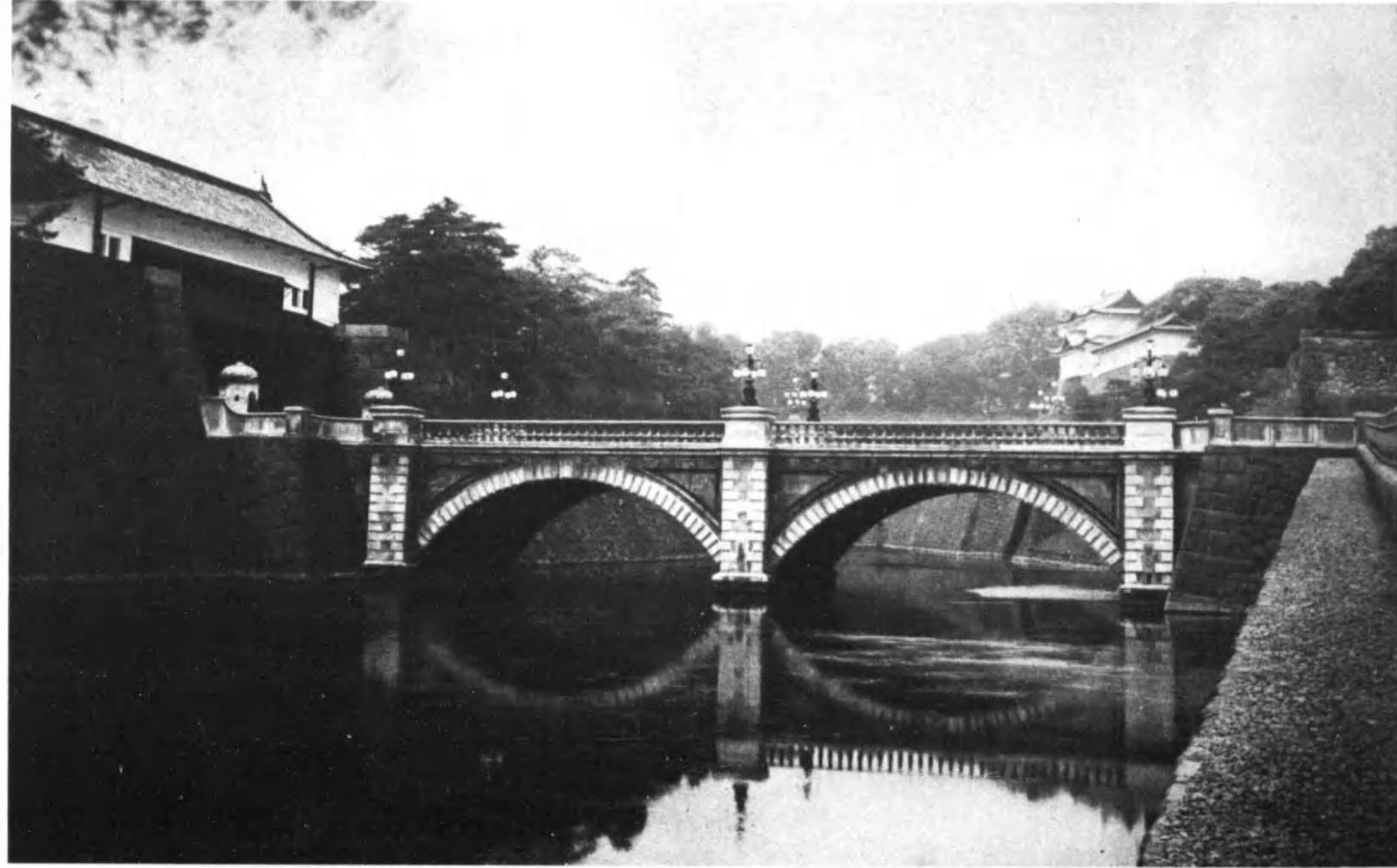
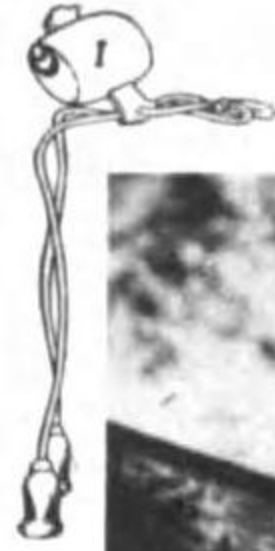




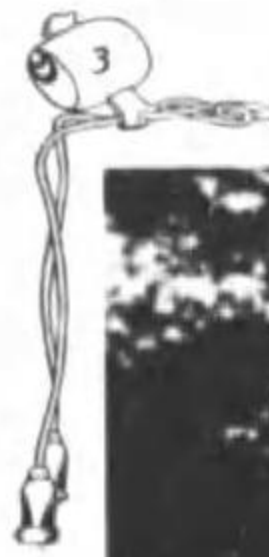
田子の浦	不動貯金銀行名古屋支店	五	俱利伽羅社	不動貯金銀行奈良支店	五
保の松原	不動貯金銀行名古屋支店	五	尾上神社	不動貯金銀行奈良支店	五
下田港	不動貯金銀行名古屋支店	五	九十九洲	不動貯金銀行奈良支店	五
富士山	不動貯金銀行名古屋支店	五	和合温泉	不動貯金銀行奈良支店	五
不動貯金銀行濱松支店	不動貯金銀行名古屋支店	五	山中温泉	不動貯金銀行奈良支店	五
愛知縣	不動貯金銀行名古屋支店	五	福井縣	不動貯金銀行奈良支店	五
名古屋	不動貯金銀行名古屋支店	五	藤島神社	不動貯金銀行奈良支店	五
豊田	不動貯金銀行名古屋支店	五	永平寺	不動貯金銀行奈良支店	五
熱田	不動貯金銀行名古屋支店	五	福井城址	不動貯金銀行奈良支店	五
蒲郡	不動貯金銀行名古屋支店	五	不動貯金銀行福井支店	不動貯金銀行奈良支店	五
御油	不動貯金銀行名古屋支店	五	若狭高濱	不動貯金銀行奈良支店	五
鳳來寺	不動貯金銀行名古屋支店	五	教賀港	不動貯金銀行奈良支店	五
岐阜縣	不動貯金銀行名古屋支店	五	三國港	不動貯金銀行奈良支店	五
長良川の鶴岡	不動貯金銀行名古屋支店	五	滋賀縣	不動貯金銀行奈良支店	五
不動貯金銀行岐阜支店	不動貯金銀行名古屋支店	五	滋賀縣	不動貯金銀行奈良支店	五
日本橋	不動貯金銀行名古屋支店	五	瀬田の唐橋	不動貯金銀行奈良支店	五
養老瀑布	不動貯金銀行名古屋支店	五	不動貯金銀行大津支店	不動貯金銀行奈良支店	五
山梨縣	不動貯金銀行名古屋支店	五	矢野橋	不動貯金銀行奈良支店	五
身延山久遠寺	不動貯金銀行名古屋支店	五	石山寺	不動貯金銀行奈良支店	五
勝沼葡萄園	不動貯金銀行名古屋支店	五	三井寺	不動貯金銀行奈良支店	五
不動貯金銀行甲府支店	不動貯金銀行名古屋支店	五	浮見堂	不動貯金銀行奈良支店	五
猿橋	不動貯金銀行名古屋支店	五	不動貯金銀行八幡支店	不動貯金銀行奈良支店	五
富士五湖	不動貯金銀行名古屋支店	五	比良草野	不動貯金銀行奈良支店	五
長野縣	不動貯金銀行名古屋支店	五	栗津松原	不動貯金銀行奈良支店	五
諏訪湖	不動貯金銀行名古屋支店	五	唐崎の松	不動貯金銀行奈良支店	五
善光寺	不動貯金銀行名古屋支店	五	彦根城址	不動貯金銀行奈良支店	五
上高地溪谷	不動貯金銀行名古屋支店	五	竹生島	不動貯金銀行奈良支店	五
浅間山	不動貯金銀行名古屋支店	五	多賀神社	不動貯金銀行奈良支店	五
木曾御嶽	不動貯金銀行名古屋支店	五	不動貯金銀行彦根支店	不動貯金銀行奈良支店	五
木曾川	不動貯金銀行名古屋支店	五	京都府	不動貯金銀行奈良支店	五
新潟縣	不動貯金銀行名古屋支店	五	紫宸殿	不動貯金銀行奈良支店	五
不動貯金銀行新潟支店	不動貯金銀行名古屋支店	五	平安神宮	不動貯金銀行奈良支店	五
彌彦神社	不動貯金銀行名古屋支店	五	二條離宮	不動貯金銀行奈良支店	五
白山公園	不動貯金銀行名古屋支店	五	北野神社	不動貯金銀行奈良支店	五
佐渡おけさ	不動貯金銀行名古屋支店	五	八坂神社	不動貯金銀行奈良支店	五
佐渡海岸	不動貯金銀行名古屋支店	五	東本願寺	不動貯金銀行奈良支店	五
雪の高田市	不動貯金銀行名古屋支店	五	西本願寺	不動貯金銀行奈良支店	五
赤倉温泉	不動貯金銀行名古屋支店	五	清水寺	不動貯金銀行奈良支店	五
不動貯金銀行長岡支店	不動貯金銀行名古屋支店	五	三十三間堂	不動貯金銀行奈良支店	五
米山	不動貯金銀行名古屋支店	五	知恩院	不動貯金銀行奈良支店	五
富山縣	不動貯金銀行名古屋支店	五	妙心寺	不動貯金銀行奈良支店	五
立山	不動貯金銀行名古屋支店	五	不動貯金銀行七條支店	不動貯金銀行奈良支店	五
不動貯金銀行富山支店	不動貯金銀行名古屋支店	五	金閣寺	不動貯金銀行奈良支店	五
黒部溪谷	不動貯金銀行名古屋支店	五	嵐山	不動貯金銀行奈良支店	五
不動貯金銀行高岡支店	不動貯金銀行名古屋支店	五	京美人の踊	不動貯金銀行奈良支店	五
小原節	不動貯金銀行名古屋支店	五	天の橋立	不動貯金銀行奈良支店	五
石川縣	不動貯金銀行名古屋支店	五	奈良縣	不動貯金銀行奈良支店	五
兼六公園	不動貯金銀行名古屋支店	五	春日神社	不動貯金銀行奈良支店	五
不動貯金銀行金澤支店	不動貯金銀行名古屋支店	五	東大寺大佛殿	不動貯金銀行奈良支店	五

楠正成の墓	不動貯金銀行名古屋支店	六	安來節	不動貯金銀行名古屋支店	二四
四條職神社	不動貯金銀行名古屋支店	六	鳥取縣	不動貯金銀行名古屋支店	二四
砂川の奇跡	不動貯金銀行名古屋支店	六	伯耆大山	不動貯金銀行名古屋支店	二四
不動貯金銀行岸和田支店	不動貯金銀行名古屋支店	六	菜種島	不動貯金銀行名古屋支店	二四
兵庫縣	不動貯金銀行名古屋支店	六	鳥取城址	不動貯金銀行名古屋支店	二四
不動貯金銀行神戸支店	不動貯金銀行名古屋支店	六	三朝温泉	不動貯金銀行名古屋支店	二四
甲子園球場	不動貯金銀行名古屋支店	六	田植祭	不動貯金銀行名古屋支店	二四
神戶港	不動貯金銀行名古屋支店	六	四國篇	不動貯金銀行名古屋支店	二四
湊川神社	不動貯金銀行名古屋支店	六	徳島縣	不動貯金銀行名古屋支店	二四
玄武洞	不動貯金銀行名古屋支店	六	阿波の鳴門	不動貯金銀行名古屋支店	二四
白鷺城	不動貯金銀行名古屋支店	六	不動貯金銀行徳島支店	不動貯金銀行名古屋支店	二四
圓教寺	不動貯金銀行名古屋支店	六	祖父溪(壱橋)	不動貯金銀行名古屋支店	二四
不動貯金銀行姫路支店	不動貯金銀行名古屋支店	六	盆踊	不動貯金銀行名古屋支店	二四
明石	不動貯金銀行名古屋支店	六	王金魚の籠	不動貯金銀行名古屋支店	二四
須磨	不動貯金銀行名古屋支店	六	香川縣	不動貯金銀行名古屋支店	二四
舞子の濱	不動貯金銀行名古屋支店	六	栗林公園	不動貯金銀行名古屋支店	二四
赤穂城址	不動貯金銀行名古屋支店	六	不動貯金銀行高松支店	不動貯金銀行名古屋支店	二四
大石神社	不動貯金銀行名古屋支店	六	屋島	不動貯金銀行名古屋支店	二四
不動貯金銀行加古川支店	不動貯金銀行名古屋支店	六	善通寺	不動貯金銀行名古屋支店	二四
石の寶殿	不動貯金銀行名古屋支店	六	金比羅宮	不動貯金銀行名古屋支店	二四
城崎温泉	不動貯金銀行名古屋支店	六	讃岐富士	不動貯金銀行名古屋支店	二四
布引磯瀨	不動貯金銀行名古屋支店	六	不動貯金銀行丸亀支店	不動貯金銀行名古屋支店	二四
城崎スキー場	不動貯金銀行名古屋支店	六	愛媛縣	不動貯金銀行名古屋支店	二四
中國篇	不動貯金銀行名古屋支店	六	面河溪	不動貯金銀行名古屋支店	二四
岡山縣	不動貯金銀行名古屋支店	六	不動貯金銀行松山支店	不動貯金銀行名古屋支店	二四
後樂園	不動貯金銀行名古屋支店	六	道後温泉	不動貯金銀行名古屋支店	二四
不動貯金銀行岡山支店	不動貯金銀行名古屋支店	六	松山城址	不動貯金銀行名古屋支店	二四
金光町全景	不動貯金銀行名古屋支店	六	高松縣	不動貯金銀行名古屋支店	二四
岡山城	不動貯金銀行名古屋支店	六	浦戸港	不動貯金銀行名古屋支店	二四
吉備津神社	不動貯金銀行名古屋支店	六	不動貯金銀行高知支店	不動貯金銀行名古屋支店	二四
廣島縣	不動貯金銀行名古屋支店	六	高知城址	不動貯金銀行名古屋支店	二四
不動貯金銀行廣島支店	不動貯金銀行名古屋支店	六	室戸岬	不動貯金銀行名古屋支店	二四
廣島城	不動貯金銀行名古屋支店	六	五幸山公園	不動貯金銀行名古屋支店	二四
二段城	不動貯金銀行名古屋支店	六	九州篇	不動貯金銀行名古屋支店	二四
泉邸	不動貯金銀行名古屋支店	六	福岡縣	不動貯金銀行名古屋支店	二四
嚴島神社	不動貯金銀行名古屋支店	六	香椎宮	不動貯金銀行名古屋支店	二四
稻の浦	不動貯金銀行名古屋支店	六	不動貯金銀行福岡支店	不動貯金銀行名古屋支店	二四
不動貯金銀行福山支店	不動貯金銀行名古屋支店	六	筑崎八幡宮	不動貯金銀行名古屋支店	二四
不動貯金銀行尾道支店	不動貯金銀行名古屋支店	六	不動貯金銀行門司支店	不動貯金銀行名古屋支店	二四
尾道市	不動貯金銀行名古屋支店	六	芥屋の大門	不動貯金銀行名古屋支店	二四
吳市橋	不動貯金銀行名古屋支店	六	小倉城址	不動貯金銀行名古屋支店	二四
不動貯金銀行吳支店	不動貯金銀行名古屋支店	六	不動貯金銀行小倉支店	不動貯金銀行名古屋支店	二四
山口縣	不動貯金銀行名古屋支店	六	八幡製鐵所	不動貯金銀行名古屋支店	二四
錦帯橋	不動貯金銀行名古屋支店	六	不動貯金銀行久留米支店	不動貯金銀行名古屋支店	二四
不動貯金銀行下関支店	不動貯金銀行名古屋支店	六	水天宮	不動貯金銀行名古屋支店	二四
青海島の獅子岩	不動貯金銀行名古屋支店	六	大宰府神社	不動貯金銀行名古屋支店	二四
長門峡	不動貯金銀行名古屋支店	六	高山彦九郎の墓	不動貯金銀行名古屋支店	二四
壇の浦	不動貯金銀行名古屋支店	六	不動貯金銀行柳河支店	不動貯金銀行名古屋支店	二四
鳥根縣	不動貯金銀行名古屋支店	六	柳河水路	不動貯金銀行名古屋支店	二四
關の五木松	不動貯金銀行名古屋支店	六	英彦山神社	不動貯金銀行名古屋支店	二四
美保湖	不動貯金銀行名古屋支店	六			
宍道湖	不動貯金銀行名古屋支店	六			

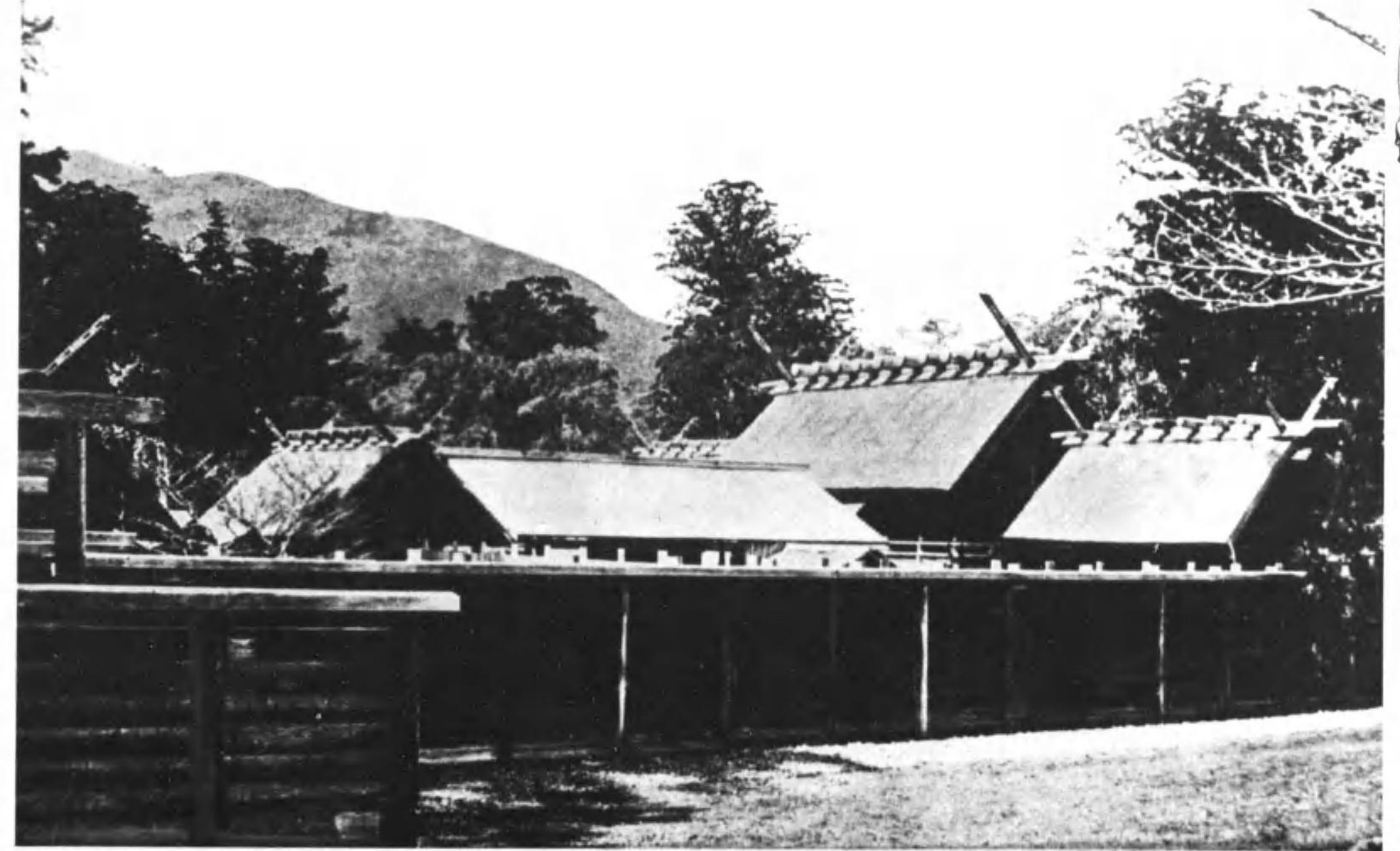




日三十月十年元治明りなと福中の治政門武来以りよてしなと城居を之しなを築大城入康家川徳年八十正天、築創の渡道田太臣の正定杉上園幸倉録年元祿長でのたれさ築修を城戸江の昔は居皇 城宮
と丸本は北上吹は西。のもたつなに工竣御年一十二 工起御月七年七十同しなと居皇假を宮難坂赤でのたれさ歸に有島城満てし失を火宮後日五月五年六治明は城宮の今。るあでのもたふ給め定と居皇を之
。るあで址舊の宅邸侯諸は苑外の前橋重二。る承と坪萬十三約内城御り居てれら限相て以を築疊皆げ上申



古てめ極は殿社ひ給りま願に地宮大の今年二十二の皇天略維。るあでのもたつ奉き齊を神大受豊 神津御神止給し幸を食衣に民孤の下天り衆をともの生發穀百すましま座廟に麓山倉高 (宮外) 廟大勢伊
るあで城壁るた壇神威神に實てしと然野幹古樹老城宮。るれば徳とやに實もまさの代神く深入一感の長敬高崇て却所るさへ加を彩色の碧丹等何てしと主を素清社



で一の器神神の種三てしに鏡神の咫八しひ給せか開を基の清秋園が我てけ授に尊并瓊瓊孫天朝神太皇もく良は代龜御で願祖の室皇が我に實りあに流上の川鈴十五 六軒五事る距を宮外 (宮内) 廟大勢伊
積の山路神南東。るあでのもたれら祀き齊に地の今てけ請を海神命姫後世御の皇天仁重ものをしり奉し礎に里の礎堂の和太れ恐をとこむら奉し儀を威神がたれらせ祀奉に中宮は元年六の皇天神崇は宮。るあ
しいるばと誤にさなけじたか もどねら知はかすまはあの事何。る下が頭ら自にさ尊の威至に眞すさ許も塵の點一は殿社るな儀の其木白垢無淨清ばせ拜てき鏡に門神垣板。せせ雙を色の古千樹老へ控を筆



て以を使動て總は典祭大の日三十二月十日十三月四。るあで社幣官格別で所ふ給し祭幣を靈亡の士將の役陣に役職の棧の其び及士志の新繼りよに旨叙の厚深延朝もく長。ふいと社魂相段九に俗。社神國靖
るあがどな園庭む富に望眺く多樹櫻め占を境佳の棟高闊開し位に乾の城宮は城社神。るあがどな居島廟大の一本日像廟の邸次益村大や館就遊たし列陳を具武器武の古新に内苑。る居てれらせは行



動日當はに祭大。るま埋て以を人遺參表はり齋初の日元に殊中へ紀者賽に常く厚敬崇の民間に共と宮神勢伊。るあで社大幣官る奉し齋頌を柱二の后太皇憲昭帝大清明るた者立樹の本目新もく世。宮神治明
るあが等場球野び及場技儀大るい容を東觀大はに地低の隅南西又りあが等館念記布發法憲・館靈繪念記德皇・物築建址殿場群はに内苑御。るらせらあ拜親御下階兩に更りあ遺差御の使

二の共 眞寫集募報月コニコニ



枝初原(8) 子歌田(7) 夫正橋高(6) 郎太圓橋高(5) 子ツチ藤佐(4) 【内城區店支標本日】 かやさ島川(3) 枝初井酒(2) 弓真本二不(1) 【内城區店本】
 郎四澤伊(16) 【内城區店支野上】 子久喜場市・子マサ岡片・子重八場市(15) 一 中山(14) 子美惠原北(13) 子澄村松(12) 子夜小 森(11) 猛 田前(10) 雄昭原(9)
 里千田町(24) 子房藤須(23) 野瀬合河(22) 郎四本塚(21) 市政田山(20) 子キヨ山丸(19) 駿 御青(18) 子信本塚(17)

一の共 眞寫集募報月コニコニ



介草原日(7) 二訪深瀬(左) 一瀬深(右)(6) 子ねよ藤榮(5) 久義野大(左) 子惠野大(右)(4) 郎三藤伊(3) 子美江谷松(2) 子芳澤老海(1) 【内城區店本】
 行正科保(18) 枝磯藤達(17) 一審田松(16) 耳 池小(15) 弘 中畑(14) 子昌里中(13) 街正橋高(12) 子紗海富(11) 子り全部矢(10) 茂生藤青(9) 子愛林小(8)
 子紗藤藤佐(22) 子和滔天(21) 子生井酒(20) 弘義貫材(19)



四の共 眞寫集募報月コニコニ



子タ+田高(10) 一貫信頼(9) 子文峯小(8) 子ヨ+澤泉(7) 代久木村(6) 子敬地菊(5) 男忠 東(4) 枝美込中(3) 子ヨ+川田宇(2) 男正山住(1) 【内城區店支山白】
 子ヨ+並高(18) 雄幹宮小(17) 子敏會横(16) 男敏原石(左) 昭原石(右)(15) 直正藤内(14) 【内城區店支園南】 子鶴田田木(13) 一喜田森(12) 子イレ田吉(11)
 子春橋木八(24) 【内城區店支段九】 雄文原老海(23) 夫義黒小(22) 枝初川大(21) 郎次善川谷長(20) 一龍坂乙(19)

三の共 眞寫集募報月コニコニ



宮小(9) 子幸岸山(8) 宮小(7) 子富島内(左) 郎太安島内(右)(6) 藤原長(5) 郎一昭井濱(4) 子久田武(3) 雄美邊渡(2) 壽泰輪三(1) 【内城區店支野上】
 子久田竹(19) 雄義藤安(18) 郎三仲管小(17) 郎次徳获矢(16) 子一保久大(15) 夫朝松岩(14) 博合河(13) 子和田町(12) 子智口山(11) 宮小(10)
 枝滑山住(24) 枝初田藤(23) 【内城區店支山白】 子和輪三(22) 子園藤加(21) 男敏島十八(20)

六の共 眞寫集募報月コニコニ



子錫木並(10) 雄靜中濱(9) 和信木青(8) 子好田金(7) 陽崎紳(6) 子々野中(5) 郎一慎野中(4) 悟章村吉(3) 一幸島大(2) 子益木八大(1) 【内城區店支坂本乃】
 江和本松(右)(18) 夫昭田上(17) 一柁原相(16) 【内城區店支濱橋】 夫忠木鈴(15) 一貞口井(14) 子保田内(13) うと島大(左) 子一島大(右)(12) 子仁高日(11)
 康明田中(24) 子長澤越(23) 子貞管小(22) 維幸 縣(21) 尙 潤増(20) 子悦木茂(19) 明昭藤伊(左)

五の共 眞寫集募報月コニコニ



子淑越福(8) 子良 林(7) 子廣藤加(左) 子元藤加(右)(6) 子佐美口田(5) 子良下松(左) 子惠智下松(右)(4) 子美喜泉小(3) 哉準 平(2) 昇 田本(1) 【内城區店支坂九】
 昭豐藤安・子陽藤安(17) 典和江鈴(16) 樹茂山杉(15) 忠 林平(14) 要 川鮎(13) 雄喜橋三(12) 且堂美田録(11) 子廣村梅(10) 子秀川北・子靜川北(9)
 野 中(24) 子代砂中土(23) 子榮藤藤(22) 【内城區店支坂本乃】 子惠千川鮎(21) 子悦葉稻(20) 久智野大(19) 子昭越福(18)



子津多本山(3) 子桂上村(2) 【内城區店支店横橋】 枝初并白(1) 【内城區店支店横橋】
 江輝川谷長(8) 夫和上村(7) 子秀上村(6) 夫久藤達(5) 子治藤内(4) 【内城區店支店横橋】
 男睦原本(11) 登地朝(10) 【内城區店支店都宇】 邦正藤石(9) 裕藤文(12)



營業案内

預金

(1) 居乍らたまるニコく貯金

イ、此の貯金は毎月一定の金額を三年間受入れるのであります。家に居ながら知らずの間にまとまった金が多くなります。遠方なら(集金区域外ならば)「振替貯金」の方法もあります。
 ロ、満三年月の満期日に左記の割合で給付契約額を拂渡致します。
 (三年目拂渡金)

五	三	二	一	五	四	三	二	一	五
萬	萬	萬	千	千	千	千	千	千	百
圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓

ハ、毎月の受入れには本行から集金係を差出します。(但し集金区域内在住の方に限る)
 ニ、毎月の拂込を中止された方には満期日に受入れ金額だけを拂戻します。
 ホ、此の貯金は中途の拂戻を致しません(但し火災死亡等の場合は此限りではありません)
 ヘ、此の貯金は譲渡し買入を禁じます。

(2) 餘分に賣ふ利益配當

毎決算期に利益金中から株主配當金と同額以上のニコく貯金者配當金を支出し其半期間に満期となつた貯金者(其満期金額に應じて按分配當致します(配當月は二月、八月))

(3) 確實有利な据置貯金

イ、此の貯金は貯蓄銀行獨特の貯金法でまとまつたお金の御利用に五種適當であります。先づ最初一定の期間を御約束して御預入れになれば其後御預入期間内は何時でも何回も御預入れが出来ます。最初の預入金額を百圓以上とし第二回以後は十圓以上とします。

ハ、契約期間(利息) (預入期間) (据置期間)
 六ヶ月 年四分五厘 最初の三ヶ月 最後の三ヶ月
 一ケ年 年四分七厘 最初の六ヶ月 最後の六ヶ月
 二ケ年 年四分八厘 最初の九ヶ月 最後の九ヶ月
 三ケ年 年四分九厘 最初の十二ヶ月 最後の十二ヶ月
 以上の利率は契約当日の御預入に對するもので、翌

貸付

(1) 借入れ便利なニコく貸金

イ、此の貸付はニコく貯金掛込半年以上経過なく経過の場合は契約額の半分を、満一ケ年経過以上経過なく経過の場合は契約全額をお貸付致します。
 ロ、一回十圓以上何程でもお借り致します。
 ハ、利息は日七厘であります。
 ニ、此の貯金は集金致しませんから店口へ御持参願ひます。

(5) 出入れ自由の普通貯金

イ、此の貯金は出入れ御自由で日に何回でも御取扱致します。日本の賣上金、當座のお手許金、町内組合等の會費...等のお預入れに適當であります。
 ロ、一回十圓以上何程でもお借り致します。
 ハ、利息は日七厘であります。
 ニ、此の貯金は集金致しませんから店口へ御持参願ひます。

(2) 満期繼續貸金

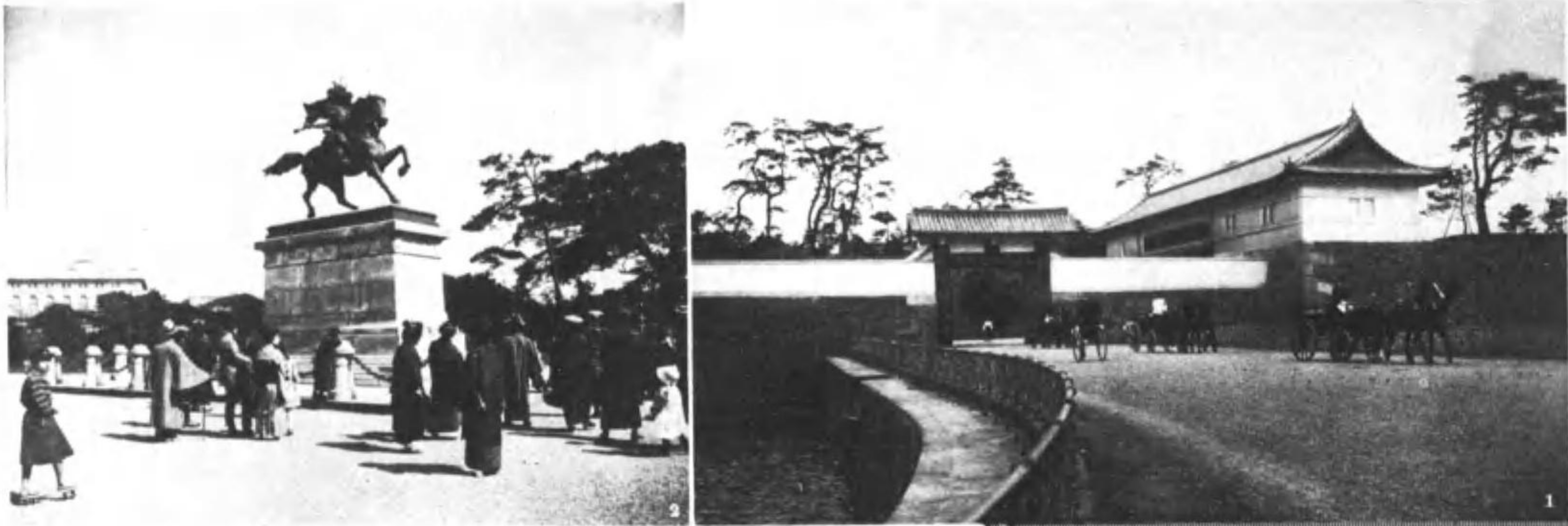
イ、満期繼續貯金第一回の拂込後(但し本貸付は借貯金満期と同時に繼續を爲されたお方に對しお取扱ひ致します)直に借貯金契約額の二分の一を減額契約の場合はその契約額の二分の一を限度としお貸付致します。
 ロ、借貯金にして最後の一箇年一回たりとも未納(貸付のありたるものは利息未納を含む)あつた方はその資格を失ひます。

(3) 預金擔保貸付金

イ、此の貸付はニコく貯金(掛込六回以上経過)据置貯金、定期預金(兩者とも預入後一箇月以上経過)の御預入金額の約八割を限度として最も手軽に御用立て致します。

貯金は動かない

府 京 東



- (1) 櫻田御門 (市電櫻田門下車)
 高延元年三月三日時の大老伊井直朝が登城の折水戸浪士大
 關和七外十七名のため要撃された櫻田門外の變で有名な所
 云はれて居る
- (2) 橋公銅像 (市電馬場先門下車)
 二重橋前の小松林芝生中にあり明治三十一年一月住友吉左
 衛門氏の献じたもので、別子銅山の銅で鑄造したものと
 云はれて居る
- (3) 行幸通りより九ビル一帯

金のなる木は
此の世にない
が預けた貯金
に金かなる
信太郎

主をたよりに
不動を杖に世
帯初めの初儲り
三三
三三坊主と言はれた後に
遂に満期か来たぞいな
信太郎

不景氣よけの貯金

讀取 牧野元次郎

一、不景氣だから貯金なんか出来ない
 なんだと、よく人は申しますが、大變な間違ひです、不景氣なら
 不景氣よけに、儲けやならなければいけません、それば必ずやつて
 行かれるものです、精神一到何事か成らざらんや、一つやつて御
 覽なさい。

二、おやりになると、いやでもニコくして参りますよ
 先づ一萬圓の貯金を始めたと致しませう、大儲けをお願ひして、
 是非満期までやり通さして貰ふのです、大儲けの不景氣をお力で
 必ずやり通さず、戻ぐつてはいけません、そう儲けるのです、
 さうして一生懸命に商賣に勉めるのです。

三、そうすると妙なもので
 もう一萬圓が溜つたやうな氣持になります、まだ始めたばかりで
 すが、そして何となくニコくして参りますよ。

四、大將此頃馬鹿にニコくしてあるな
 何かうまい事があったのだらう、あの様子なら品物を貸してやつ
 ても間違ひはあるまい、など、問屋の信用もつてきます。

五、ニコくすれば商賣は儲るよ
 其ニコくする手始めとして貯金をやるのです、やれば必ずニコ
 くします、ニコくすれば商賣が繁昌します。
 ニコくと笑ふ門にはよけてゆく
 貧乏神のうしろ姿よ

六、貯金は全く不景氣よけ
 貯金すれば儲けが聞きます、ニコく出来ず、此の貯金を
 預けてニコく貯金と申します、先づニコく貯金を始めて
 どうぞニコくして下さい、儲けがニコくすれば、不景氣
 風なんか直ぐどこかへ行つてしまひますよ。

一週でやめよ
と願ふた貯金
すめば尚増
す又一週
信太郎

新設銀行の貯金
預金してよ
不動貯金に
伏見 翠の家

三善吉房の
ニコく貯金
儲か御返り奉
が来る
高岡 信太郎

三善吉房の
ニコく貯金
儲か御返り奉
が来る
高岡 信太郎

三善吉房の
ニコく貯金
儲か御返り奉
が来る
高岡 信太郎

三善吉房の
ニコく貯金
儲か御返り奉
が来る
高岡 信太郎

府 京 東



。答るす用使らか會議の暮年六和昭 。る居ていつ近に工竣どん路がるあで中築建下日 (車下門田櫻電市) 堂事議會國新 (1)
 積面でのもたつたと開公年六十二治明がたつあで場兵練衛近後新維で地那の溝溝とも (車下谷比日電市) 園公谷比日 (2)
 。所る知の人世に既に光風るたし模に然自の其りあでの代近も就は備設の中園坪萬五
 日三月二十年三和昭 業開 下段九區町麴市京東 地在所 店支段九行銀金貯動不 (3)

府 京 東



内市てしと點起を野野上・橋新・京東。一洋東に正人萬三十均平客降乘の日一。工竣に年三正大坪餘百六千五坪建てつあで築建式スシラフニルるたり採を長特の場車停名著米歐 (車下門倉田和電市) 驛京東
 。錢十五圓三錢し要を開時八。るあが車動自覽遊るす遊題を所名るな主

府 京 東



。るあで越三は物建い白るえ見に左。る居てめ占を欄中の都首本日もで今現がた居てつなと標元裡里の戸江はに代時府幕（車下橋本日電市）橋本日

府 京 東



- (1) 銀座通り（市電銀座四丁目下車）
時代の尖端をゆく市内百貨の場所。新橋から京橋まで約八百
程の街路を隔する。この名称は慶長七年（1600）からこの銀座
に移し、銀を吹き貨幣を造造したのに起源したものである。
- (2) 歌舞伎座（市電歌舞伎座前）
明治二十二年福地源一師匠の首倡によつて設立したもの。純
日本風の奇美を誇る建築は日本第一の劇場。
- (3) 不動貯金銀行日本橋支店
所在地 東京市日本橋區本町角
開業 大正三年四月一日
- (4) 三越（市電市町下車）
享保八年三井利定氏が此の地に呉服店を開業したので始まり
で代々越後屋と號し、後三井呉服店、三越呉服店、三越と期
次改稱し今日に至つたもの。



頭取 牧野元次郎氏



(末月六年六和昭) 餘額億五 額總金預 圓萬百八 金本資 日十月九年三十三治明 立創 門大芝市京東 地在所 店本行銀金貯動不

不動貯金銀行

は今預金五億圓を擁護し、一般民衆の貯蓄機關であると共に、一方金融機關として我國銀行界に輝ける光輝を放つて居る。同行はたゞ貯蓄銀行として最大の預金を有し、堅實無比の内容を有つて居るのみならず、之れを本邦一流銀行に較ぶるも其の遜色も認めない。爾將來に向つて無限の發展力を持つる組織と經營とは洵に國家の至寶と云ふも過言でない。即ち同行獨特の「ニコ」貯金は現社會に庶民金融の道を開拓するもので、既に定評がある。昔々全國貯蓄銀行大會席上井上大祐大君はこれを激賞された。而して今日迄に貸出したその金額は實に六億の巨額に上るといふ。中小産業が資金を講へつゝある今日、如何に同行が此の方面に貢献して居るかを物語する事が出来やう。同行の創立は明治三十三年九月十日、當時の資本金僅か十萬圓、しかも何等の財閥的背景を持たず、全く獨自の境地に立つて未だの世を拓き出すこと迄に三十年、不撓不屈の努力は終に報ひられて年々歳々信用の大をなし、愈々業績の隆盛を見るに至つたのであるが、あくまでも積極的同行は去る大正十五年十月預金五億圓計畫を發表し、その一糸纒れざる組織と熱誠とを以て此の計畫の實現に勇往邁進した。當時一部の識者は此の計畫を無謀なりと笑つたが、此の計畫は其の後々進捗して豫定より半歳早く即ち昭和六年上半年期に其の實現を見るに至つたのである。創立より僅かに三十年にして此の大業を遂げ同行の名聲は今や太陽の如く輝き、洵に其の名の如く「不動如山」名實とも東洋一の「大貯蓄銀行」となつた。さて同行をして斯くの如く輝き、洵に其の名の如く「不動如山」名實とも東洋一の「大貯蓄銀行」となつた。さて同行をして斯くの如く輝き、洵に其の名の如く「不動如山」名實とも東洋一の「大貯蓄銀行」となつた。

大黒天の守護 大黒天は守護神として、其の名聲は不動貯金銀行の名とともに全國といふ程知られ、津々浦々にまで傳へられ、其の功徳を讃へ、國民生活安定の基礎を固め、信仰に終始して知足安分、貯金報國の熱情を燃ゆる其の大人格、社會教育家として、將又中産階級の救世主としての氏の聲守である。

ニコの主義 氏は三十年間説き來つたところの處世哲學で、大黒天を守護神とする現代實際の教、即ち日々三思三省して萬物の恩を感謝し、共存共榮の精神を以て、天下六十餘萬のニコの信者によつて日夕三思三省して居る。此の教へは牧野頭取が自ら個人生活は勿論、事業經營の上にも實踐したもので、同行の今日ある所以、又同行が無限の發展性を持つ所以等悉く此のニコの主義によるのである。

大黒天のお話 牧野頭取の述懐によれば、同行今日の隆盛は全く人間業ではなく、大黒天の守護の賜である。財界幾多の波瀾をばじめ頭取個人としても幾度か不思議なる大黒天の放すところの出来たものとなり、同行は全く信仰の基礎の上に置かれ、大黒天の教理をのま、事業經營の根本精神とした「大黒天の銀行」まことに同行は神聖の域にまで到達し、愈々「不動」の大磐石を築き、行は神主預金者が一體となつてつくる大衆主義の王国に世界いつこの國にも現れたい一大理想地である。

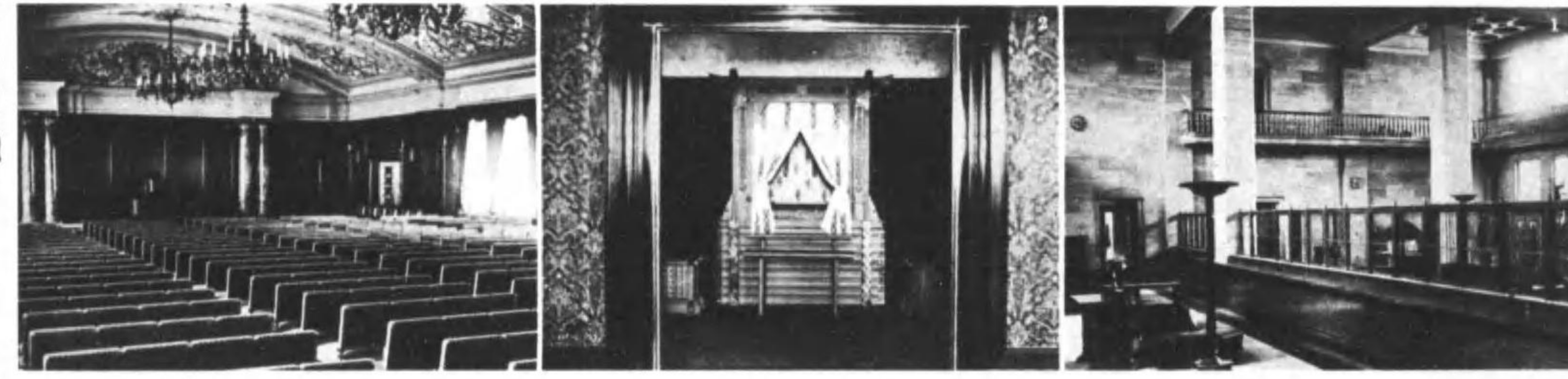
同行の業績 魁大なる預金はこれ皆庶民階級の血と汗の結晶であつて之れ期す同行の信用の偉大であるかを雄辯に證明するとともに、國民の勤儉貯蓄に如何に偉大なる貢献を齎しつゝあるかを察知することが出来る。

△資本金 八百萬圓
△政府供託 一億五千三百八十五萬圓
△積立契約 一億七千四百十四萬圓
△預金總額 四億六千五百一十一萬圓
△貯金者配當金 九百三十四萬圓

一、定期預金 三千四百六十九萬圓 (七分五厘)
一、普通貯金 六百二十六萬圓 (二分三厘)
△本期に於けるニコ貯金新規契約高 三億九百四十三萬圓
△本期に於けるニコ貯金満期支拂金 九千七十二萬圓
△本期末に於ける預金者數 六十三萬七千九百六十三人

一、別設積立金 四百二十二萬圓
一、貸付準備金 四百二十二萬圓
一、行員恩給給付基金 四十萬圓
一、後期繰越金 七十一萬圓
合計 八百八十三萬圓 (貯蓄資本金割合十四分七分)

◎放款狀態 (積立金は資本金割合十四分七分)
の預金總額に對する割合
一、國債 一億五千二十八萬圓 (三割二分六厘)
一、社債 (特種銀行特種社債) (二分八厘)
一、債債 一千二百九十四萬圓 (二分八厘)
一、貸付金 二億六千五百十四萬圓 (五割七分五厘)
一、預金及現金 五千万二千三百萬圓 (一割一分二厘)
△當期買戻純益三百八十五萬七千圓、其の中二百萬七千圓を國債の價格引下げに充當 (一割一分二厘)
△當期買戻純益三百八十五萬七千圓、其の中二百萬七千圓を國債の價格引下げに充當 (一割一分二厘)
△當期買戻純益三百八十五萬七千圓、其の中二百萬七千圓を國債の價格引下げに充當 (一割一分二厘)



一、定期積立金者に對する貸付金 二億六千九百九十二萬圓 (九割八分三厘)
一、預金者に對する貸付金 三百二十二萬圓 (二分二厘)
一、不動産抵當貸付金 百十八萬圓 (七厘)
合計 二億六千六百三十三萬圓
△本期に於けるニコ貯金新規契約高 一億一千四百一十一萬圓
△本期に於けるニコ貯金回數高 六千六百九十九萬圓
△本期末に於けるニコ貯金利用者 十二萬七千五百四十四人
△本期末に於ける貸付總件數 二十二萬一千三百件
同行の堅實なる内容と經營方針は即ち左の如くである。

◎準備金 二百三十萬圓
一、法定準備金 二百三十萬圓

府 京 東



士俠・衛兵利屋野天め始を短長野淺向に内境。る居てれら如に固全名の共て以を所墓の士七十四等職良石大。刺名の一の寺大三宗割曹戸江に共と寺泉總・寺松青し號と寺松萬（車下前寺岳京電市）寺掛泉。るあが墓の等創基

府 京 東



(1) 増上寺（山門）（市電増上寺前下車）
關東淨土宗の總本山で所謂十刹林の冠首で、藤山と號し上野寛永寺に次ぐ巨刹。明治七年及び四十二年の兩度炎上して、舊時の建築物は唯この山門あるのみ。

(2) 徳川家靈廟（市電増上寺前下車）
芝公園内にあり。徳川二代・六代・七代・九代・十二代・十四代將軍の墓及び村昌院の墓があり、廟所の結構は日光に次ぐと云はれて居る。

(3) 愛宕山（市電愛宕山下下車）
東京灣の隅に指板の間に收め、觀月、納涼の勝地で、標高二十六米、城南第一の眺望地。山上に愛宕神社及び東京中央放送局がある。



(1) 不動貯金銀行乃木坂支店
所在地 東京市麻布区新橋土町
開業 昭和五年三月十七日

(2) 青山御所 (市電赤坂表町下車)
舊藤山藩邸及び舊紀州藩邸地、明治七年御所となり、大正天皇東宮にあらせられる頃御住居遊ばされた。今は秩父宮御殿新築せられ、又澄宮御所も設けられてある。

(3) 赤坂離宮 (市電四谷見附下車)
紀州侯の邸址、明治五年離宮となり、明治六年明治大帝の御居居として新設を御勅諭あらせられた御由精の地。



(1) 護国寺 (市電護国寺前下車)
神代山と號し悉他院と稱す。新義真言宗に屬し東京第一の巨刹。元禄年中徳川將軍綱吉の母桂昌院邸の本願によつて建立されたものと云はれ徳川家光の守佛地増一臂如意輪觀音を本尊として安置してある。

(2) 不動貯金銀行白山支店
所在地 東京市本郷区駒込
開業 昭和二年十二月五日



(3) 傳通院 (市電傳通院前下車)
浄土宗無量山壽壽寺と號し、關東十八僧林の一たる名刹。應永二十年了覺上人の開基。後風俗の生母傳通院を祀つてから寺院が改められたもの寺内に豊原為頼守天相院千穂の墓がある。

(4) 植物園 (市電池ヶ谷町下車)
元は學園と稱し享保六年徳川幕府が設けたもので、徳川の栽培所であつた。今は東大理學部附屬植物園で、内外諸種の花卉を集め温室を備へ四季不滅の花を培養して居る。

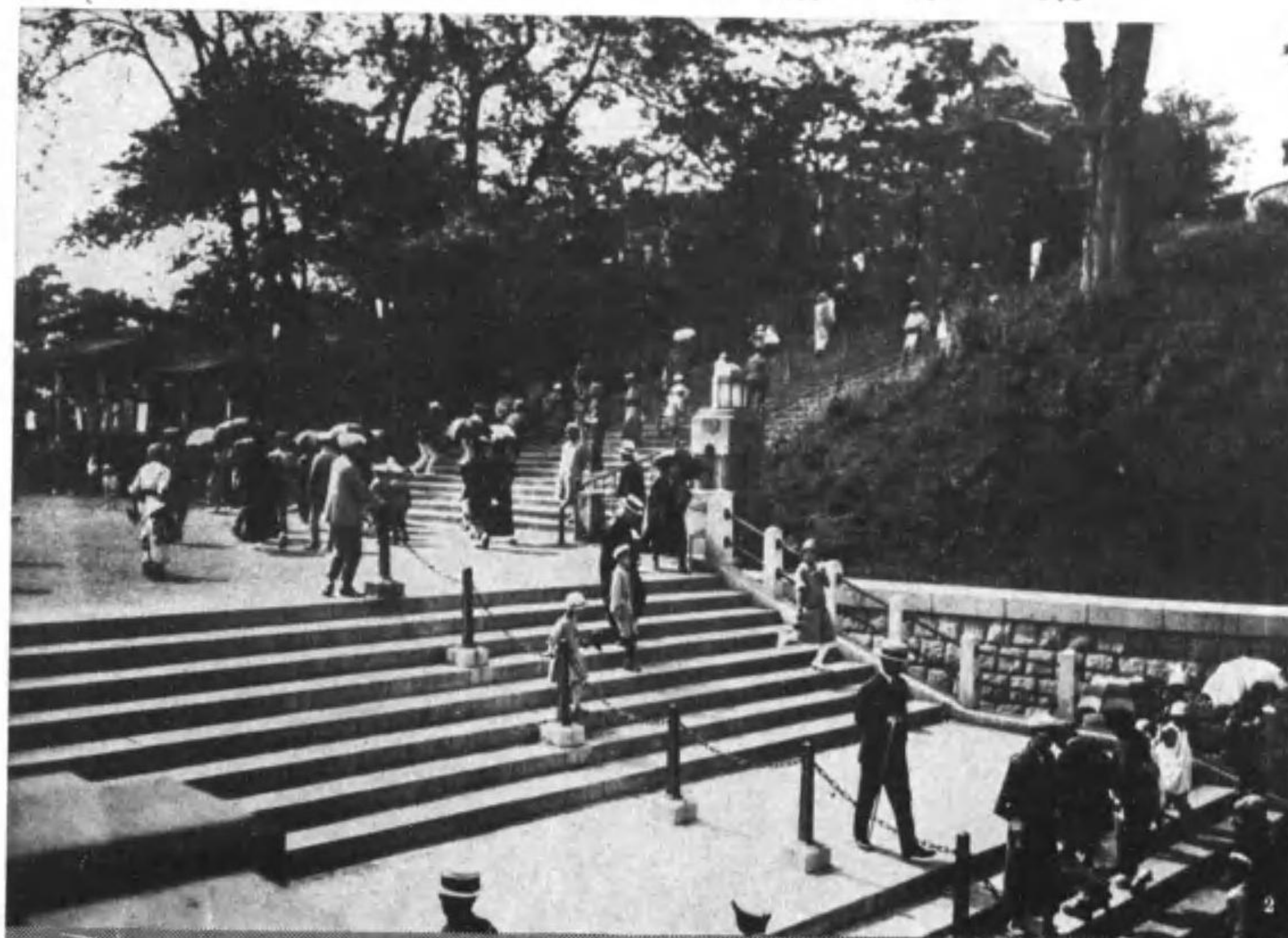




(1) 上野東照宮 (市電東照宮下車)
上野公園志ヶ岡に在り、寛永四年の建立。後光天皇の勅願、歌仙類等の國寶を有し、境内には酒井雅樂頭殿上の唐銅燈籠及び當時の諸侯寄進に於ける多数の石燈籠がある。

(2) 地下鐵道
昭和三年一月上野淺草間開通。我國最初の地下交通機關。

(3) 帝室博物館 (市電上野公園下車)
上野公園御本坊の跡に建てられたもの。明治十九年宮内省の管理する所。大正十二年の震災で本館は崩壊し今は主として表慶館のみとなつて居る。



。るあでもたれらて建に年十三治明りあに内園公野上 (車下園公野上電市) 備網郷西 (1)

く多蹟古くよ望眺み富に絶雅遠幽く多木樹てしに段丘帯一内園で内地の寺永寛の昔 (車下園公野上電市) 園公野上 (2)

。薫芭——か草淺か野上は錦雲の花。いなも上の此觀美ていびなたが霞の花所る到は春に特。地帯の一第下都

日一月五年六正大 業園 前園公野上區谷下市京東 地在所 店支野上行銀金貯動不 (3)

府京東



年毎で物建大なる一の物名京東たし費を圓萬十五百餘米十四約さ高坪千四坪建 でのもたし工竣年八正大は物建の在現 鐘技圖 (1)
。る居てめしせ喜狂を家角軒催開を力角大圓二の (所場夏)月五 (所場春)月一

。る居てしと尊本を痛著昔觀の四層五金黃し屬に宗台天でのもいかに立建の氏川徳年三安慶 (車下門雷電市) 草寺淺山龍金 (2)
。いなが串るゆ紙の障香てしと繻結に常寄裳しく厚を仰信の人世々益れ免を害災の其に的蹟奇に共と塔重五に災害大東關の故
茶——寺草護する發稿に木の花

日二十月二十年二和昭 業開 員丁四國兩東區所本市京東 地在所 店支國兩行銀金貯動不 (3)

府京東



つもと (金層の人萬十數) 圓萬百爲るす念記に速永を災震ひ巾を圓の々人たけ遂を死いし慘等是。所たし死慘に處此が罹生の萬六際の大震東關の故で地の廠製被軍陸舊 (車下町網横電市) 堂念記災震
。る居てれさ置安てしと體本がと薄々銘の々人の其と骨遺の人萬六はに中の堂。堂念記のこも印がのたれさ設建て



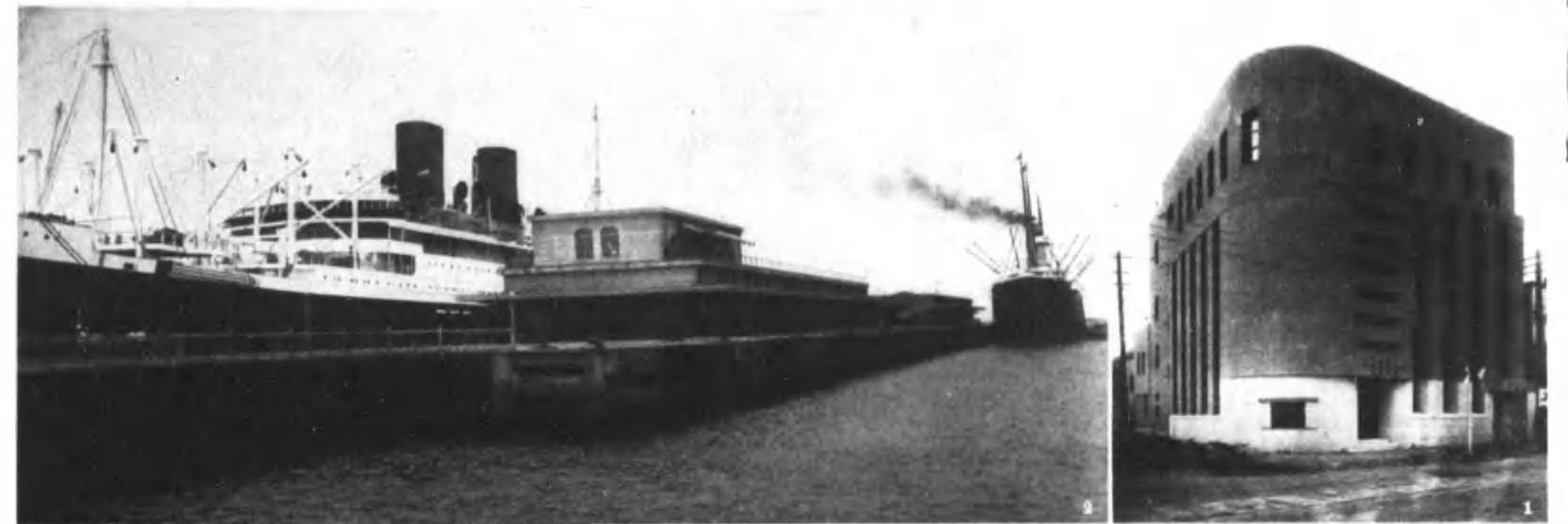
(1) 麩戸天神 (武本橋馬車下車、西北七〇米餘)
寛永三年の創建で社殿を極めたものである。太宰府に擬し境内に池を穿ち二個の太鼓橋を架す。池畔は都の名所として聞え、紫白の藤多く花房の長さ丈餘に及ぶものがある。毎年一月初卯の日、一月二十五日は倉橋の神事があり賽馬境内に充つ。
(2) 新築なれる明治神宮球場 (山ノ手線原宿下車)



(3) 村山貯水地 (西武鐵道東村山驛下車、自動車あり)
大東京の上水道の貯水池、満水面の長さ一里、周囲三里、百十萬坪、上下の二大池の貯水量六億五千萬立方尺、正に東洋一と云はれて居る。池畔は山麓に湖まれば山紫水明の勝地である。
(4) 飛鳥山公園 (東北本線王子驛下車) 關野川氏の城址、明治六年公園となる。古くより櫻の名所(八百七十株)、面積一萬三千餘坪、西の方芙蓉の寒嶺を仰ぎ北に筑波の紫峰を望み北郊第一の勝地。



駿丘の城陵神。る来出が事るむ杖に望一を野平の野嶺武なか豊香の土はらか駿丘の此し面に南東は陵脚で墓陵脚ふ給りま綱にへ水靈英の皇天正大 (在車動自合乘店口入道参りよ驛川淺緑中央) 陵御摩多。さめしき正を標ら自てしを者拜参はと木碧常の多數る溝線と利砂川摩多なから清の坪百七約



(1) 不動貯金銀行横濱支店
所在地 横濱市常盤町
開業 大正五年四月一日

(2) 横濱埠頭 安政年間開港場となつてから七十餘年、當時百戸の一漁村も今は日本第一の貿易港となつた。近くは灣内の船舶政止場の光景を一時の中に集め、遠くは房州の繁華を指顧の間に望み眺望絶佳である。

(3) 川崎大師 (東海道線川崎駅下車)
金剛山平間寺と號し、眞實宗新義派の本山で、本尊の大日輪は厄除大師と稱し靈驗の故を以て都郷の崇高厚い傳である。近時境内の東方は大佛公園となつた。



(1) 横濱競馬場 (市電山元町電停より八〇〇米)
日本六大競馬場の一であつて、明治三十八年の創立で日本レース倶楽部に屬して居る。昭和五年改装全くなり春秋二期の大競馬にファンのおもむきを擧げて居る。

(2) 鶴見總持寺 (東海道線鶴見駅下車、西南約一軒)
曹洞宗の大本山で、境内二十萬餘坪、前に東京灣を望み、後方一帯の地は青松亭々たる丘陵に圍まれ眺望が頗る佳い。

(3) 榑郎山公園 (東本町電停より一軒)
近時横濱開港に努めたる井伊掃部頭に越ひし地で、榑郎山と呼んで居る。園は即ち其の園像である。



縣川奈神



不動貯金銀行横須賀支店
所在地 横須賀市旭町
開業 大正九年一月九日
箱根蘆の湖 (箱根登山鐵道、自動車)
湖畔曲折して風光の變化に富み、周囲の緑樹は一層の風致を添ゆ。
其の形風の如く西の方途に富士の秀峰を望み、其の影時に湖面に映
ずる事がある。之を箱根の鏡と富士と云ふ關東屈指の大湖である。

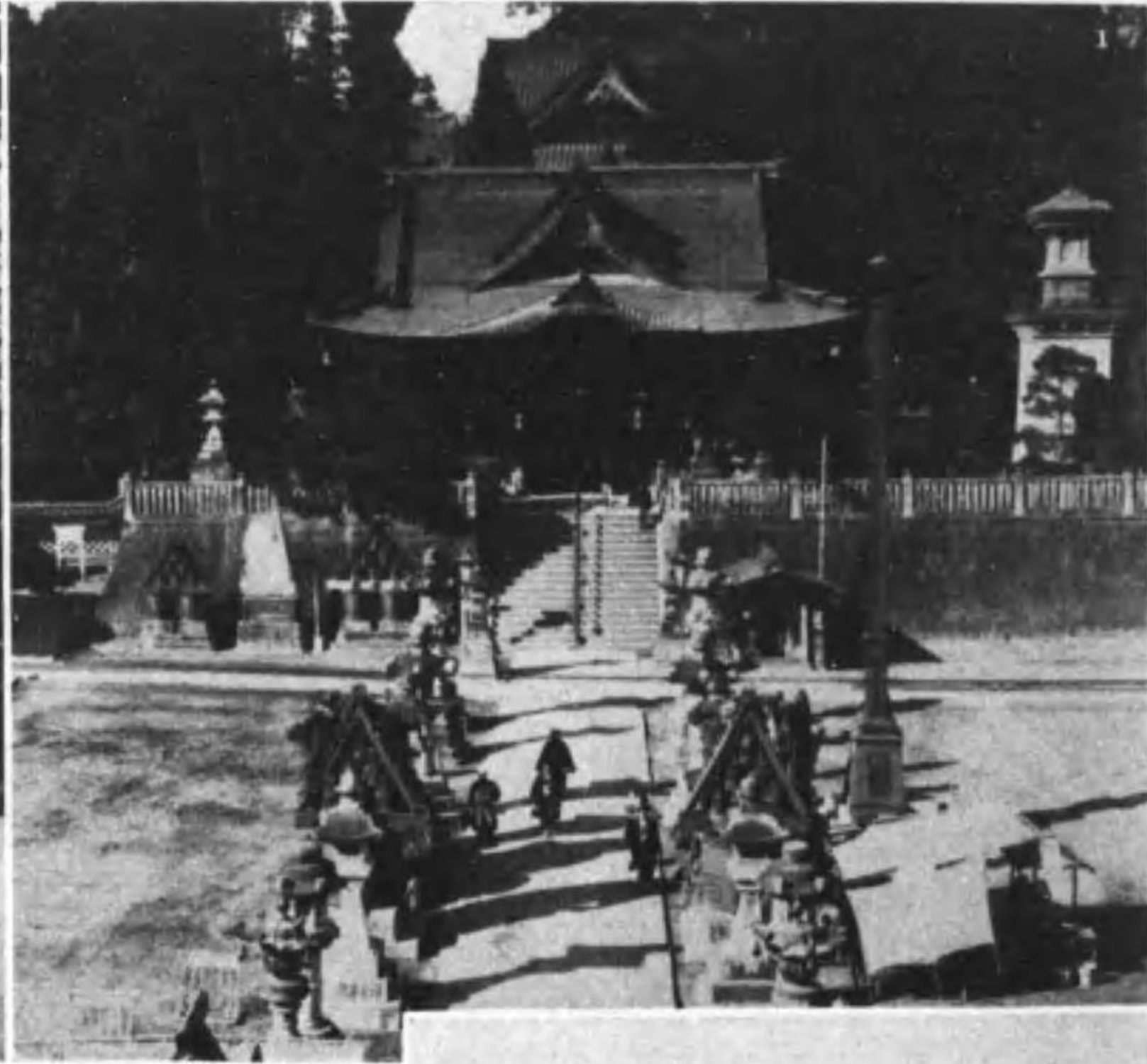
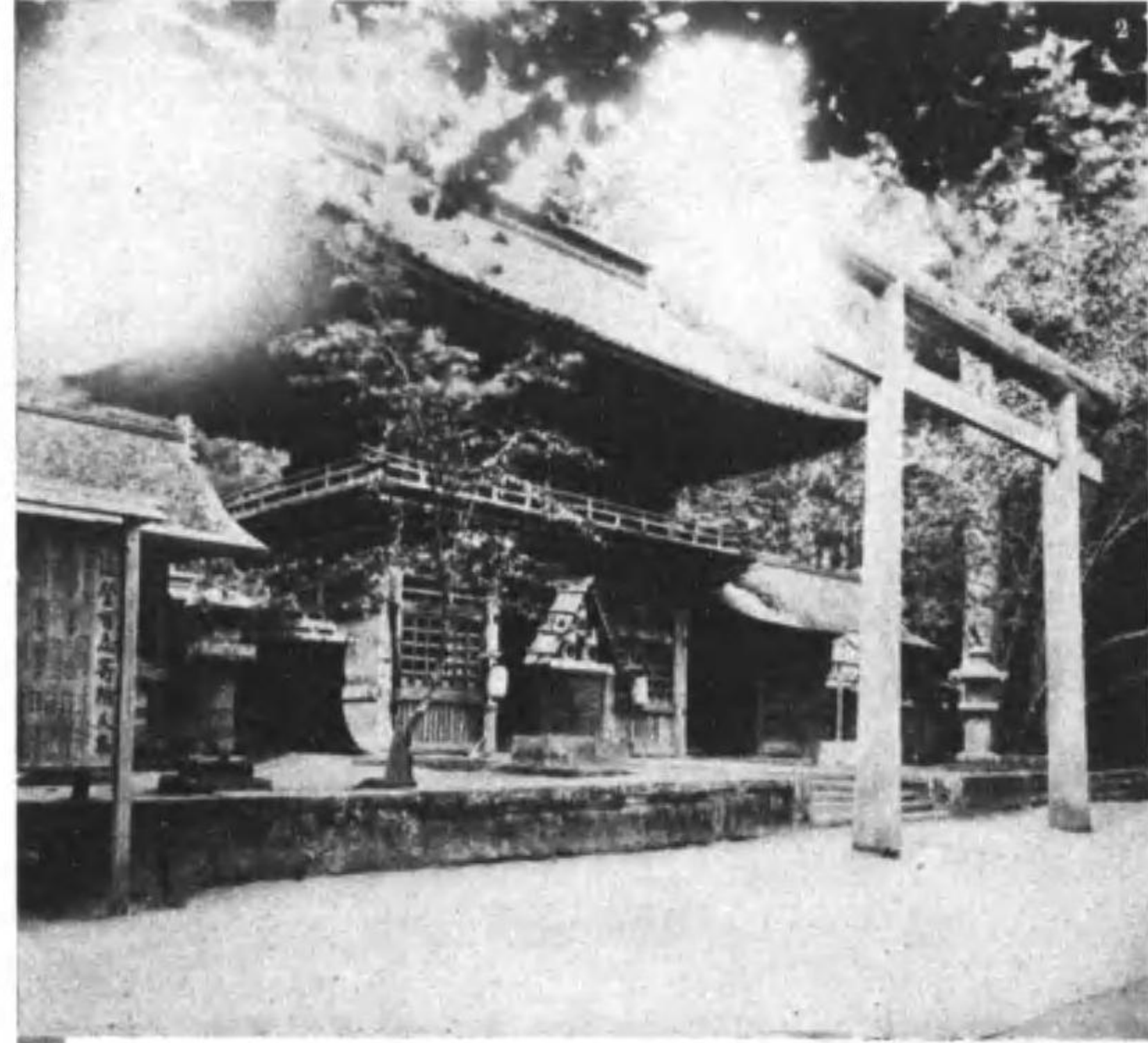
縣川奈神



(1) 建長寺 (鎌倉北約二軒)
禪宗にして巨額寺と號す、建長五年北條時頼の創建。鎌倉五
山の第一である。
(2) 鎌倉宮 (鎌倉より東北約二軒)
大塔宮護良親王を祀る官幣中社で、社背に土平あり、二段の
石階で廣さ約八疊、建武年間親王此處に幽閉せられ同二年七
月建長寺遷座の事手に罹り幾し給ふと傳へられて居る。
(3) 鶴岡八幡宮 (横須賀鎌倉より約半軒)
應仁天皇を祀る國幣中社で、石段の下東方に仁徳天皇を祀る
下の宮がある。昔靜御前頼朝の命に依り舞を奏せしは此の社
殿である。又石段の左側には承久の昔鶴ヶ岡の別當公範が實
朝を刺したる有名な銀杏の大樹がある。
(4) 圓覺寺 (横須賀北鎌倉下車)
弘安五年北條時宗の建立にして佛光大師の開山。鎌倉五山の
第二に列し禪宗開覺寺派の本山である。



縣 葉 千



が師大法弘り依に願助の皇天順元仁弘は王明助不聖大尊本寺勝新 (車動自・車電 軒一約東りよ驛田成頼田成) 尊助不田成 (1) の堂に常香賽り連に夕りよ晨は壁の摩護。るあで麗社構結葺板綱り造屋母入而五間五は堂本れらへ傳とのもたし刻彫に下の禮三刀一。る居てち滿に外内

造流は殿本り造屋母入は殿拜てしに壯大幣官る祀を命主津經神の登經土國は神祭 (車動自 六軒三東驛原佐頼田成) 宮神取番 (2) 。るあが所名のどな石葉い高名に議思不七島鹿び及閉雲香るな社旗・池の洗手御な例清。る居てび寂神ち立び並杉古松老内城り

たふ敬を龜生の萬十内領し新直に公卿家軍將代西川徳てしに性儀を族一身一 (車動自・車電 軒四西りよ驛田成頼田成) 堂靈吾宗 (3) 。るあが宅舊の吾宗に近附。いたが事るえ絶の華香に常で所たつ祀を吾宗民義る

島 大 豆 伊

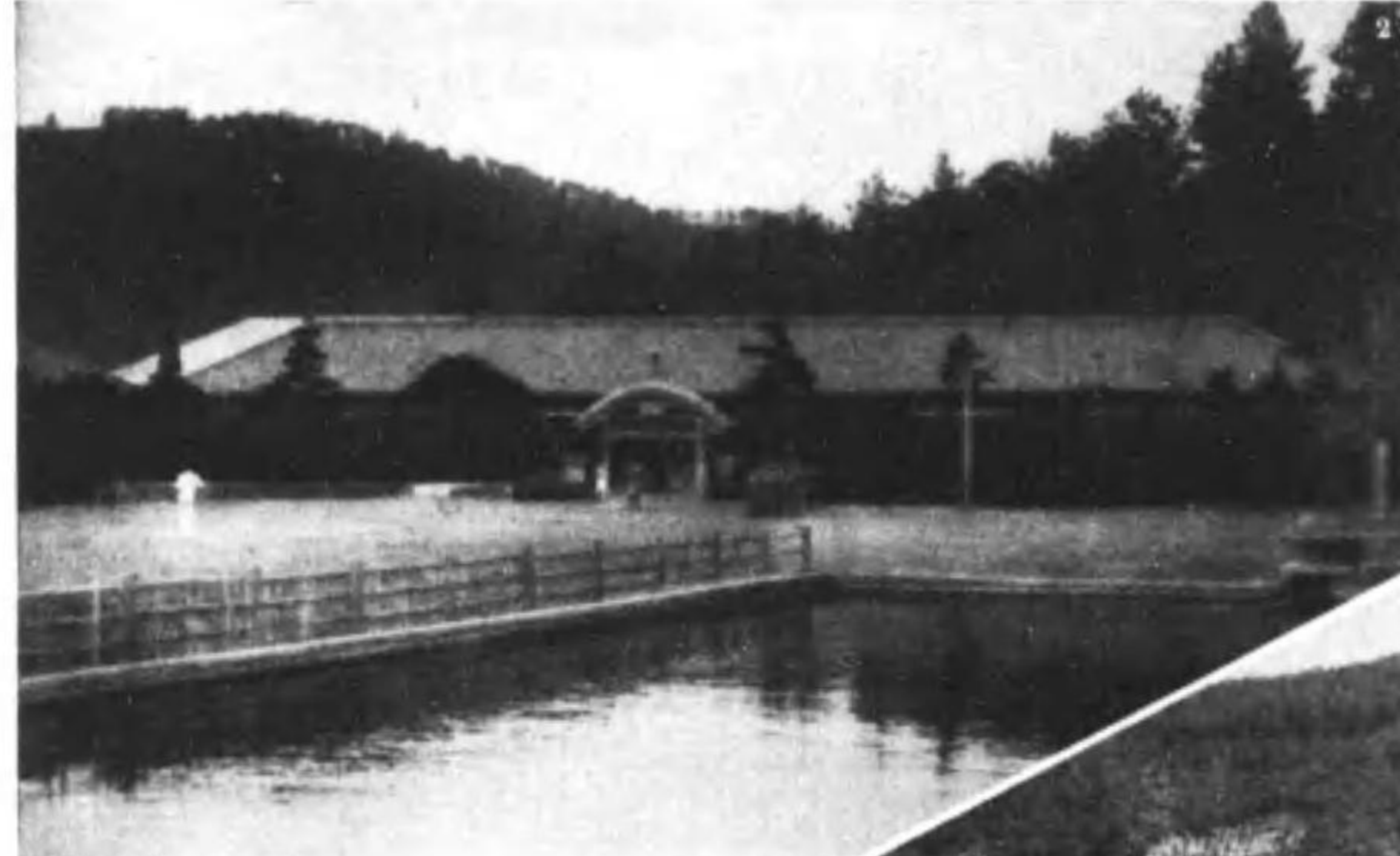


(1) 波浮の港
 (2) 大島三原山の墳壇(御神火)
 (3) 大島風俗

大島民話

私し千大島御神火育ち
 胸におも火は絶えはせぬ
 ついち梅は御山を照らす
 殿の御船は瀬照らす
 色は黒いは親ゆづり

ハイノハイ



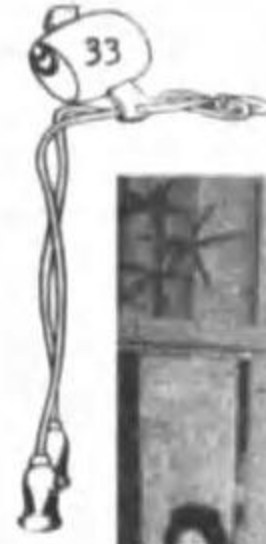
牧野元次郎先生遺像安置所の記念誌 (圓覺寺内)



- (1) 牧野元次郎先生遺像安置所の記念誌 (圓覺寺内)
- (2) 久留里小學校 (久留里線久留里驛下車) 町の東南小高き山の麓にあり、眺望絶佳。不動野金銀行頭取牧野元次郎氏の寄付金に依り大正十四年十一月開校下第一の稱ある宏壯な講堂が竣工した。
- (3) 圓覺寺 (久留里線久留里驛下車) 慶長九年の創立にあり古刹。大正十年山嶽崩壊のため埋没せしむ不動野金銀行頭取牧野元次郎氏が數萬圓の復興費を寄付して再建せしものである。
- (4) 牧野元次郎先生遺像 (圓覺寺内)



- (1) 銚子海岸 (總武線銚子驛下車) 大通筋
一ツトセ 一番づいに横立て、川におし込む大矢聲、此の大漁船 コリヤ
二ツトセ 二葉の沖から外川まで、漕いで押し込む大矢聲、此の大漁船 コリヤ
三ツトセ 皆一同にまゆをあげ、通せ船の賑かさ、此の大漁船 コリヤ
四ツトセ 夜なる笑いても快き餘る、三ばいしのおぼろ、此の大漁船 コリヤ
五ツトセ いつ来て見ても干潮場は、空間も陸間も更れない、此の大漁船 コリヤ
- (2) 木更津海岸 (房総線木更津驛下車、自動車) 遙かに江州の連山や富士の秀峰が眺められ眺望絶佳、海は遠淺、附近に多岐船を運る善善社がある。
木更津 甚句
マ、木更津照るとも、東京はくもれ、可愛い男が
ヤツリキツサイヤレコラドコイ
コリヤコリヤ、未だ見えぬ
- (3) 清澄山 (房総線安房天津驛より北寄、自動車) 海拔三六三米、房総半島の大觀を及膝に眺め眺望絶大、山頂に清澄寺がある、新義真宗にして千光山金剛賣院と稱す。



(1) 大洗海岸 (電車渡水) 大洗海岸 (2) 磯節踊り

磯節

大洗のち花の波里三へ東てれ懸を戸水
 濱の磯るな津伊男湊の情磯平の賀
 とのぼのほすまゑ見が松よまさ洗大は所名で磯
 巻の石藁仙よく行てげあき巻を帆の反五十三

(3) 袋田の滝 (水戸市南東郡田代半軒)

○二一さ高ふいもと瀧の度四らからことす下落に段四布瀧
 住も般景風の後雷く多樹風崖雨米〇八幅米
 練白の瀧す出き引布の田袋んけきみ包に世のついで
 園光川徳

(4) 筑波山 (試波道試波道) 山波筑

で峰秀の尺千三接海たれま跡に歌に詩らか昔てしと山名の東關
 双く悉帯標河山の州八關でのいなが嶺峰ぐ次に之に邊四るあ
 るあで大壯る船望眺り翠に裡の畔
 したはげかすまにげかみが君どれけは山築山麓山波筑
 集今古

(5) 笠間荷 (水戸市北一軒) 笠間荷

るあてれら知てしと場賽の東關ぐ嶺に動不の田成。壯安宇社
 祭午初の月二舊は日祭



(1) 鹿嶋神社 (成田縣佐原より貞崎)
 此鹿嶋命を祀る官幣大社で、東國の名祠である。神武天皇
 即位元年の御建。天皇東征の初め殊に靈祐ありしを以て其
 の功勳を追崇し東方諸國の鎮護として此の地に祭りしもの
 傳へられたる。

(2) 水郷潮来 (成田縣佐原下車)

昌浦花吹く民謡に名高い水郷である。情緒面に豊かにして
 名物「あやめ鮎」は板橋を垣むるに充分である。

(3) 好文亭 (常磐線水戸駅二軒院、電車自動車)

日本三公園の一常磐公園の西端にあり、結構古雅。樓上を
 望むと、千波湖を下臨し、近く徳山及び丸山と相對
 し、是に浪波か加波の響けを仰ぎ、展望頗る佳。園の東北に
 有名な梅林がある。

縣 木 枋



。るあが寺禪中び及詞宮中に畔湖 。るあがのもるな新に常望眺の畔湖上湖に用に風は或に夕に朝朝明光風 。る遠を遠湖樹緑し面倒を影山波碧く如の鏡明るへ拭雲一光水 (りあ車動自りよし返馬) 湖寺禪中

縣 木 枋



(1) 神 橋 (日光)
 大谷川の清流に架したもので長さ十四間幅四間建生堂、欄干は欄干の金具は悉く鍍金の
 針子彫、日光の結構は先づ此處より始まる。

(2) 陽明門 (日光)
 念を患し内を極く華嚴關光輝輝照るものをして恍惚日の尊る、をわねしむる所から
 世に日暮門といつて居る。八尾屋造りの四方に軒唐風を附けた欄干、柱は皆樟の白木
 の圓柱、大井には皆野安備、昇龍八方脱み野野禪守信平の降龍四方脱みの畫がある。

縣馬群



東照宮所るつ落に倒影山てみ澄水り在に中山名峰 (軒八路登りよ保香伊) 湖名權 (4)
るあでく知る觀を拂の容美に濱の海



(車電りよ群川遊線南越上) 泉温保香伊 (5)
目を嵐翠の城赤たしと輻輳らか山の神子・子野小米〇五六拔海し位に腹中の山連名峰
るあで地通好の景趣くな事る申越を度十八くし涼夏、住居光風てめ牧に間の境

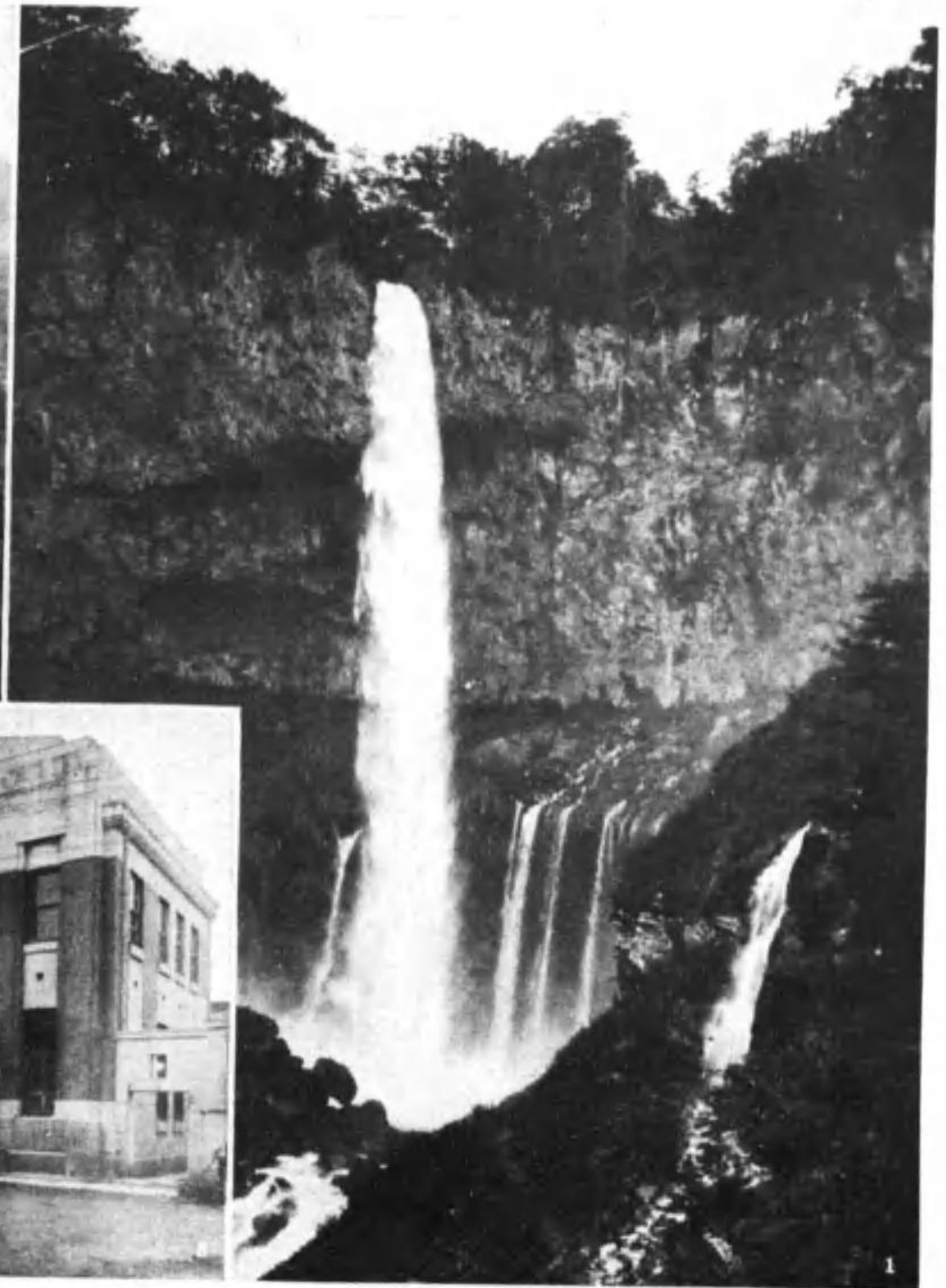
(1) 妙護山 (信越本線松井田驛より自動車)
海拔一、〇四米、金山白雲、金剛、金嶺の三峰に被れ各山巒々たる奇峭
天表に聳え石門の妙景野鳥を極めて居る。要するにこの山は火山岩
の奇秀を極進するものである。圖は第二石門の奇觀。

(2) 不動貯金銀行前橋支店 所在地 前橋市野町角
開業 大正九年二月一日

(3) 草津温泉 (草津電線、自動車)
「お醫者さんでも草津の湯でも」と語はれ古來有名なる温泉で、温泉の發
見された年代は詳かでないが建久四年源頼朝三原時が此地の温泉に浴し
てより聲願に揚つたと云ひ傳えられて居る。



縣木栃



(1) 華嚴の瀧 (日光)
日光七十二瀧の五日本三大瀑布の一で、中禪寺湖の水流
れ、凡そ七八丁大岩缺く所より直下する事約百
米、水聲鏗鏘として耳を聳し水聲速りて咫尺を辨せず、
真に壯觀を極め其の名は昔く天下に知られて居る。

(2) 鹽原温泉 (鹽原電氣軌道)
山槽四周の中に、雪川の清流に秋の景勝の地を占むる東
北屈指の一大温泉郷である。
鹽川は深深く水清く奇岩絶壁對する所に見られ、橋あれば
瀧あり其の奇勝一々探るの趣なし、特に秋の紅葉の美は
天下に名高い。

(3) 不動貯金銀行宇都宮支店
所在地 宇都宮市大工町
開業 大正九年一月十四日



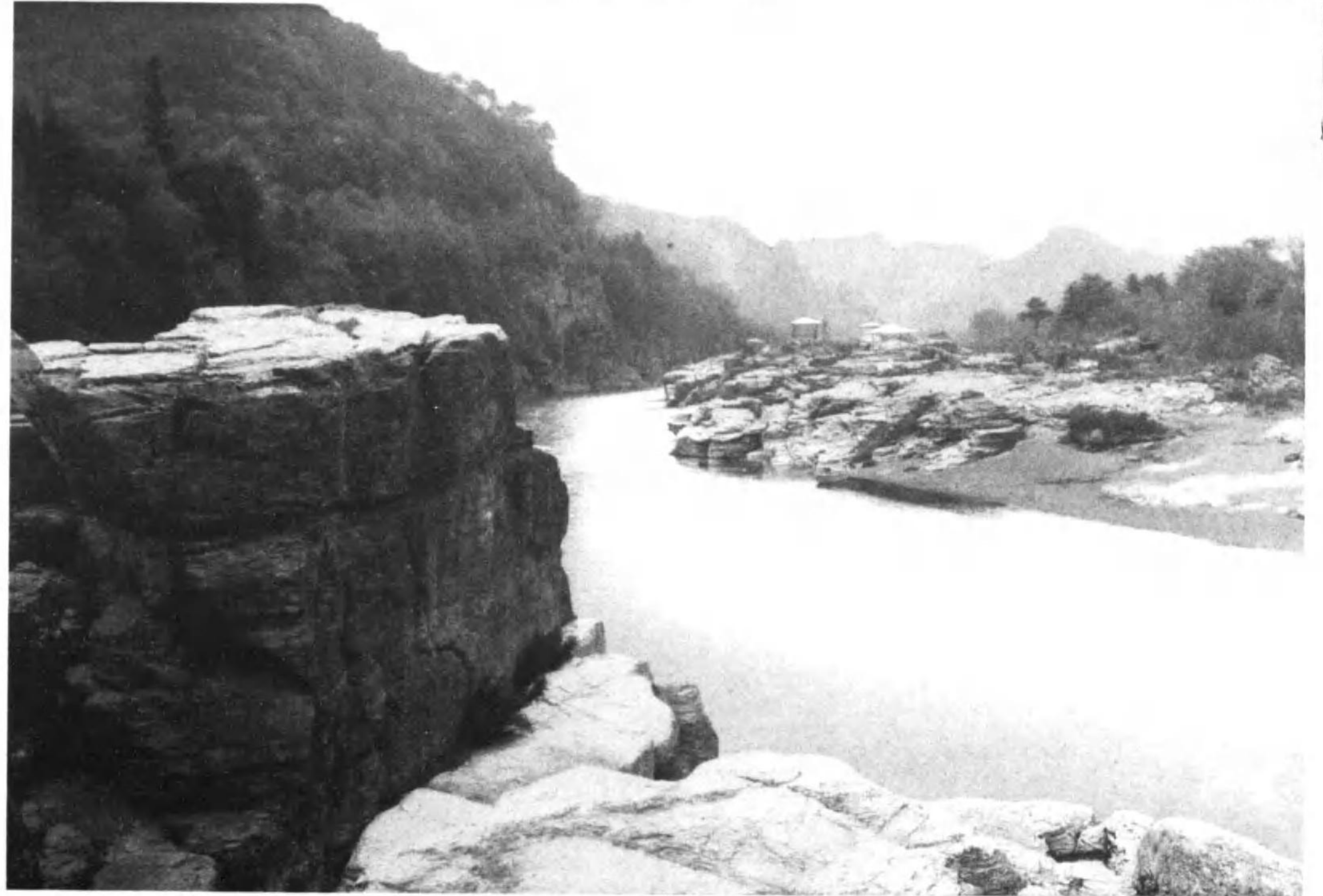
奥羽篇

信州
善光寺
の
鳩と牛

林田の
笹屋周



縣 玉 埼



。る居てれは云と堂教然天の上學買地は帯一近附りあ稱の壁赤又秩で谷溪の流上川覽 。るあで地存保物念祀然天の定指省務内 (車下遊長道鐵又秩) 游長又秩



【内城區店支同静】之空野中(8) 子榮崎白(7) 一英崎白(6) 子よと野中(5) 覺 藤道(4) 夫義澤牛(3) 吉東畑小(2) 【内城區店支雲仙】 子** 森(1) 【内城區店支横前】 郎太野淺(17) 【内城區店支東横】 明道澤深(16) 昭 森(15) 【内城區店支松濱】 二四見田鍋(14) 昭 田原(13) 智 田栗(12) 子重八原木(11) 子笑原木(10) 子和中田(9) 郎治中田(22) 子益中田(21) 子尙藤加(20) 子和藤伊(19) 昭 井石(18)

ニコく主義に就て

牧野元次郎

ニコく主義とは唯表面の愛嬌といふことではない、心からのニコくで、心に一點の邪念が無く、私と云ふ心がなく、真心ばかりである時に、而して歡喜の念が心に充ちて来る時に、初めて眞のニコくが顔に現はれて来るのである。細を賣る爲に無理にニコくするのは、吾々の謂ふ眞のニコく主義ではない。それなら吾々の謂ふニコく主義とは何ういふのかと云へば、先づ第一には大黒様を守本尊とするのである。それから佛敎の方では彌陀圓滿如來と云つて、日蓮上人も之を祀り、親鸞上人も之を祀り、それから何れの寺でも皆之を祀つて居る。その大黒様が日本の神様であるか、或は印度の神様であるかは別として、兎も角佛佛兩方から尊まれて居る神様であるから、我々が守本尊として崇める上に最も相應しい神様であると思ふ。大黒様の相に昔からの人相の色々の書物に随分として掲げてある所の相が悉く備はつてゐる。肖像畫とか油繪を描く人は大抵モデルを使ふが、吾々が福を得やう、健康を得やう、平和を得やう、と欲するならば、この大黒様をモデルとして常に大黒様を念ずることが最も必要であると思ふ。一體人の心と云ふものは不思議なもので、一念凝つて念すれば、その願望は達せられるものである。即ちその人の顔の形まで念じた如く變化して行く。斯うして大黒様のお顔を見れば大黒様のやうになりたいと念すれば、その願望は達せられるのである。この事は心理學上から云つても證明されてゐる事實である。さて何うして、私がこの大黒様をお守り本尊としてニコく主義を唱へるやうになつたかと云ふと、私はそれまで

ゴツ／＼した所謂主角のとれない人間であつたが、學校を卒へて世間へ出てみるとなにかさういふ風では世渡りが出来ないことを知つたので、これは何か一つ吾々の修養の標準とすべきものを得たいものと日頃思つてゐたが、丁度日露戦争の終り頃のこと、正月元旦のお伊勢參宮の歸途、土産ものにと買つた大黒様が私の心を深く／＼捕へて了つたのである。私はこの大黒様のニコくしたお顔を一目見るなり、ハハアこの主義だな、と直感したのである。さて私がよくその大黒様の御顔を拜してゐると三つの意味が讀まれた。即ち第一は心の平和である。大黒様のお顔には極めて平和の相が光ちてゐる、ニコくして居られる。あの相には少しの邪念もない、穏やかな心の平和が現れてゐる。第二は健康と云ふことである。即ち大黒様のお顔にはお身體が極く健康であるといふ相が現れてゐる、身體が健康でなければいふ云ふ御顔付は出来るものではない。第三は商賣繁昌といふことである。即ちお肩の袋には金銀の實が澤山入つてゐる、これで

ニコく座右銘
一、今日一日三ツの思を忘れず
不足の思を爲さぬこと
二、今日一日腹を立てぬこと
無理を爲さぬこと
三、今日一日腹を云はず
己れの善を云はざること
四、今日一日人の惡を云はず
己れの善を云はざること
五、今日一日の存命を喜び
福業を大切に勤むべきこと
右は今日一日の慣かにて候

ニコく主義とは唯表面の愛嬌といふことではない、心からのニコくで、心に一點の邪念が無く、私と云ふ心がなく、真心ばかりである時に、而して歡喜の念が心に充ちて来る時に、初めて眞のニコくが顔に現はれて来るのである。細を賣る爲に無理にニコくするのは、吾々の謂ふ眞のニコく主義ではない。それなら吾々の謂ふニコく主義とは何ういふのかと云へば、先づ第一には大黒様を守本尊とするのである。それから佛敎の方では彌陀圓滿如來と云つて、日蓮上人も之を祀り、親鸞上人も之を祀り、それから何れの寺でも皆之を祀つて居る。その大黒様が日本の神様であるか、或は印度の神様であるかは別として、兎も角佛佛兩方から尊まれて居る神様であるから、我々が守本尊として崇める上に最も相應しい神様であると思ふ。大黒様の相に昔からの人相の色々の書物に随分として掲げてある所の相が悉く備はつてゐる。肖像畫とか油繪を描く人は大抵モデルを使ふが、吾々が福を得やう、健康を得やう、平和を得やう、と欲するならば、この大黒様をモデルとして常に大黒様を念ずることが最も必要であると思ふ。一體人の心と云ふものは不思議なもので、一念凝つて念すれば、その願望は達せられるものである。即ちその人の顔の形まで念じた如く變化して行く。斯うして大黒様のお顔を見れば大黒様のやうになりたいと念すれば、その願望は達せられるのである。この事は心理學上から云つても證明されてゐる事實である。さて何うして、私がこの大黒様をお守り本尊としてニコく主義を唱へるやうになつたかと云ふと、私はそれまで

お金持と云ふことが直ぐ判る、それからあのニコくしたお顔付は如何にも商賣が繁昌するといふことをよく物語つてゐる。この三つを私は大黒様のお顔から讀んだのである。この三つのは恐らく人間の望む「幸福」の全體であらう、これ以外に何も望むものはなからうと思ふ。それ以來私はニコく主義でなければならぬといふ修養の方法に就て考へ、ニコく座右銘として、「今日一日の記」を選んだのである。而してこれに反しない様日々努めて来たのである。少くも一日に二三遍宛こ



(1) 白河關址 (東北本線白河驛西一〇軒) 奥羽三國の一で、阿武隈川の支流白川の谷間にあり、龍岡法師の「都をば西と共に立ちしかど秋風ぞ吹く白河の關の古歌によつて昔の感一入深いものがある。

(2) 猪苗代湖 (磐城四鞭上戸驛より八〇〇米) 本邦第三位の太湖で海拔五一四米の高所にあり、磐梯の山影湖面に映じ、一度び静まれば盛夏の饒向冷味を覺ゆるの勝地である。湖上一周に約四時間を要す。



(3) 東山温泉 (磐城縣會津若松驛より自動車) 四面峰峙し四方一面展開して若松市に通ず。湯川の清流飛瀑に到る所に點在し風光の美を恣にして居る。奥村三峯の二にして四時散飯を極めて居る。

(4) 蘆板温泉 (東北線福島驛より約十二軒、電車、自動車) 昔から著名な温泉郷。湯上川を隔て、湯野温泉と相對してゐる。附近に關城址、轉王寺がある。

れを唱へてゐる。その第一は「今日一日三つの恩を忘れず不足の思ひを爲さぬこと」と云ふので、この「今日一日」といふのは大變面白い意味があるのである。元來人間の心は妙なもので、例へば熱焼しやうと決心したものが三日たつたか絶たない間にも耐へられなくなつて又いつか喫み始めてゐるといつたやうなもので、初めから長い間のことを企てても容易に實行されるものではない。そこで先づたつた今日一日だけやることにし、それを實行したら明日も又「今日一日」を實行して漸々これを精んで行けば遂には一生實行することになるのである。それから三つの恩とは第一に君の恩、第二に師の恩、第三親の恩であつて、吾々は様々の方面からいろんな恩を受けてゐるのであるから、その恩を忘れてはならないと云ふのである。恩を忘れるから不満が生れ、危険思想が生れるのである。この不足の思ひがあつては決してニコ／＼することは出来ぬ。それから第二は「今日一日腹を立てぬ事」一日一日腹を立てぬやうにして行くのである。勿論腹を立てぬはニコ／＼することは出来ぬ、

であるから、絶対に腹立つては不可ない。第三は「今日一日嘘を云はず無理をなさぬ事」兎角この世の間違ひは嘘と無理から生れる。正直一途で行けば必ず末には勝利が待つてゐる。ニコ／＼の人生は正直でなければ得られない。第四は「今日一日人の悪を云はず己れの善を云はざる事」人の悪を云つたり自分のことを自慢するやうな人格では眞のニコ／＼主義者にはなれぬ。第五は「今日一日の存命を喜び稼業を大切に勤むべき事」人間の生命は明日は解らないものであるから今日一日無事に存命したことは神に感謝すべきことである。さうした敬虔な心で毎月勉強すれば自然商賣は繁昌するし、心は平和になり、家庭は圓滿に行く、身體も健康になる、やがて大黒様のやうに福々しくなり、ニコ／＼して來るのである。最後に「右は今日一日の憤みにて候」と云ふのである。右の五箇條を毎日々々違えないやうに實行して行つたなら期せずして立派な人間になることが出来るのである。ニコ／＼主義者は以上の五箇條を日々三唱してこれに違はぬ様日々努めて行くのである。このニコ／＼主義が廣く天下にひろがつたならば個人も富み國家も富み一段と美しい人生がこの地上に築かれるであらう。

不思議! 不思議! 頭取 牧野元次郎

一、私は時々こんな手紙を受取ります 貯金をしたお蔭で、からだ丈夫になりました。貯金を始めてから、夫婦仲がよくくなりました。貯金をやりましたから、妙に商賣が繁昌して参りました。二、是は何の爲でせうか 御承知の通り、本行の守り神は大黒様であります。本行では毎年お正月に大黒祭をやりまして、貯金者各位の御守護を、只管大黒様にお願ひ申して居ります。三、其お蔭ではありますまいか 皆様のお手許に差上げてあります貯金通帳を御覽下さい。大黒様のお姿が書いてありませう。通帳がお手許にある間は、皆様は大黒様と御一所に居るやうなもので、すなはち大黒様が皆様を御守護下さいます。四、通帳がお手許から無くなりますと 同時に大黒様のお姿も消えてなくなるのであります。大黒様は貯金をしない人がお嫌ひですから、其お家からはさつさと出て行かれます。

五、大黒様が出て行かれたあとへは 貧乏神が代つて入り込みます。貧乏神は貯金をしない人が大嫌ひです。六、貧乏神にすかれましては 其人は到底うだつたががりますまい。からだも弱くなりませう。夫婦仲も悪くなりませう。商賣も衰へませう。七、若し御存じのお方の中に からだの悪い人があつたら、ニコ／＼貯金をすゐめて下さい、きつと直りますよ。夫婦仲の悪い人があつたら、ニコ／＼貯金をすゐめて下さい、きつと仲がよくになりますよ。商賣の繁昌しない人があつたら、ニコ／＼貯金をすゐめて下さい、きつと商賣が繁昌いたします。八、是は決して迷信ではありません 不思議にそうなります、不思議! 不思議! 實に不思議な貯金です。論より證據、其證據は澤山私がつけて居ります。



(1) 鹽釜神社 (鹽釜より西一軒) 左宮に、武甕槌命、右宮に經津主命、志保彦神社に鹽土老翁大神を祀る國幣中社にして、兩社併せて奥州一ノ宮正一位鹽釜大明神と號する。森山の老杉に圍まれ社殿結構壯麗。航海及び安産の神として名高い。

(2) 青葉城址 (仙臺市) 慶長五年藩祖伊達政宗の築城で、櫓ヶ岡の對岸にあり、今は第二師團司令部が置かれてある。明治十五年火を失しこの城門を除き全部瓦礫に歸した。天守臺は鹽釜港に川を隔て、社の都仙臺市を俯瞰し太平洋を一望のうちに收める事が出来る。

(3) 宮城曹頭
わしが國まで見せたいものは
ゆかしなつかし宮城野信夫
うかれまいぞや松島はとり。

(4) 不動貯金銀行仙臺支店
所在地 仙臺市新傳馬町角
開業 大正八年四月一日



(1) 五大堂 (松島) 坂上田村麿の創建で今は特別保護建造物となつて居る。海岸に近い五大島上にある古樸な建物が周囲の老松と共に波に映じ其の風致は又捨て難いものである。

(2) 瑞巖寺 (松島) 伊達氏の菩提寺にして臨濟宗の巨刹、伊達政宗が甲冑を捨てた木像があり主要な建造物は國寶になつて居る。

(3) 金華山 (鹽釜より汽船の便あり) 海拔四四五米、牡鹿半島の尖端を距る事數下太平洋上に秘められた靈山で、全山花崗岩より成り千百不滅の老樹蒼鬱として茂り、露間泉水瀉々として湧き、又神遊野放所に見る。眞に塵外の仙境である。

(4) 仙臺名物踊
わしが、
國まで
見せたい
ものは
ゆかしなつかし
宮城野信夫
うかれまいぞや
松島はとり。





(1) 秋田會頭

秋田名物 八森ハキハキ
 檜山納豆 能代香煎
 秋田名物コの子つくしを
 子供に香物
 蟹に醤油だ
 いづれこれより御免な腰り音頭のむたを言ふ
 お氣に觸りもあらうけれどサツタとしかける

(2) 男鹿半島の奇勝 (蛤川畔より和船、セーラーボートあり)
 日本海の怒濤激浪を受ける断崖で、奇石怪岩其の雄大なる絶景
 は陸前の特産に譲らぬほどである。東西約七里、南北五里。

(3) 秋田名物のふき
 其の大きなものは高さ一丈、葉の直径五六尺にも達するものが
 ある。



(縣代能線代能) 橋代能と港代能 (1)

(車下木本三道鎮田和十) 湖田和十 (2)
 樹老し立乾に處諸石怪嶺奇く多曲屈岸沿米八四三深大最米一〇四抜海は面水
 妙の其しに異を趣々各皆でまる至に石一木一らお岬一磯一ひ巖を天てしと壁巖
 らせ稱とりあのもるぐ過に島松の奥てしに巖端く如がぶ徳をとあの心苦の匠名
 る居てれ

(車下内保生鎮内保生) 湖澤田 (3)

他は色水いし美もり上繪と度深の一第中沼湖圓全し稱と瀧子辰は波瀾標漢名一
 座神・神明木控・宮橋漢に岬湖し繞圍て以を山邊四里五圍周。やさ許を従道の
 るあが等森の子田・社神石

山形県



- (1) 山寺立石寺 山形縣より東北十五軒、自動車、
慈覺大師の創建にして東北信仰の聖地である。寺は山の中腹に
あり、全山赤岩の石壁となり、重疊し、大小四十八滝の壯麗な
り、文藝家の名所として有名である。
開き、岩にしみ入る輝の聲 芭 蕉
- (2) 最上川
日本海に注ぐ流長約六十里、縣下第一の大河、河原風景に富み
城中の寶石兩岸の雄壯なすべきものがある。
- (3) モンペ姿
- (4) 千歳山 (山形縣より東北五軒)
高山松樹茂り北麓に慈覺大師の遺基せる萬松寺がある。冬は雪
で盛んに、五月には山形の一奇所。



名古座の
美城のねと
べんけい

中
部
篇



Shiro.



横田田島(10) 夫幹内竹(9) 子しと内竹(8) 子智藤伊(7) 明 場馬(6) 觀 谷神(5) 一義達安(4) 康 邦 恒(3) 己庚中廣(2) 子仲達渡(1) 【内城區店支麗古名】
古禮山中(17) 武向田武(16) 【内城區店支麗新】 藤義藤加(15) 吉重田水(14) 【内城區店支崎岡】 子富木鈴(13) 子紀悠間本・廣 間本(12) 透 井藤(11) 【内城區店支機豐】
子美富國梅(22) 【内城區店支湊金】 子節田藤(21) 【内城區店支井福】 子延山島(20) 子文下寺(19) 子睦下寺(18) 【内城區店支山富】

貯へは人間萬事の基なり 悟りしときは明日とのばすな

何故貯金せねばならぬか

人生僅か五十年、とは昔から言ひ古された語であるが、さて其の僅かの五十年も、所謂人生行路難で、なかくも、案外容易なことではない。或時は風に吹かれ、或時は雨に曝され、難行苦行の數々を盡さなければ安樂の彼岸に達することは出来ない。併しそれが此の世の中の常態であるから、如何とも致方がない譯だ。其處で人には不時といふ事がある。病氣もそれだ、天災もそれだ、死亡、失職、失敗……悉くが不時ならざるはない。何時何處で汽車が衝突しないとも限るまい、亦飛行機が墜落して怪我をせぬとも限るまい、亦何時彼の大正十二年のやうな大震災が起らぬとも限るまい、無数の危険は不斷我々の身邊にまつわりつてゐる。斯ういふ不時の出来事があつた時、他人の厄介にならず家族を安全に養ふだけの用意が要る。給料取りは何時給料に離れるかも知れぬ。商人は何時商賣に失敗するかも知れぬ。さういふ場合に少くも三年位は只居ても食へるだけの用意が必要、其内には好いおへも出て来る、復活も出来る、だから一家の主人たるものは、豫てより此の不時に備ゆる家族の保険金、つまり貯金を用意するの義務がある。

貯金なら此方法

金をもつたら費消したいのが人情である。なか／＼金は手許に落着かない。そこでこんな古川柳が生れ出したのである。
これ小判たつた一晩居てくれる
まことに人間の眞情を穿つた名句である。と云つてこの人情に溺れてゐた日には貯金は一生出来ない、だから貯金をしやうと思つたら、この人情を征伏するだけの強い意思が必要である、逃けたがる金に禁足を命じる必要がある。と同時にさうした意思を完全に培つてくれる機關を探さなければならぬ。そこで私の石の上にも三年の

ニコ／＼貯金がその使命を受けて生れ出たのである。この方法なら誰でも金が溜る。然らばその方法とは如何と云ふに、
一、毎月一定の金を三年間預入れること
二、満三年目に契約金を拂渡すこと
三、毎月銀行から集金係を差出すこと
四、拂込中止者には満期日に元金のみを返還すること
五、大災死亡等の外中途拂戻を致さぬこと
六、此の貯金は譲渡し買入れを禁ずること
等から成立つてゐる。
一條から六條までほとんどイヤでも金が溜るやうな厳格な規則である。厳格なればこそ金は溜るのである。そこに貯金の生命があるのである。この厳格な規則を毎月三年間履行して行つたらば、確に金の溜ることと受合ひである。

石の上にも三年

古人の道歌に斯ういふのがある。
金といふ字を解割すれば人ニハ一が第一よ
人は面白いことを云ふたもので、何事にも幸抱は大切であるが、殊に金には幸抱が第一であることは、今更云ふまでもない位だ。一口に幸抱と云ふが、この幸抱は却々容易なことではない、併し何をするに門を滑つて来なければ成功の域には出られないのである。少くも三年間、石の上にならなければならぬ。大抵の事は成就するものである。若し成就しないと思れば、それは石の上にならぬのである。若し成就しないと思ひなさい。縮の上では何年でも居る、敢て幸抱と云ふ程のものではない。石の上の三年でなければならぬ。しかし餘程の難事である。難事なればこそ面白味がある、誰にも容易に出来ないところに價値がある、成功は困難を突破して初めて得られるもの、艱難を玉にすべしと云ふのは嘘でない。眞實である。要は意志の強弱が功と云ふのである。意志が堅固であつてこそ初めて幸抱の堅固の意志が要る。意志が堅固であつてこそ初めて幸抱の出来、誘惑にも勝ち、いやな時でもニコ／＼すること出来る。三年でも十年でも持續する事が出来る、其の持續年限の大小が即ち事業成功の大小となるのである。意志の強弱が元である。正に人間には幸抱が第一である。意志を強くせよ、克己の精神を養へ、而して後初めて成功の域に達することが出来るのである。

貯 金 は 無 税



- (1) 久能山東照宮 (静岡市より九軒自動車) 徳川家の宗廟にして元禄三年十二月二代将軍秀忠の遺體を隔り後正保十一年勅旨あり東照宮の號を宣下せられ日光の東照宮は即ち此所より改葬の式を行ひたるものである。風光の絶佳と廟社の壯麗と什寶の多きは世人のよく知る所にして今別格官幣社である。
- (2) 修善寺温泉 (駿豆鐵道修善寺下車) 鎌倉時代から湯の町として榮えた伊豆第一の古い温泉で、四圍峰巒に圍まれ、桂川の深後に枕んで浴衣射を並べ温泉は皆河中から湧出して居る。附近に名刹修善寺がある。
- (3) 熱海温泉 (熱海より自動車) 一方相模に面し三方山を繞り、海上十二軒に初島橋はり遠く伊豆大島の雄偉も望まれる絶妙地である。機張四度を下らず、盛夏三十一度も絶へず避暑遊樂の最妙地である。
- (4) 不動貯金銀行静岡支店 所在地 静岡市東照宮町角

開業 大正九年二月一日

開業 大正九年二月一日

主義はニコク
貯金は不動

一、不平を云ふな
二、腹を立つな
三、嘘を云ふな
四、無理をするな
五、セツセと働け
人に會得する時
ニコツと笑へ

どうすれば貯金が出るか

全體、此の問題は何人といへども知らたがる問題であつて、其の辭多の人が、實行したがる問題である。何故實行したがるかといへば、實行するにはそれ相當の苦心を要する、辛抱を要する、それが出来なからだ。どうも世の中の人、金は欲しいが、樂はしたい、と云ふのが多い、棚から牡丹餅の落ちて来るのを待つてばかりゐるが如き性質の人が多い、これが抑々の心得違ひである。此の心懸けの消えない中はたとへば一文でも出来やう譯がない。樂をして食つて行ける世の中なら、誰が朝早くから寒暑もいと汗を流して働くものがあらう。皆な遊んでノラノラと暮してゐるに違ひない。さうしたら一體誰が我々の米をこしらへ、住ふ家を建て、くれるか。其處が即ち此の世の中の面白く出来てゐるところで、神様の行き届いた攝理が亦其處に在る。誰も遊んでゐては食へない、況んや少しでも用意の金を溜めやうとするには、より以上に働け、より以上に節約しなければ、なかなか容易に金が手に残らない。だから、若しどうしたら貯金が出るか、と問ふ人があるならば、先づ働きなさい、より以上に働きなさい、さうして働いた結果を蓄えなさい、といふより外に仕方がないのだ。併しどんな詰らぬことにも其の方法が種々あるやうに、金の貯め方も種々の方法がある。其の方法のよろしきを得た者の方が必ず勝利を得ることになるのだ。然らば其のよい方法は、といへば、私は多年の経験から直に、月掛けの「三年貯金」と答ふるに躊躇しない。

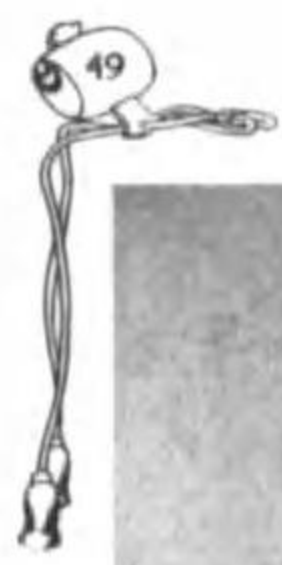
金の預け先の選擇

堅い決心を奮ひ起して貯金を初めた時、先づ第一に迷ふのが其の金の預け先である。何所が一番安全確實か、何所が一番有利か、何所が一番便利か、これが解決されなければ本當の貯金は出来ぬ。では何ういふ所へ預けるかと云ふに、大體に於てこれを三つに分けることが出来る。即ち、(一)郵便貯金、(二)貯蓄銀行、(三)普通銀行、さて此のうち何れを擇ぶべきかと云ふと、

- 一、郵便貯金は金を預けた月と出した月は利息をつけな
- 二、出入れもなかつて面倒である。
- 三、そこで確かりした貯蓄銀行が一番安全である。
- 四、貯蓄銀行では十錢以下の零細な金でも、又何萬圓何十萬圓と云ふ大金でも預かつてくれるが、普通銀行では十圓以下の金は預かつてくれない。
- 五、貯蓄銀行では毎月一定の場金を二年なり三年なりすれば、集金は銀行から來て呉れから、千圓なり一萬圓なりの貯金が知らぬ間に出来る。
- 六、貯蓄銀行は預金の三分の一は公債で政府へ供託して置かなければならぬから、決してつぶれない。
- 七、普通銀行のやうに商品擔保の貸金をしないから安全である。
- 八、貯蓄銀行の取締役は連帶無限の責任を負ふて居るから、まさかの時は重役自身の財産全部を差出さねばならぬから大丈夫である。普通銀行の重役はそんな責任を帯つてくれない。
- 九、貯蓄銀行の預金には所得税が免除されて居る。
- 十、これで如何に貯蓄銀行が安全であり確實であるか、了

貯金の三徳

貯金の徳は三徳や十徳ではないが、これを大別して三徳とした。即ち第一が貯金をすれば身體健康、第二が貯金をすれば家庭圓滿、第三が貯金をすれば商業繁榮である。我々の人生に於て健康ほど大切なものはない。「健康は幸福の母」とさへ云はれてゐる。健康あつて初めて樂さがあり、喜びがあり、即ち生甲斐があるのだ。これは何故であるか、答へは至極簡單である。貯金は永続性のものであるから、絶えず貯金をするために活動しなければならぬ、活動すればその人はイヤでも身體が健康にならざるを得ないのである。次に貯金をすれば商業繁榮、これは説明するまでもなく、夫婦が心を合せて貯蓄すれば家庭から貧乏が消えて行く、貯金するには「斷斷張した心掛けを要する、惡魔の忍び込む隙がない、富裕に向つて行く、こうなつてくれれば家庭はいつても昌であるが、これは前者から自然に歸納されるから説明の必要はない。この三者は夫々別個の存在ではなく、互に因となり果となり相離る可からざる關係の上に立つてゐる、而してその根本は貯金に依つて貫かれてゐるのである。身體健康であり家庭圓滿であり商業繁榮であれば、いよいよ貯金は進んで行くのであつて、これを逆に云ふも又同じ道理であつて、この三者は車の輪の様に廻り廻しては行かないのである。私はこれを稱して貯金の三徳と云つてゐる。



縣岡靜



るあで山名の的昇世にけなくのもきべる見を比に他てしに圖秀高崇姿容 米八七七・三に實事るす立直天岡 (車下場殿御線道海東) 山士 雲
(人山岡 すんざどうた見が帆の雲 せんやししがぬ衣の雲んさ士富お) 日一月三年九正大 業 開 町馬傳市松濱 地在所 店支松濱行銀金貯貯不



縣岡靜



(1) 田子の浦 (東海道線静岡南半軒)
青松白砂と相交はり北に富士山を仰望し西は三保の松原南
は隠れなま太平洋、長汀十里に打寄する田子の浦の波、山
海の景二つなら備はる。
○富士うつす田子の浦の夕なぎに
舟滑寄する山の上まで
○早乙女や田子に極まこむ富士の影
○田子の浦うち出でみれば眞白にぞ
富士の高峰に雲はよりける 山邊赤人
富士の影をたこむ富士の影

(2) 三保の松原 (東海道線江尻驛より自動車、發動機給あ
り) 清水港の南方長洲一帯東北に突出し白砂青松と連る一
里許りの所である。南に太平洋、北に駿河、東に伊豆半島、
そして富士の秀峰を仰ぎ見る佳境である。
○春風や三保の松原せんけん寺 東 賢
○春の夜や三保の松原立つ

(3) 下田港 (駿豆線道修善寺驛より自動車)
幕末開港史、日本海運史の一頁を飾る重要な地である。
下田 節
伊豆の下田に長居はみよし
織の財布が釜になる。
織の財布をたこまといよ
私しや下田の風がよい。
廣人お宮の小唄
駕籠で行くのはお吉やないか
下田港の春の雨
泣けば梅の花が散る。



- (1) 豊川稲荷 (豊川織造豊川輝より約半軒)
嘉吉元年附義基の開基。曹洞宗に属し妙厳寺と稱す。本尊吒呬
尼天は開基義基の靈驗あらたかと云ふので賽客起へる事なく
海道切つての流行神である。堂宇皆極美の美を呈して結構。
- (2) 熱田神宮 (東海道熱田郡より約半軒)
三種の神器の一なる草薙の神劍を祀る官幣大社で相殿には素
戔鳴尊、日本武尊、宮古尊、建甍尊の四神を祀る。社境
幾百年來の古樹を幹幹として賽客聞く而も清帯一塵をも留
めず神威の尊嚴さを現はして居る。
- (3) 不動行堂銀行豊橋支店
所在地 豊橋市札木町
開業 大正九年三月一日
- (4) 蒲郡海水浴場 (東海道蒲郡郡下車)
海上に竹島、大島、小島など點在し風光絶佳、海水浴場とし
て知られてゐる。

- (1) 不動行堂銀行名古屋支店
所在地 名古屋市中区小橋通伊賀町角
開業 大正二年一月一日
- (2) 名古屋城 名古屋より東北約三軒
五層の天主閣は加藤清正の造營で高さ
四八米餘、閣上雄雉一雙の號は鱗片悉
く黄金にして高さ約一米五、之を造る
に慶長小判一萬七千九百七十五枚を要
したりと、古來天下の壯觀と稱せられ
一名金城ともいひ江戸、大阪城に次ぐ
名城である。今は第三師團司令部兵
營が置かれ、本丸は雄宮になつて居る。
- (3) 大須観音 名古屋より東南一軒七
北野山觀音寺と稱し眞言宗に屬す。能
信上人の開基にして慶長十七年大須の
庄より今の地に遷したものである。四
時賽客雜聞し、東都の淺草觀音に遙ら
ぬとさへ云はれて居る。



縣 阜 岐



夜と時水濁しと此日五十月十りよ日一十月五年毎は調轉の川良長物名阜岐 (りあ車電迄呼橋良長りよ郡阜岐) 調轉の川良長
 る居てれら知でまに外海は觀美の其。ふ行に時きな光月陰
 日一月一年七正大 業 開 角町田神市阜岐 地在所 店支阜岐行銀金貯貯不

縣 知 愛



- (1) 御油 (東海通稱御油)

「こゝや赤坂よし田がなぐばなんのよしかで江戸通ひ」
 と唱はれた程は往時、御油、留、女などかましく
 客を呼び留置分の濃かな所であつたが時代の變遷につ
 れ今は實に寂しい町となつてしまつた。
- (2) 矢野橋 (岡崎市)

三河三大河の一たる矢野川に架したるもので昔東海道五
 十三里中第一の長橋と稱せられ其の名特に高かりしもの
 である。
- (3) 鳳來寺 (鳳來寺鐵道鳳來寺口下車)

白鳳元年の開山で聖師如來を本尊とす。
 開基堂城も壯麗、巖山高く峙つて奇景に富んだ別天地で
 ある。
- (4) 不動金貯銀行岡崎支店

所在地 岡崎市藤田町
 開業 大正九年三月一日

山梨縣



山延身で山本連の宗蓮日(りあ車動自半軒三西りよ驛延身) 寺遠久山延身 (1)
百敷る「稱と鏡鑑書に申るた・亭杉巨り滑を門三の米一十二さ高りあに麓南の
社宏もれ何どな殿科・堂骨納・堂師祖・堂本に所るため詰り登をよりあ段石の級
。居てし遊を美善構結は堂骨納中説。るあが鑑加るな麗美

(二軒二りよ驛沼聯線央中) 園葡萄の沼勝 (2)

で在現でりま始の々脚がのたし増裁に年二治文は葡萄州甲。地産主の葡萄州甲
。るみてし連に園餘萬五十三百額産年總下縣は
。蒸 芭 らがなひ食を葡萄も子馬や沼勝

店支府甲行銀金貯動不 (3)

角町日八市府甲 地在所
日一月三年九正大 業 開



岐阜縣



を源に山盛鉢谷深の曾木摩筑西州信は川曾木 (車電りよ驛沼聯線山高) ンイラ本日
出に野平大の尾瀆に待てれ流れ流いつせ見を景奇な絶美し現出に所隨を源深淵金し發
水。るあでのす現を勝奇の川曾木尤風のしイラ本日]るな美絶謂所に處此てしとんで
。るあで地景絶きな類比に正大雄の美水山富豊てしに列清
。所る知の人世く昔は蹟事の内蒸源子孝 (車動自・驛老養線老養線電勢伊) 瀧 老 養
りなと國公今は帯一山老養。る來出が事るす湯浴も子女婦く健命湯米二十三下直は湯
。るあがどな寺老養や泉瀧水抱ふいとたじ變に酒美でん派か子孝昔の其
良景條一。はなれ流に名ふ養を老 水の瀧なかもしよる見いつえかわ

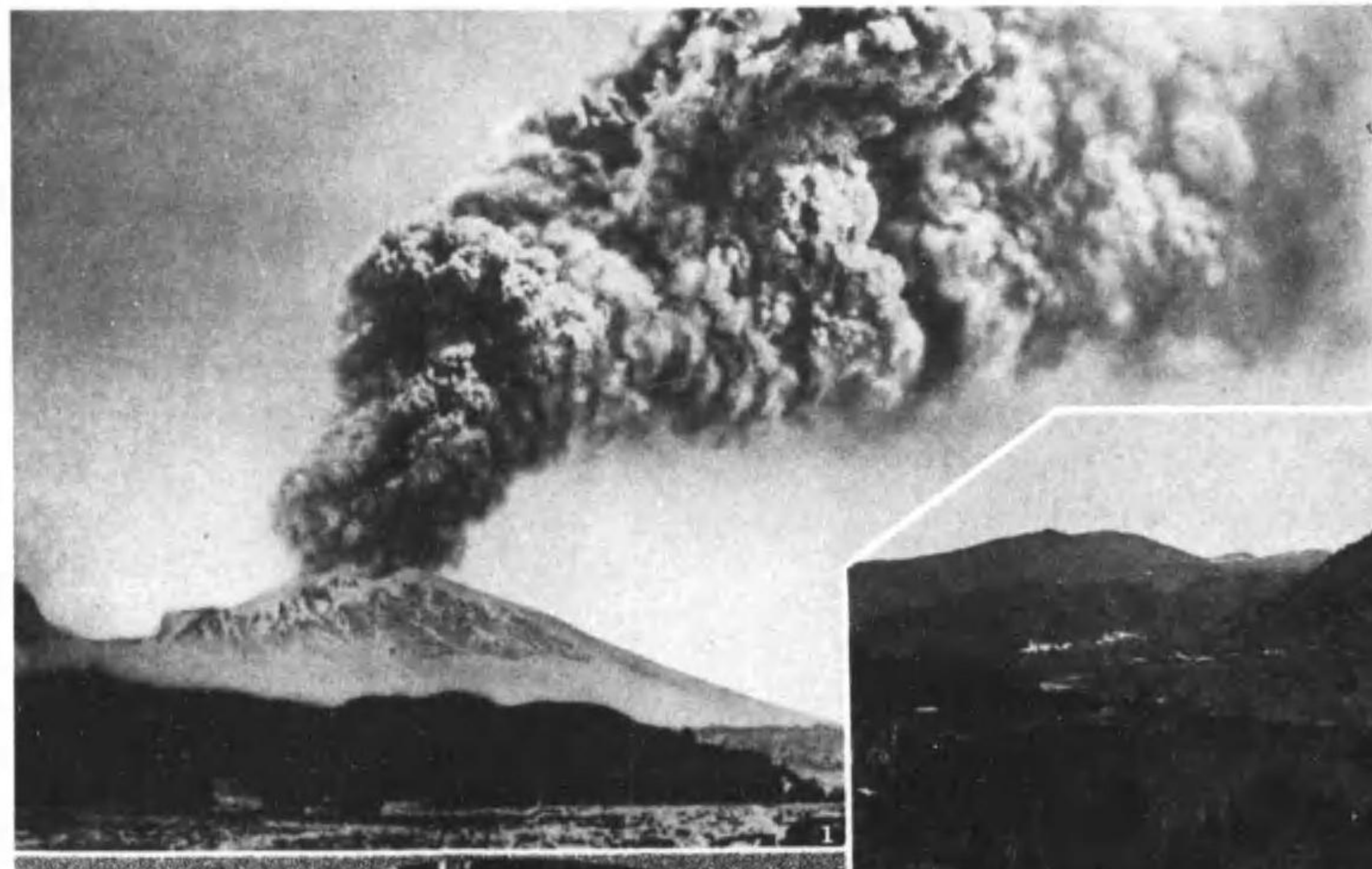
岐阜はよいとこ 金華山の麓
小田の蛙が寝て聞ける。(元順)
君が御料のあめ漁る手業
ほかにながらの船制船
景氣よい暗、黒槍の川に
散らす鶉の金砂子



(1) 諏訪湖 (中央線上諏訪駅下車)
一名琵琶湖ともいひ海拔七五〇米の高地にあり天龍川の水源である。冬季は全面結氷しスケートの好適地として内外人の來遊するも多し。
○諏訪の地脈が馬をのせるなり

(2) 善光寺 (本堂)
(信越線長野駅より北二軒自動車)
天宮、淨土二名の尼僧が奉仕し、大勧進と大本願とに分れてゐる。本尊は一光三尊佛と稱せらるゝ圓浮檀金の阿彌陀如来で約四五四圓の靈像である。尊像は本邦に渡來した最初の佛像で、龍波の堀江に投げられたものを本出善光が拾ひ上げ皇極天皇即位二年勅を奉じ安置したもので寺號はこの善光の名に因んだものだといはれて居る。四時香男善女の賽香懸るが如く、人若し生を享けてこの寺に詣らなければ、彌陀の淨土に至つてその光明に浴する事が出来ぬと云はれてゐる。境内は今公園となりその東に横いて城山公園がある。城山の中段には城山館があり、善光寺中一帯を見下して風光極めてよい。

(3) 上高地溪谷 (笹井線松本駅下車)
標高、雄、霞澤、六百の山懐に抱かれたる海拔一、五〇〇米餘の高原にして日本第一である。白樺の林、緑の原、温泉、溪流などあり、男性的な運峰の間に此の優雅な林泉美は登山者の樂園と呼ばれて居る。



(1) 淺間山 (信越線長野駅より車)
海拔二、五四二米有名なる活火山で時としては降灰二〇〇軒に及ぶ事もあるが平常は平穩にして登山者が多い。火口は俗にお釜といひ壁面には暗岩噴石累積し口底の裂け目より溜みたる白煙を噴出し凄絶の限りをつくしてゐる。

通分節

淺間山なぞ降りしやんす
間にお十六持ちながら
心よく持て道分女郎衆
淺間山から東が出る
小踏出て見りや淺間の山に
今朝も三すぢの體が立つ。



(2) 木曾御嶽 (中央線木曾駅下車)
通稱「お嶽さん」といひ北アルプスの主峰で昔より信仰登山者多く夏季は白衣姿が踵を接する。
木曾山は嶺よりお六名が高し

(3) 木曾踊
木曾のナイナカノリさん
木曾の御嶽さんはナンジャラキイ
夏でも寒いヨイ、
拾ナイナカノリさん
拾やれたヤナンジャラキイ
足袋を添へてヨイ、
つげのナイナカノリさん
つげの横柄ナンジャラキイ
連にはさいんヨイ、



(1) 不動貯金銀行新潟支店 所在地 新潟市本町通角
開業 大正九年三月一日

(2) 彌彦神社 (彌彦山麓より北一軒)
彌彦山の麓にあり、天香山命を祀る同郡中社にして、越後第一の名祠。參拜の多き事全国第四位といはれ居る。米社、柱神社々殿は二百四十年前の建築。今は國寶となつて居る。
伊夜夜のおれ神佐佐青雲のたなひく日すら小雨そはふる。
(萬葉集)

(3) 白山公園 (新潟縣より西二軒・自動車)
南に信濃川を控へ、池田あり丘あり眺望開豁にして四季朝夕の風光異なるものがある。園の西隅に白山神社あり、木造の聖觀音一軀は國寶となつて居る。

(4) 佐渡おけき
来いと云ふたとて行かりよか佐渡へ
佐渡は四十九里波のうへへ
佐渡へくと草木もなむく
佐渡は居よいか住みよいか
波の上でも来る氣があれば
舟に博もある程もある
鳥の乙女の思案し
一度行きたや花の佐渡
おけき踊るなら板の間で踊れ
板のひびきで三味すいらぬ。

(5) 佐渡海岸 (新潟出帆)



(1) 雪の高田市
もと神原氏十五萬石の城下、有名なスキー地で晩冬には市街は文餘の積雪を見る事は珍らしくない。
高田スキー季節
さら／＼と心こまかに雪が降る
スキーで行かうよね、行きませうよね
銀の山こどもでもツツガツツガツ
(2) 赤倉温泉 (信越線田口驛より自動車)
妙高山腹海拔七五八米の地で眺望よく温泉は温泉場の西五十八丁、海拔一五〇〇米の溪谷から湧出して居る。附近はスキーの好適地として全国的に知られ十二月下旬より四月上旬まで滑られる。

(3) 不動貯金銀行長岡支店
所在地 長岡市表町四丁目角
開業 大正九年二月二十一日



(4) 米 山 (信越線柿崎より自動車)
米山 甚句
行かうか参らんせうか米山の麓
一つア身のためササ主のため
ぬしのためなら米山さまへ
はだし参りも、ササいとやせぬ。
頸城や見をさめ、米山三里
峠こえれば、ササ柏崎。

- (1) 立山 富山國道十川驛下車
古來富士、白山と共に日本三山と號へらるゝ名山で、有名な雪堂は海抜二四〇〇
米の箇所あり、このあたり無数の高山植物があり、赤花紅の美を現出して居る。
不動貯金銀行富山支店 所在地 富山市木町角
開業 大正九年一月一日
- (2) 黒部峡谷 若狭國道十川驛下車
白山山脈と立山を横切る神祕の境、人跡未踏の谷と云はるゝ大峡谷である。奇抜
な山容と空ろな人跡とは誠に北國獨特の景観で、秋十月下旬頃高山の紅葉が白水と
相映する景は天下の絶景である。
不動貯金銀行高岡支店 所在地 高岡市木町角
開業 大正九年一月一日



(5) 小原驛 小原節
おらおらはどこでもはやる
わけて八尾はイワナはゆる
磯ヶ山から紅橋かける
思ひ有磯の、イワラ 翠翠樓



- (1) 兼六公園 (金澤驛より東南二軒、電車)
文政七年前田齊興の經營した所で日本三公園の一として有名であ
る。兼六の名は白河樂翁が採ひたるもので、安大、高麗人力、蒼石、
水泉、龍潭の六勝を兼有してあるとの意である。
- (2) 不動貯金銀行金澤支店 所在地 金澤市南町角
開業 大正六年七月一日
- (3) 便利加藤峠 (北陸鐵道加藤驛下車)
海女二年加藤峠、平越嶽と此處に戦ひ大平の嶺を以て平家の大軍を
破つた古戦場である。義仲の騎馬の山や月かなし 芭蕉
- (4) 尾上神社 (金澤驛より東南約一軒處)
加賀の藩祖尾上利家を祀る別格官幣社。明治六年加越、越の土民協
同して本社を創建したものである。社址は前田家の別邸で邸を全
谷といひ、その風景は神樂器に擬つて造り頗る巧緻にして南嶽に富
んで居る。



石川縣



(1) 九十九灣 (七尾嶺七尾地跡より西)
 能登内浦にあり兩岸曲折極めて多く俗に九十九曲りと稱し灣名も之に起因したものと云はれて居る。
 津田崎、松樹繁生し水清く頗る風致に富み能州に遊ぶ者九十九曲灣の勝を誇らざるものなしと云はれて居る。

(2) 山中温泉 (三國線津野下車)
 黒谷川の清流を挾え、空氣清澄、常に松籟を聞く、古來有名な温泉地である。「御氣山中」と云はれる程脚氣によく効くと云はれて居る。

山中
 加賀の山中おそろしいとよ
 夜の夜中にレンが出る。
 送りませうか送られませうか
 せめて二天の橋までも
 浴衣肩にかけ戸板にもたれ
 足でろの字を書くわいな

(3) 和倉温泉 (七尾線和倉下車)
 能登海岸天崎の尖端にあり、前面に屏風崎が横はり、帆島、種々島、猿島を控へて風光絶佳の地である。夏は海水浴にも適し又舟遊にも中々興味の多い所である。

福井縣



(1) 藤島神社 (福井驛より約二軒)
 足羽山公園の東面にあり、新田義貞及びその一族を祀る別格官幣社である。尙その重寶寺殿には二十六歳を一期として空しく小塚原の露と消へた烈士魂本左内の碑がある。

(2) 永平寺 (福井驛より自動車、又は永平寺鐵道永平寺門前下車)
 寛永元年開道元禪師の建立にして曹洞宗の大本山である。幽溪の窟窟に在り、枯木寒苔の色、鳥聲風籟の音自ら紅葉葉吹を絶して居る。堂塔伽藍莊嚴整然。海内屈指の巨刹で年中参詣者の絶ゆる事がない。

(3) 福井城址 (福井驛より三〇〇米)
 慶應の政廣、住時の面影を偲ぶに充分である。城内に藩祖を祀つた住住神社がある。

(4) 不動貯金銀行福井支店
 所在地 福井市佐久良中町
 開業 大正八年四月一日

福井縣



(1) 若狭高濱 (小濱線若狭高濱驛)
 逸見隼守自經の據りし古城址で海中に突出する一岬は天王山である。海山の景致佳。海水浴場は、北浦、南浦との二つに分れて居る。

(2) 敦賀港 (北陸本線敦賀驛下車)
 もと酒井氏一萬石の城下、舊日本の良港にして歐亞國際交通路の要衝を成して居る。三面山を繞らし海山の景勝に富んで居る。昭和三年度貿易品輸入五百七十二萬圓、輸出三百萬圓である。

(3) 三國港 (三國線三國港驛)
 丸頭龍川の港で海岸は環濠海水浴に適して居る。三國小女郎で情調の古い古い港である。

三國 三國と通ふ以は馬鹿よ
 帯の幅ほどある町を
 酒は酒屋で、濃い茶は茶屋で
 三國小女郎は、松ヶ下。
 岩が屏風か、屏風が岩か
 海女の口笛、東尋坊。



二十の共 眞寫集募報月コニコニ



三青川前(9) 子綾川前(8) 子芳西寺(7) 江 堀(6) 二啓 辻(5) コ+4田上(4) 郎一儀井平(3) 彦隆村中・子節村中(2) 代茂川西(1) 【内城區店支眞藤】
 也茂中田(16) 子みふ川谷長(15) 【内城區店支眞】 功 岡鶴(14) 管 中田(13) 子桃江吉(12) 峻 木々佐(11) 【内城區店支眞山】 子雅野重(10) 【内城區店支眞藤】
 代西井岩(24) 【内城區店支眞松】 造泰川谷(23) 治 藤近(22) 助百田藤(21) 猛 生綱(20) 子善野垣(19) 郎太安野垣(18) 子しよ木鈴(左) 子繁尾松(右)(17)

十の共 眞寫集募報月コニコニ



夫道田松(左) 可草田松(右)(5) よみ口山・うち部阿・しよ口山・しと村木・代久田松(4) 子ルヲ田藤(3) 【内城區店支眞甲】 田 森(2) 夫幹田千(1) 【内城區店支眞金】
 一重田藤(14) 郎一井森(13) 【内城區店支眞大】 子可府田原(12) 弘公野佐・子久喜野佐(11) 子げし田今(10) 太博濱吉(9) 行藤井酒(8) 史正原吉(7) 三橋田藤(6)
 子隆下山(21) 賢幸野杉(20) 子美富田美(19) 男一倉戸(18) 尤文田和(17) 【内城區店支眞東】 藤義田上(16) 【内城區店支眞藤】 男一廣友(15) 【内城區店支眞八】
 友博田和(22)



三十の共 眞寫集募報月コニコニ



道正朝長(10) 健川輝(9) 義定浅湯(8) みづい村三(7) 田吉(6) 田桑(5) 静村中(4) 子エ田石(3) 雄唯上井(2) 作周藤近(1) 【内城區店支戸神】
 子美多田吉(20) 子幸上保久(19) 彦連田黒(18) 子さふ田吉(17) 一爲一直(16) 司正田山(15) 子つみ垣頼(14) 三浩那津久(13) 子照野濱(12) 廣正中小(11)
 夫和邊渡(24) 三研谷長(23) 郎二昭谷長(22) 茂谷長(21)

二十の共 眞寫集募報月コニコニ

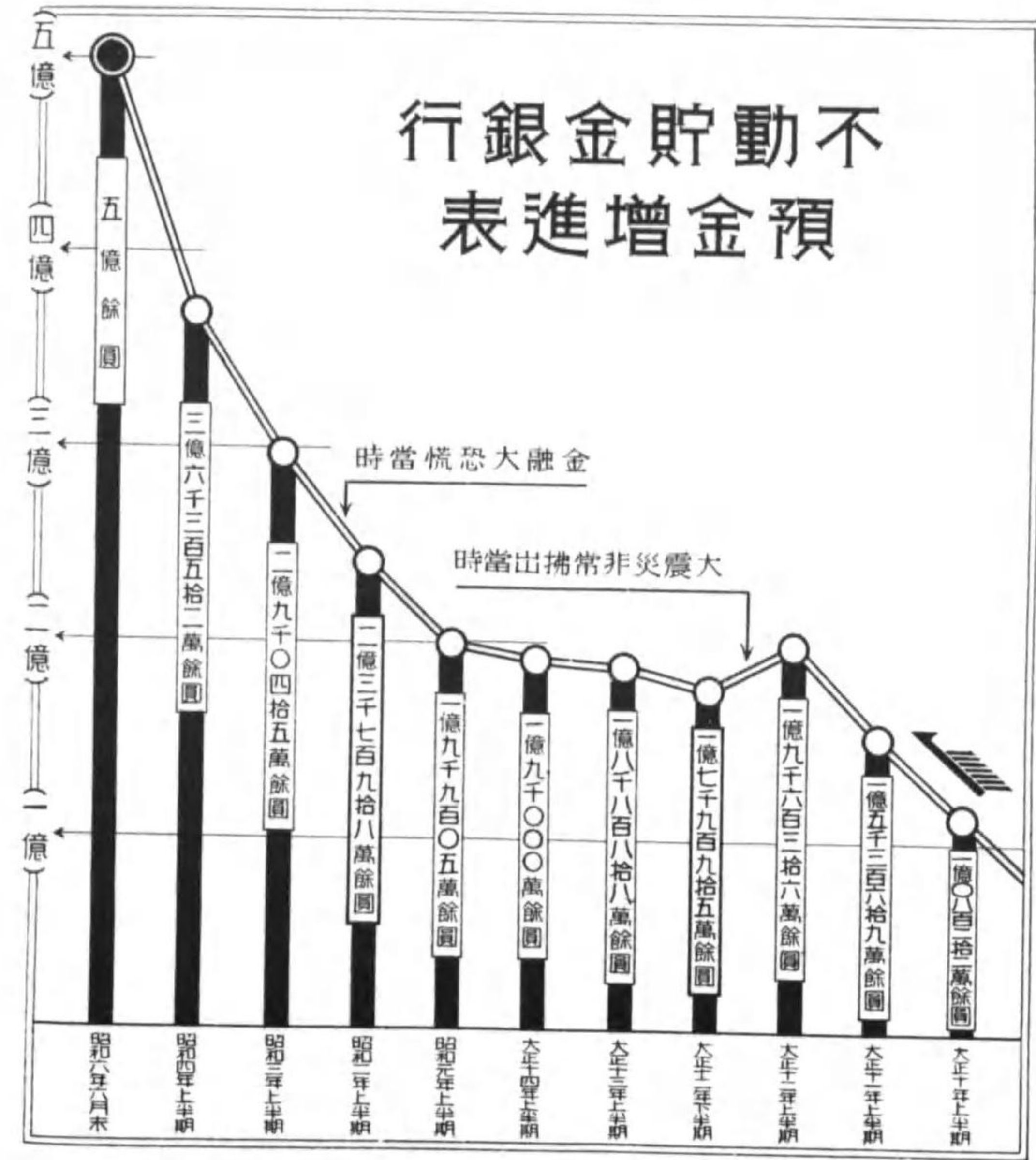


子嘉美根相(7) 郎太龍戸目(6) 巖 親(5) 【内城區店支阪大】 子しと井龜(4) 鴻邊渡(3) 實村西(2) 子歌野多喜(左) 彦芳野多喜(右) (1) 【内城區店支山歌和】
 仁井赤(17) 英正原松(16) 治政田(15) 保田福(14) 【内城區店支南阪大】 三耕田彦(13) 子淳岡秋(12) 清秋崎川(11) 子綾村下(10) 一健見寺(9) 郎四文田前(8)
 平善木柏(24) 具本岡(23) 【内城區店支石明】 巖井八(22) 【内城區店支路徳】 郎三仁藤伊(21) 三富本山(20) 【内城區店支堺】 子敏田上(19) 子徳田清(18)

縣 賀 滋



瀬田の田圃 瀬田大津(津と船遊覧) 田圃の大小二橋の上眺め佳く近江八景の一として有名である
 所在地 大津市本町 開業 大正八年四月一日
 不動貯蓄銀行大支店



四十の共 眞寫集募報月コニコニ



大信島高(2) 上村(1)【内城區店支戸神】
 子花本吉(4)【内城區店支山岡】 市宗田高(3)【内城區店支川古加】
 久裕口川(8) 子原中西(7) 子橋森大(6) 次人井青(5)

滋賀縣



浮に面水も恰てし出突に中湖宇堂。す號と寺月滿山門海り係に政創の郡僧心恵み枕に岸湖琵琶（船覽遊りよ津大濱）堂見浮の田暨
 兼 邑 堂見浮よれ入しさ月てけあ額 　　るあで地勝の趣様たえ聞で願落てしに一の景八く如るべ
 日一月三年九正大 業 開 町幡八縣賀滋 地在所 店支權八行銀金貯勸不

滋賀縣



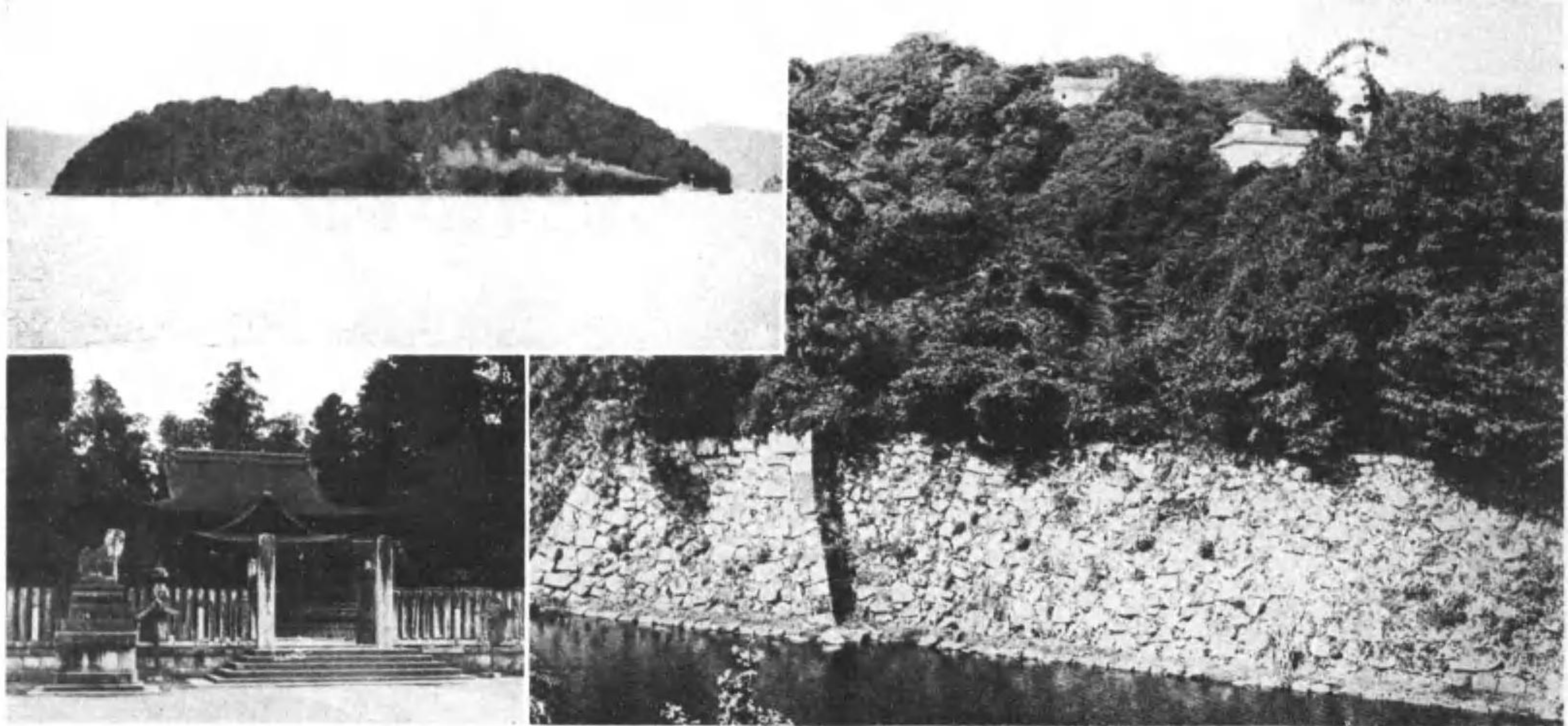
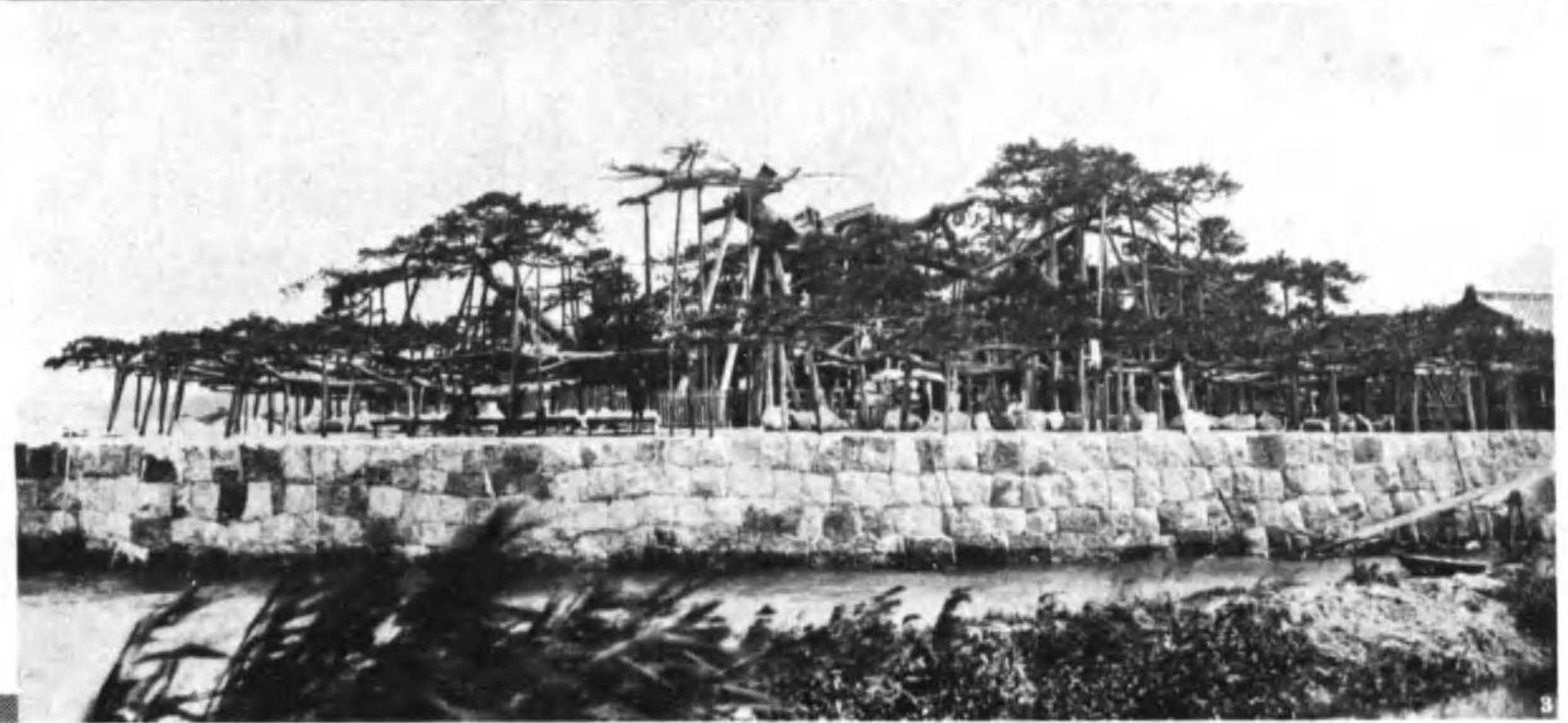
- (1) 石山寺（東海道橋石山驛附近）
 石光山と稱し古義真言宗東寺派に屬す天平年間聖武天皇の御願によつて良辨僧正の開基せし所にして西國三十三所第十三番の札所である。觀月の名所として知られ近江八景の隨一と云はれて居る。本堂の一部に紫式部が源氏物語を草せし所と云ふ「源氏の間」がある。
- (2) 三井寺（江若鐵道三井寺驛下車）
 三井寺とは通稱で長等山（國城寺）と號し天台宗寺門派の總本山である。弘文天皇の皇子與多王の創建にして三重塔・一切經藏・仁王門・金堂を初め多くの國寶を有して居る。名高い三井寺の晚鐘は金堂の左方前面の鐘樓中にある。
- (3) 矢 橋（濱大津より遊覽船）
 舊幕府時代には旅船此處から大津石橋迄五十丁の間を往復繁昌して居た所で湖上渡靜かに白帆未來する處又一種風の趣ありて世に之を矢橋の鐘帆と稱し近江八景の一として知られて居る。



(1) 比良霧雲 (濱大津より遊覽船)
伊吹山に次ぐ麓下第二の高嶺、比良の霧雲に名高い主峰蓬萊山は海抜四五五米、山容展望共に雄大で山麓はハート型として好遊の地である。

(2) 粟津松原 (濱大津より遊覽船)
琵琶湖の瀬く穿まりて瀬田川となる此一帶の青松湖岸に連る、即ち之が粟津松原で風光絶佳八景の一である。木曾義仲、今井兼平等陣取の古戦場である。

(3) 唐崎の松 (濱大津より遊覽船)
唐崎の夜雨で開いた様子の老木一つ松のある所で此の松は天正十九年大津城代新庄藤河守直頼の植えたものであるが惜しくも大正十年に全く枯死してしまひ巨龍の如き遺骸を残し、今は僅かに一本の芽生が其の間に勢のよい葉を張つてゐるに過ぎない。



(1) 彦根城址
(東海道彦根驛より西北一軒)
慶長八年井伊直勝の築城にして二十年の長年月を費して成つたものである。天主閣、城郭など現存して居り、琵琶湖の大觀を俯瞰し眺望雄大である。

(2) 竹生島 (濱大津より太湖汽船)
琵琶湖の北部にある一大岩礁で全島總て名物の竹を初め老杉古松懸崖として茂り奇岩怪石四表に創立し、神社佛閣其の間に隱見し無限の風趣を添へ居る。

(3) 多賀神社 (近江鐵道多賀驛)
神代御座の古社にして、伊弉諾大神、伊弉諾大神の二尊を祀る官幣大社、古來世人の尊崇敬も深い神社である。伊勢へ七度詣りへ三度、伊多賀様へは月参り、僅 儀

(4) 不動貯金銀行彦根支店
所在地 滋賀縣彦根町
開業 大正九年三月一日



大津繪ぶし
わしが心は矢走にはやる船、堅い約東石山寺の秋の月とは氣が知れぬ堅田に落つる雁がねもぬしは唐崎一つ松二つならびし瀬田の橋、思ひぞつもる比良の雪、ほんに三井ではござんせぬ所は今まで粟津にわたるを、こゝで大津の宿なれば日ごろの願ひも京かな。

府 都 京

府 都 京



日一月七年四十四治明 業 園 角路小宮通三市都京 地在所 店支都京行銀金貯動不 (1)
 苑神 坪餘百六千一萬三内境 壯大幣官る祀を皇天武極 (車下條二山東電市) 宮神安平 (2)
 示を範の園庭式本目め極を構結等趣の亭茶趣の木樹る純を水泉りあに後の殿本は
 (車下前宮條二電市) 宮離條二 (3)
 復政王年元治明がたつあで城居の郡の洛上軍持りもかに造築の康家川徳年八長慶で城條二舊
 華豪華飾構結 するあでもたつなと宮離年七十同れか置を代官政太りなと屬所の延朝際之古
 するあで極を



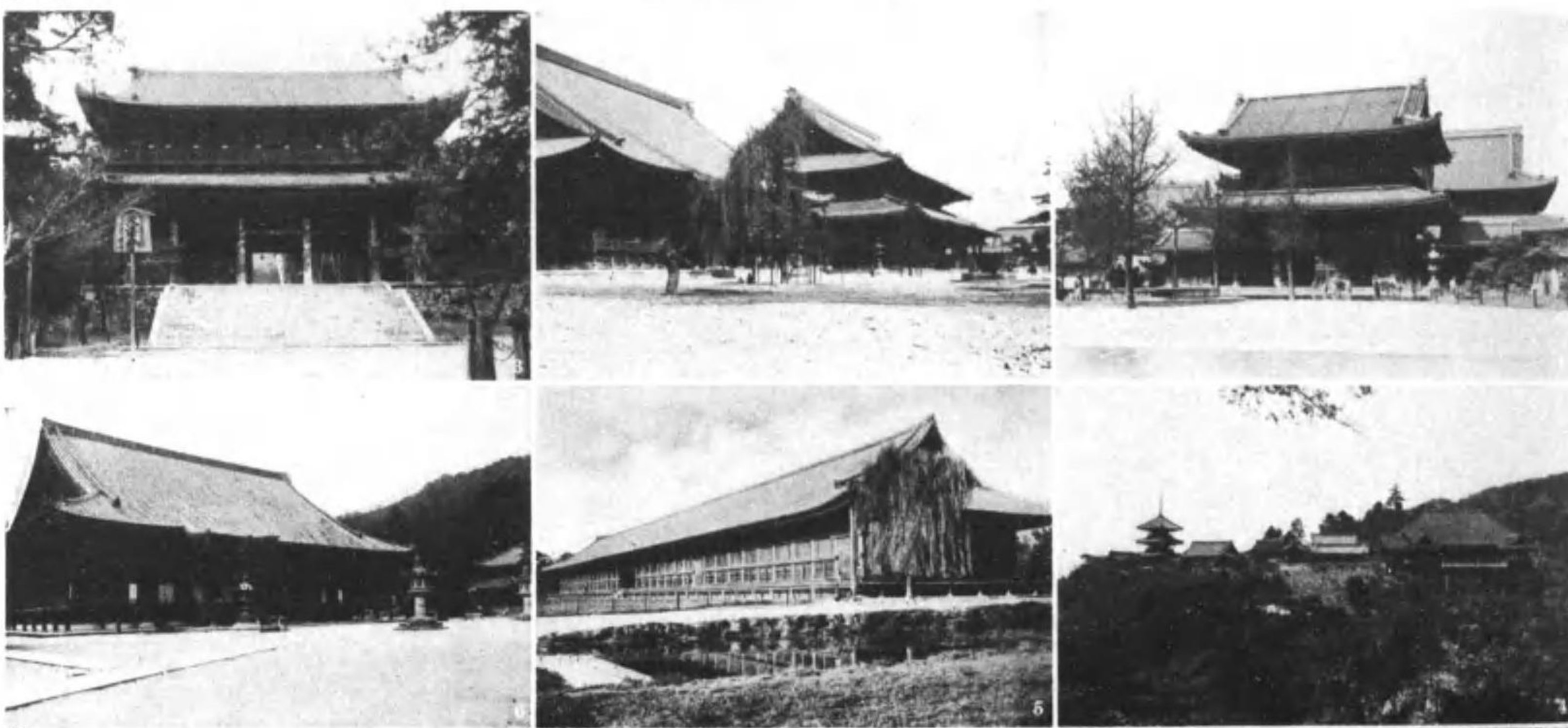
るあで極の近左橋の近右ち即は樹二の右左 警新の平三政安は殿宮紫の在現 するあで所ふ給せは行を體大の位即御代歴てしに殿正るあに面正の所御都京は殿宮紫 (車下町太丸丸島電市) 殿宮紫



(1) 北野神社 (市電北野下車)
 菅原道真を祀る官幣中社。本殿は慶長十二年豊臣秀頼の
 造営せるもので古來朝野の崇敬厚く、武將名家の献品多
 く、従つて國寶及び其の他の寶物が澤山ある。例祭は八
 月四日。

(2) 八坂神社 (市電祇園右段下車)
 素戔嗚尊外二神を祀る官幣大社。境内は祇園の花街に
 接し圓山公園に隣り東山脚城の中心地である。
 七月十七日より二十四日まで行はれる祇園會は氏子祭で
 「大坂の大高祭」「東京の神田祭」と共に日本三大祭と
 言はれて居る。

(3) 圓山公園 (市電祇園右段下車)
 八坂神社の東に當り、地面積二萬九千餘坪、林泉の美は
 東山一帯を冠しとして一段と引立つ。園内中央の枝垂櫻
 は、祇園の夜櫻として古くから名高く、花咲く春の麗夜に
 は美しい京洛士女かごとりまき袖のやうな情景を表す。



(1) 東本願寺 (市電七條島丸下車)
 慶長七年徳川家康が本願寺を分派させた
 もので、本派を西と言ふに對し、此の大
 谷派を東と言つて居る。數度炎上し現今
 のものは明治の新造營にかゝるもので其
 の壯大、京洛に冠たるものである。

(2) 西本願寺 (市電七條島丸下車)
 大谷派本願寺に對し、本派本願寺と稱し
 宗祖親賢上人蘇峰の宗家として本邦佛敎
 界に勢力を占めて居る。什器に國寶多く
 堂塔伽藍は殆んど桃山時代の壯麗な建築
 で特別保護建築物となつて居る。

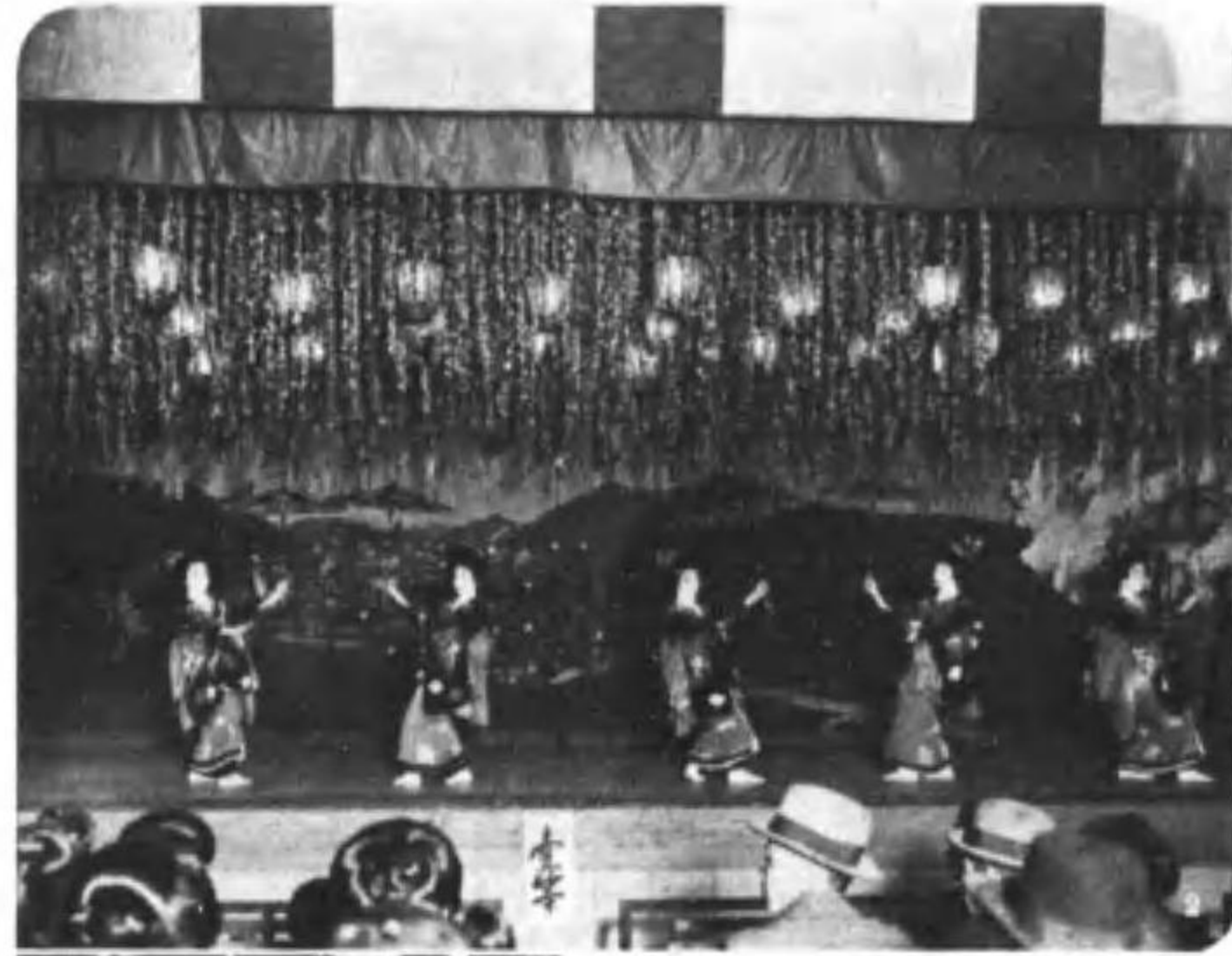
(3) 南禪寺 (市電南禪寺下車)
 圓山と號し臨濟宗南禪寺派の大本山に
 して、京都五山の首座に列する大禪刹で
 ある。寺内に國寶名畫多く本堂は明治二
 十八年炎上し同四十二年に建てられたも
 ので、境内に細川幽齋夫妻の墓がある。

(4) 清水寺 (市電西大谷前下車)
 音羽山と號し、相法宗の中本山で奈良の
 興福寺に屬して居る。現在の伽藍は寛永
 十年徳川家光の再建したものである。

(5) 三十三間堂 (市電大和路下車)
 蓮華王院と號し、天台宗に屬す。堂は北
 に長く長棟二〇米、四米毎に圓柱を建
 てゐるので三十三間堂といふ。堂内は
 千手觀音の像一千一尊及び二十八部衆
 が安置されて居る。今の堂は建長三年再
 建されたものである。

(6) 智恵院 (市電古門前下車)
 華頂山大谷寺と號し淨土宗の總本山で洛
 東第一の巨刹。宗祖法然上人が取山を下
 り開宗本化の聖地とした所である巨刹。
 勢張の彫刻を始め其他國寶が數多ある。

(7) 妙心寺 (市電北野下車)
 臨濟宗妙心寺派の大本山にして洛西の
 巨刹である。寺域廣く、建物は殆んど全
 部國寶である。子院多く、大法院の墓地
 には佐久間象山の墓がある。



(1) 嵐 山 (山陰線嵐山駅下車)
 山水の秀麗と櫻花の名所とを以て其の名廣く海外にまで知られて居る。昔時は紅葉を以て有名であつたが後醍醐、龜山二朝の頃吉野山の櫻を移されてより櫻花の名所となつたのである。
 明治天皇御製
 大堰川うつる影さへあかね夜に
 月見て渡る橋もありけり

(2) 京美人の踊
 天下無双の奇観、天橋段を以て其の名昔く知られ風俗の間にもありて太古より變動なく、長州廻船音聲の海を渡るが如く、宵松白砂風光明媚にして日本三景の一である。
 日本本のあとの二景は知らねとも
 先づ一の字とよめる橋立 加茂半蔵

(3) 天の橋立 (京津線天橋立駅下車)
 天下無双の奇観、天橋段を以て其の名昔く知られ風俗の間にもありて太古より變動なく、長州廻船音聲の海を渡るが如く、宵松白砂風光明媚にして日本三景の一である。
 日本本のあとの二景は知らねとも
 先づ一の字とよめる橋立 加茂半蔵



(車下町原河出今電市) 寺間鎮 (1)
 東政義利足め初す屬に派寺國相宗濟臨ひ呼と寺照慈はくし正
 院照慈名法の其りよに命遺後何の政義をのだん譽を莊山に山
 寺間金の山北。るあでのもたしと寺佛を莊山てつとを名の殿
 れさと觀の世後皆石一木一は聞應れら知を美の其てし對相と
 居て

日一十月二年五和昭 業 間 角丸島通條七市都京 地在所 店支條七行銀金貯勸不 (2)
 (車下社神野北電市) 寺間金 (3)
 形實の層三つ建に畔池は閉金。るあで山本格別の派寺國相宗濟臨ひ云と寺苑嵐山北で稱俗はと寺間金
 れば便が程の華豪の時當り垂を消金部全方四下上き置を鳳凰に上頂で



(1) 春日神社 (奈良市)

建御賀豆尊命外三柱を祀る官幣大社。本殿は東西に四柱並び建築優美總て丹塗、一九〇餘米の廻廊を囲みそれに千箇の釣燈籠が懸つてゐる。部分の夜は二千基の御燈籠と共に悉く之に點火し萬燈と稱し神々しい光景を呈す。神鹿は七百餘頭に及び三々五々駢を作つて人の袂を引く行事「鹿の角切」は十月下旬に行はれる。

(2) 東大寺大佛殿 (奈良市)

東大寺の本堂であり木造建築物として世界最大のものである。内部中央に高さ二六米の大涅槃會佛座像及び兩脇侍を安置す。本尊は普通大佛と稱され、鑄造物としては世界最大のもので今國寶に列せられて居る。



(1) 積翠の池 (奈良市)

奈良公園内にあり「澄まらず濁らず出ず入らず」といふ詩はまゆ魚七分に水三分」と云ふ南都八景の一つ、池畔に衣掛柳あり池心に投映し風光尚に優美。

(2) 不動貯金銀行奈良支店

所在地 奈良市上三條町
開業 大正七年一月一日

(3) 奈良公園の神鹿

不動貯金銀行敵傍支店
所在地 奈良市八木町
開業 大正八年四月一日



大正十二年八月廿八日 大谷山南東に皇座の靈地を創し神武天皇及皇后五十餘命を奉祀す。大谷山南東に皇座の靈地を創し神武天皇及皇后五十餘命を奉祀す。大谷山南東に皇座の靈地を創し神武天皇及皇后五十餘命を奉祀す。



(1) 敵傍山東北御陵 (大谷山南東、敵傍山下車)
皇祖神武天皇の御陵で、神皇正統記八五四米、
続草子に「重隆と王祖」とを以てし、松樹其の
間に風致を添え神代人をして神威の崇さを思
はしむ。



(2) 桃山御陵 (奈良電線桃山御陵前下車)
明治大帝の御英霊水へに鎮り給ふ御陵墓にし
て御陵は上開下方の式。御用材は小豆島の御
影石、白い玉櫛と松の緑が相照映して森嚴崇
高の氣四處に漲る。



縣 長 奈



呼溪背山はにり盛花のてけかに旬初月五りよ月中旬四。所名の花櫻の一本日りよ古注（車下口野吉嶺山歌和）**山野吉**
 古萬草葺の年餘十四廷朝野吉にふ加めしらあ感の「りかばとはれこはれこ」予は思てしを人くはるざらな花所る到
 「山野吉しなかに書軍もりよ書歌」るゐてめ留を史哀の
 一め納に殿佛てつ載を愛が行正楠。たつあで寺願動の共はに時の朝野吉し屬に宗土淨（車下口野吉嶺山歌和）**堂輪意如**
 の堂。る居てれる蔵てしと寶寺尙今は屏たし刻とし「弓持ばへ思てねかとじらへか」で鑑し記を名姓の人三十四百族
 るあが殿御の皇天嗣履後には後

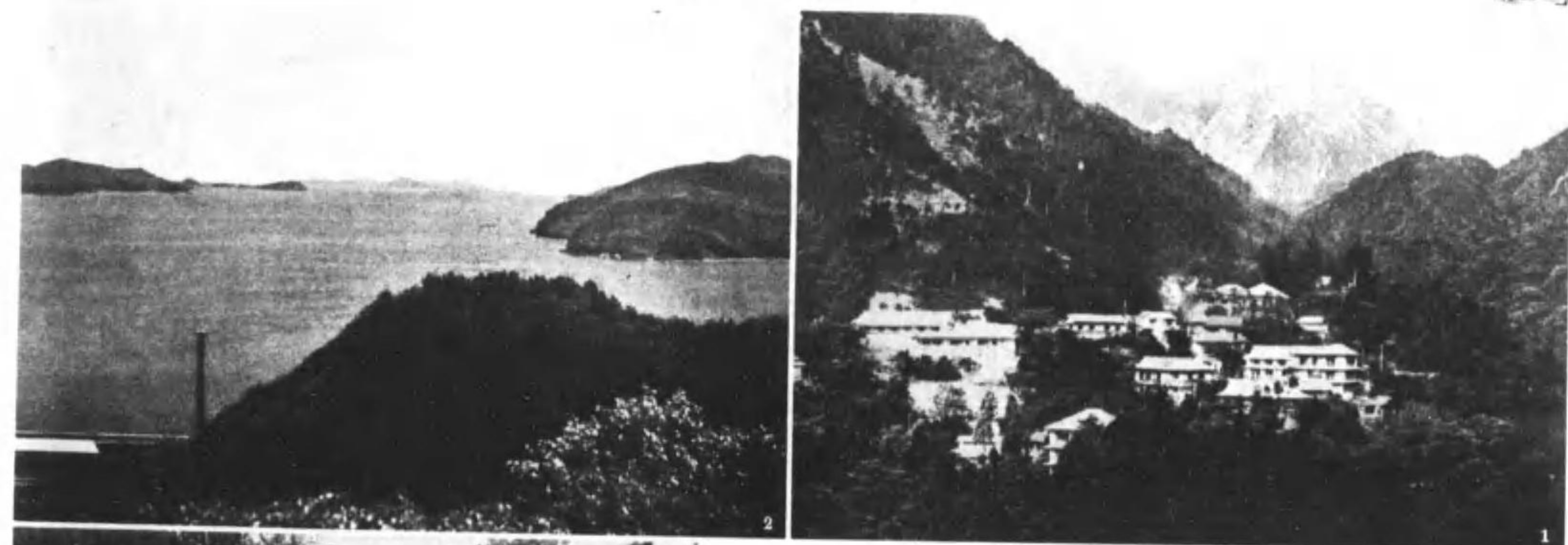
縣 長 奈



中術美古邦本。るあで跡遺の大最ぶ恩を時當の隆興教佛で築建造木の古最昇世は築建のそてしにつ一の山本大三宗相法りいかに立建の子太徳聖年五十の皇天古推（車動白・車下寺隆法級井標）**寺隆法**
 るあで初禪の一第中寺願動朝歴くなのもるづ出に右の寺のこて於に點るす存を皇舊の共



。橋のり邊繪繪るたし架に川鈴十五口入の苑神宮内 橋 治 宇 日一月一年七正大 業 開 角町川豊市田山 地在所 店支田山行銀金貯動不



- (1) 湯の山温泉 (四日市城道湯の山驛より自動車
三瀬川の清流に沿ひ、三面山を貫ひ、東方遠く展けて伊勢灣
を下照して風光佳。山には標樹多く花明は四月中旬)
- (2) 鳥羽灣 (参宮線鳥羽驛)
古米伊勢灣口の良港として榮えたる所で其の風景は奥州の松
島に比すべき明細の地。灣内官島に於ける美女の眞珠採り
は旅客を魅む。
- (3) 不動貯金銀行四日市支店 所在地 四日市市中町
開業 大正七年一月一日
- (4) 朝熊岳金剛殿寺 (内宮より約七軒・電車・ケーブル)
海拔四七八米の朝熊山頂にあり、曾懸幕の開創南勢第一の靈
刹。國寶、珍寶を多く蔵して居る。
伊勢へ参らば朝熊をかけよ 朝熊かけねば片参宮。





(1) 阿波瀨 (多喜野河瀨下車)
 昔漁夫平次、老母の難病に阿波瀨に棲む矢乾魚が鱈の良薬と聞き、
 禁断を犯して網を投げた罪により刑せらるゝや以後毎年其の事あつ
 た夕に當り海上人無くして網を投する聲とすると里人平次の病魂を
 慰めんがため阿波瀨を建てたと傳えられてゐる。 芭 蕉

(2) 津市街 (參宮線津驛)
 「伊勢は津でも」の民謡に名高い津は屋敷三十二萬石の城下、伊勢
 第一の都會にして、人口六萬六千。

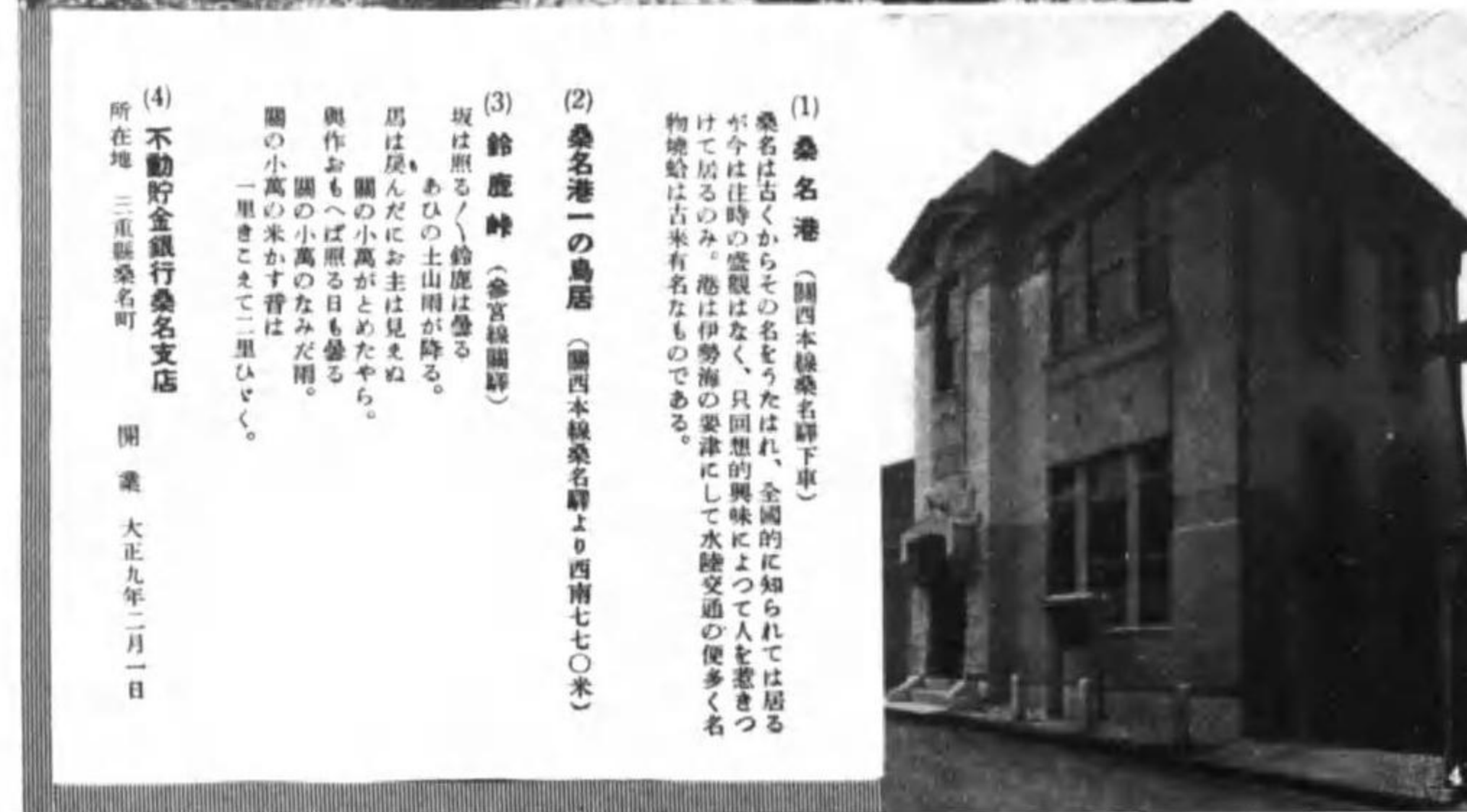


(3) 不動金銀行支店
 所在地 津市中之町
 開業 大正七年一月一日

(4) 赤目八十四瀨 (伊賀名張下車)
 赤目八十四瀨は、大和川に注ぐ川瀨、伊賀から河口まで大
 五さは「瀨の引布」中流。す稱と八十四瀨のそのもも
 絶光風時四し観照楓櫻雪山滿。す景を觀像も觀米五
 。るあで名有に特は葉紅の秋。住



二 見 (岩崎夫) (參宮線見下瀨) (大基岩上海に立其の間に往運を張る此處から日の出の觀を拜する古来の名有。然し然の亦捨てもいのもあ。二



(1) 桑名港 (關西本線桑名驛下車)
桑名は古くからその名をうたはれ、全国的に知られては居るが、今は往時の盛衰はなく、只回想的興味によつて人を惹きつけて居るのみ。港は伊勢海の変津にして水陸交通の便多く、物産は古米有名なるものである。

(2) 桑名港一の島居 (關西本線桑名驛より西南七七〇米)

(3) 鈴鹿峠 (桑宮線關津)

坂は照る／＼鈴鹿は登る。
馬は戻んだにお主は見えぬ。
關の小高がとめたやら。
關の小高のなみだ雨。
關の小高の米かす音は
一里きこえて二里ひびく。

(4) 不動貯金銀行桑名支店 開業 大正九年二月一日
所在地 三重縣桑名町



(1) 香風洲神社 (桑宮線高茶屋驛より三行六・自動車)
天神大神の御神なる神日女神を祀る神社。欽明天皇の朝創建せしもので境内廣闊。老杉鬱蒼と茂つて居る。靈屋の神として近郷の尊徳が厚い。

(2) 香風洲浦 (桑宮線高茶屋驛より三行六・自動車)
海水浴場として知られてゐる。

(3) 本居宣長の書齋 (桑宮線松坂驛より六〇〇米)
松坂公園 (蒲生氏郷の城址) 中にある。

(4) 不動貯金銀行松坂支店
所在地 三重縣松坂町
開業 大正九年三月一日





新羅の一第内海め極を置壯は坊僧び及塔堂で山本總の宗實眞。基開の師大法弘（極野高造鐵海南）**寺峯剛金山野高**
秀の衆八團四。米五八九拔海は山。軒二五に實剛周城寺てしに麗任大高もれ何坊僧・堂本・堂金・門大。る居ては云と
る居てれさ寫が標標の山全くよはに「狂物野高」曲通。境運幽く聞を聲の鳥僧法佛にか冷流溪しら鏡を峯
日一月三年九正大 業 開 町淺湯縣山歌和 地在所 店支淺湯行銀金貯動不



（車動白り上群坊御極西勢紀）**寺成道** (2)
仁堂本。るみてれさ美繪に口く昔てつ上に設傳の郎清珍安
るみてつなに寶國等色二下上巻繪起錄寺成道・門王

（車下寺井三紀繪西伊紀）**寺井三紀** (1)
三十三國西てしに利名の宗實眞義古し號と寺寶剛金院國造
せ立建の人上光爲僧の唐年元顯實。るあて所礼の香二第所
る居てつなに寶國は塔寶多・標鐘・門山てのもる

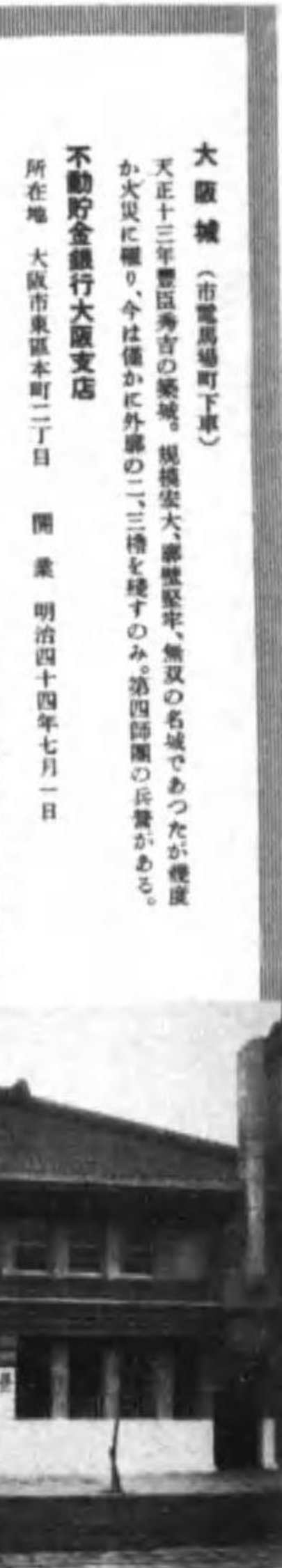
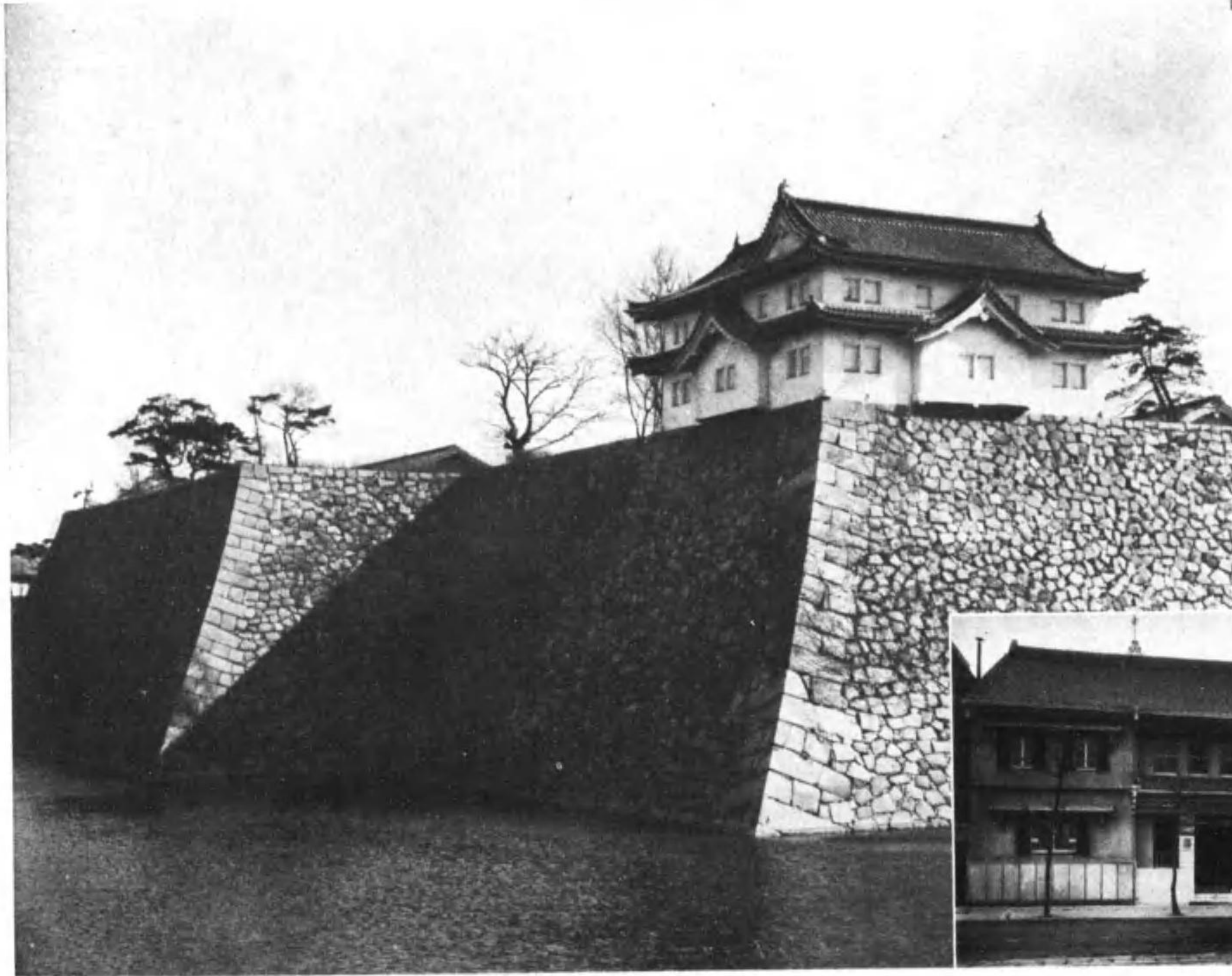
(5) **不動貯金銀行和歌山支店**
所在地 和歌山市十三番丁角
開業 大正五年四月一日

(3) **和歌山城**（和歌山驛より一軒）
今旅團の兵營となつてゐる。城の上からは紀泉の海を隔て、
遠く阿波の山々を望む事が出来眺望する雄大。

(4) **和歌の浦**（和歌山驛より電車・自動車）
天橋立、三保松原と地形を同うし、青松白砂の間にある其の勝
由來天下に聞えて居る。近年和歌浦の西方に連る一帯の山地
を拓いて遊園地となし、新和歌の浦と稱し地形全く一變した。

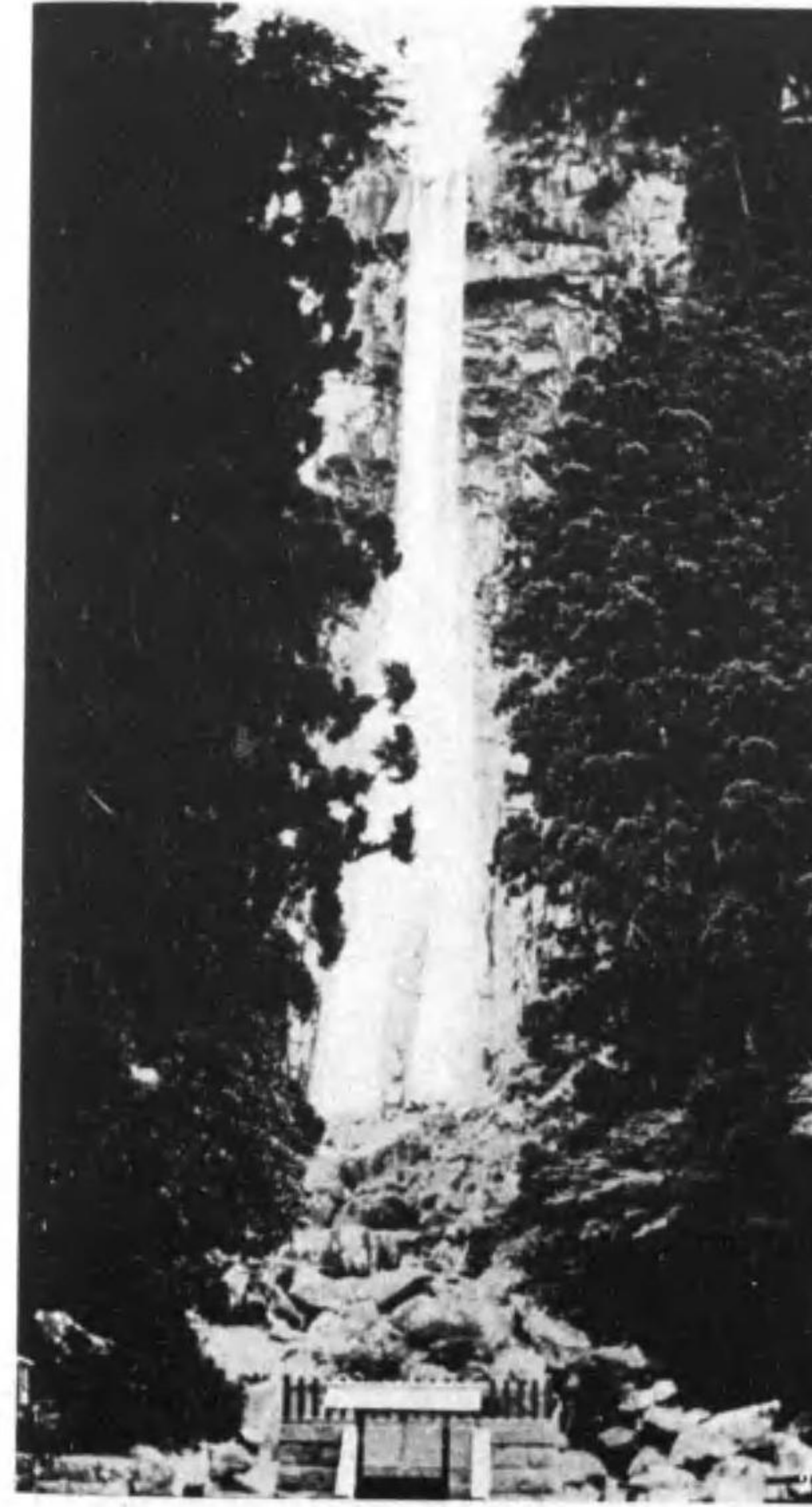


大 阪 府



大阪城 (市電馬場町下車)
 天正十三年豊臣秀吉の築城。規模宏大、雄麗異常。無双の名城であつたが、慶長
 か大坂の陣、今は僅かに外堀の二三櫓を殘すのみ。第四回國の長賞がある。
 不動貯金銀行大阪支店
 所在地 大阪市東區本町二丁目 開業 明治四十四年七月一日

和 歌 山 縣



(車動自りよ縣谷瀬三線東伊紀) 丁八瀬 (1)
 時對てり追に右左崎峻の根千處るなと脚面水てみ流流漣の川野瀬。る居てつ舟て以を船船の下天で渡支一の渡上川野瀬
 る居てめ極を絶奇の其は畫南の然白大くなり影折響曲屈深し
 (車動自・車下縣知那道鎮宮新) 瀬の智那 (2)
 名の本日米一十二福米七五一事るす下直り懸に腹山智那。る居てれら知てつよに行荒の人士學文し稱と瀬八十四の智那
 るあが等社神野熊社中幣官び及寺渡岸青靚智那に近附てしに瀬

大 阪 府



不 動 産 金 行 西 支 店 (4)

所在地 大阪府京橋区上通一丁目
開業 大正十五年十一月一日



- (1) 千日前 (市電千日前下車)
東京の浅草、京都の新京橋に匹敵すべき盛り場で、大小の劇場、映画館、飲食店等軒を連ね昼夜を分たす頗る喧嘩雑沓を極めて居る。
- (2) 瀬波橋 (大阪驛より南東八丁)
淀川に架したる大阪三天橋の一で、橋上眺望に富み殊に納涼の好適地である。
- (3) 通頓堀 (大阪驛より四軒先)

大 阪 府



(1) 天王寺 (市電市西門下車) 院山龍山院 (院山龍山院) 宗天しと宗本別山本。あで本
(2) 不動産金行大阪南支店 所在地 大阪府北橋南心
(3) 心齋橋 (三軒三軒より南東八丁) 第一大阪大し比橋店南大

大 阪 府



店支場行銀金貯動不 (1)
角道大町大市場 地在所
日一月四年五正大 業 開

(車下園公古住橋本海南) 社神吉住 (2)

鶴崎魚は造博の殿社。社大幣官る祀を神三外命男簡底てしに建創の年一十政權后皇功神り在に方南の市阪大。
るあでのもい高名は龜燈高と福反の内境てしにり造吉住たしは願を備の翼

(車下堺橋海南) 濱大堺 (3)

るみてれらめ秘が器物の去過なツツチノキエの多幾尙も今で處たし來往にり頻の船隻南し稱と浦の堺は昔。
るあで名有もてしと場浴水海てしに住絶光風



大 阪 府

(3) 天満天神宮 (市電南下車)
天満大目在天神外四神を祀る府社。七月二十五日の夏祭には神輿を舟に載せて淀川を下る其の壯觀は古より有名なるものである。

(4) 大阪港の積荷
長さ四百五十米、水深僅に一萬噸以上の汽船を繋泊せしむるを得。近くは大阪灣の深碧、遠くは四國の青嶺淡々たるを望み、右に六甲摩耶の山翠を指し、左に和泉紀伊の海岸を見、社大の氣、自然の景市申第一の風光である。



店支北行銀金貯動不 (1)
(中塚新下目) 九七日丁六橋橋神天區北市阪大 地在所
頃月十年本 業 開

(車下橋江大寄市) 園公島中 (2)
嶼島一てれま包に川堀佐土は南川島堂は北。政創の年二十三治明。
るあが専堂會公・社神國豊に内園で所るせなを



兵 庫 縣



- (1) 不動貯金銀行神戸支店
所在地 神戸市相生橋東詰 開業 大正四年五月十日
- (2) 湊川神社 (神戸港より北一〇米)
楠木正成を祀る別荘官邸社。明治四年の創建。境内に有名な徳川光圀の建てた「嗚呼忠臣楠子之墓」の碑がある。
- (3) 甲子園野球場 (阪神電線)
阪神電線が百六十萬圓を投じ三年を費して竣工した一萬四千坪の大野球場にして観客人員百八萬人。
- (4) 神戸港 (東海道本線終點)
關西地方貿易上の門戶。横濱港と共に本邦の二大通商港である。

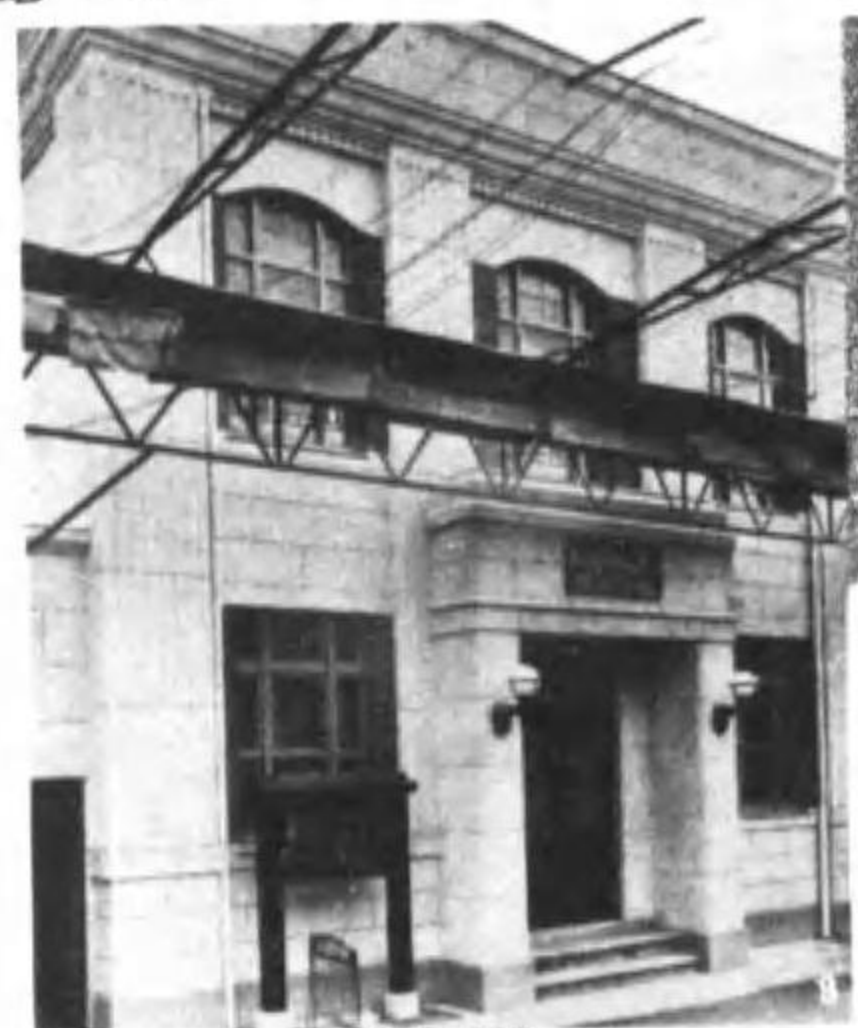
大 阪 府



- (1) 楠正行の墓 (四條畷より西約半軒)
高さ一米餘の雄姿たる大石碑に「附従三位楠正行朝臣之墓」と刻されて居る。傍に楠樹蒼天を蔽ひ轉た楠氏の功業を想はしむるものがある。
- (2) 四條畷神社 (片町橋西邊より東約一軒)
履盛山の西腹にあり、楠木正行及び正時の靈を祀る官幣大社。社壇は正行が決死官野を出で、敵の大軍と奮戦した處今猶四條村字北條にその遺蹟を存して居る。明治二十二年の創建にかゝるものである。
- (3) 砂川の奇蹟 (南海電線井筒より東約三軒)
岩石が風化浸蝕作用によつて作られたる奇蹟。泉州の耶馬溪として知られて居る。
- (4) 不動貯金銀行岸和田支店
所在地 岸和田市本町 開業 大正九年二月一日



縣 庫 兵



(3) 不動貯金銀行姫路支店
所在地 姫路市光源寺前
開業 大正八年四月一日



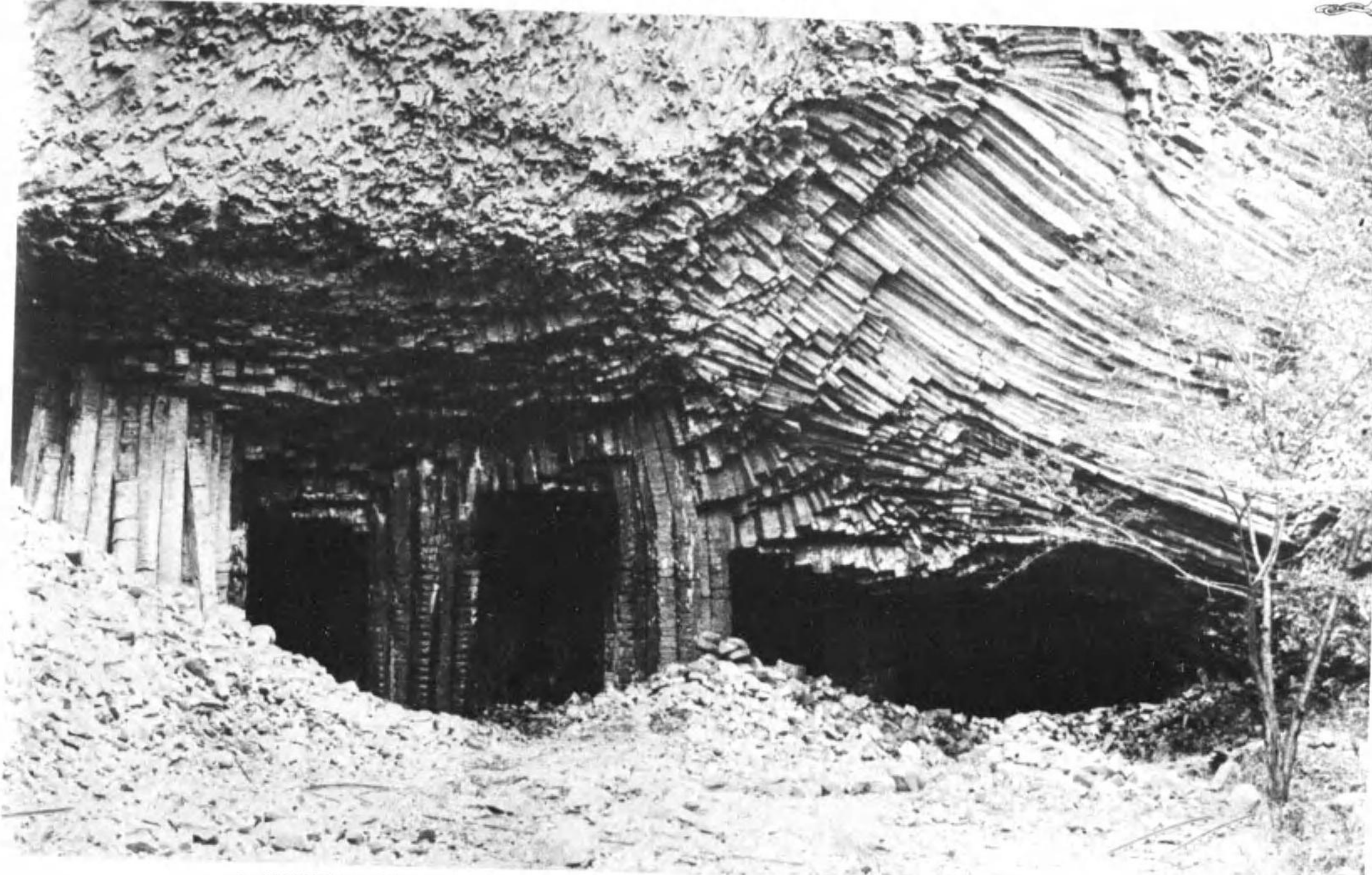
(1) 白鷲城 (姫路驛より北一軒七)
天正九年羽柴秀吉の築城にして五層の天主閣は姫路市の空高く雲表を覆いて聳え立ち名古屋の金城と共に天下の名城として有名である。城址には今第十師團司令部が置かれて居る。



(2) 寺敷園 (りお便の車動自りよ驛路姫)

二第所三十三國西、るあで利名の宗台天てしに基園の人上空性りあに上山寫書れら知てしと地勝の特屏は秋景遊は夏樓觀は春すえ絶に常客賽。所札の番七十。る居て

縣 庫 兵



いなへ船が客觀時四れらせ護保てしと物念記然天は今。るみてし星を觀寄る類し成形を屋家の然白構結の其り成てに岩武玄て總井天景傾は洞 (車下洞武玄極陰山) 洞 武 玄

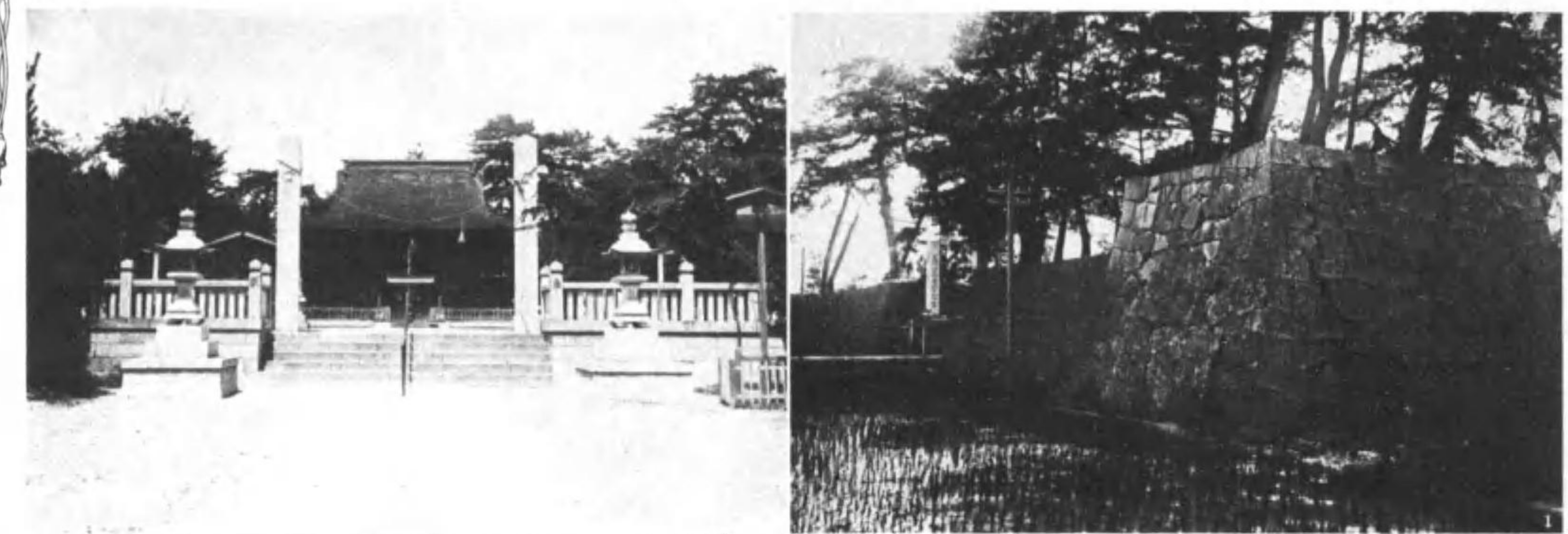


(1) 明石灣
近海にて漁獲する明石鯛によつて有名である。
ほの／＼と明石の浦の朝霧に
島がくれば行く船をしど思ふ 樽本人丸

(2) 須 摩 (山陽線須磨驛)
明石海峡に横ける一帯の海濱須磨は風光の美のみでなく
源氏の君、行平の風流、平門一時の夢など、史的情趣を
帯へ、懐古の情に堪へざらざるものがある。

(3) 舞子の濱 (神戸より電車の便あり)
海濱の風致に加ふるに南は明石海峡を隔て、遠く淡路島
と相對し風光絶佳。接勝の海濱中第一の眺望。四邊の一
帯は縣立公園である。

(4) 不動貯金銀行明石支店 所在地 明石市殿治屋町角
開業 大正九年二月一日



(1) 赤穂城址 (赤穂町の中央)
義士で名高い長垣公の祖父淺野長直の築城。現在はたゞ
此の石垣を殘すのみである。

(2) 大石神社 (縣社)
大石屋敷内にあり其の遺蹟を保存す。附近に山奥茶行の
興業がある。

(3) 不動貯金銀行加古川支店
所在地 兵庫縣加古川町 開業 大正九年三月一日

(4) 石の寶殿 (山陽線加古川下車)
石殿を神體として拜殿を設け大に寶命少彦名命の二神を
祭る。上古の遺蹟にして權衡者所中第一の奇觀である。



兵 庫 縣



- (1) 城崎温泉 山陰城崎町
- 昔から有馬や道後と共に山積ある温泉地である。
- (2) 布引懸瀧 (三軒より二軒半)
- 布引溪谷の深く深き所落する事二十有餘米、現今上流に貯水池を設けた爲め水勢全く衰へるに至つた。
- (3) 城崎スキー場

露光量違いの為重複撮影



兵 庫 縣



城崎三景
 舟引遊覧
 城崎又平下堤

岡 山 縣



(電市・八軒一東山岡) 園樂後
 ありあで名有てしと一の園公三本目ひ遊にきし宜の其植栽の木花置布の石泉し對相に城山岡にち道、て隔を川旭に東
 した處に學校景勝の具りある等軒池廣・電松茂・隔湖望・亭春延に内園
 日〜月四年五正大 業 開 角町ノ上市山岡 地在所 店支山岡行銀金貯動不



五十の共 眞寫集募報月コニコニ



二龍藤伊(9) 子國川早小(8) 市徳島中(7) 夫申 林(6) 治明野岡(5) 【内城區店支島廣】 子洋吉有(4) 平昌本山(3) 一慎尾松(2) 子機尾松(1) 【内城區店支山岡】
 宏康林小(18) 【内城區店支下】 ワヨリ本岡(17) 子チミ本桑(16) 生廣藤遠(15) 藤修原杉(14) 子代美田山(13) 治政田川(12) 正貞野上(11) 治欣野中(10)
 夫喬野天(22) 弘守田武(21) 【内城區店支吳】 以圭田吉(20) 子喜多澤藤(19)



(1) 金光町全景 (山陽金光町)
 金光教本部の存在によつて町名を得、また今日の繁榮を博得したのである。金光教本部は金光驛の東方一〇〇米の所に在る。

(2) 岡山城 (岡山驛より東二軒)
 壁に板を張り黒いので烏城と稱し今日残れる天主閣としては日本中の指のうちに入るべきものである。

(3) 吉備津神社 (中國鐵道吉備津驛より南一軒跡)
 吉備津命を祀る官幣神社。規模の宏大建築の壯麗なる事備中一岡に冠たるものである。

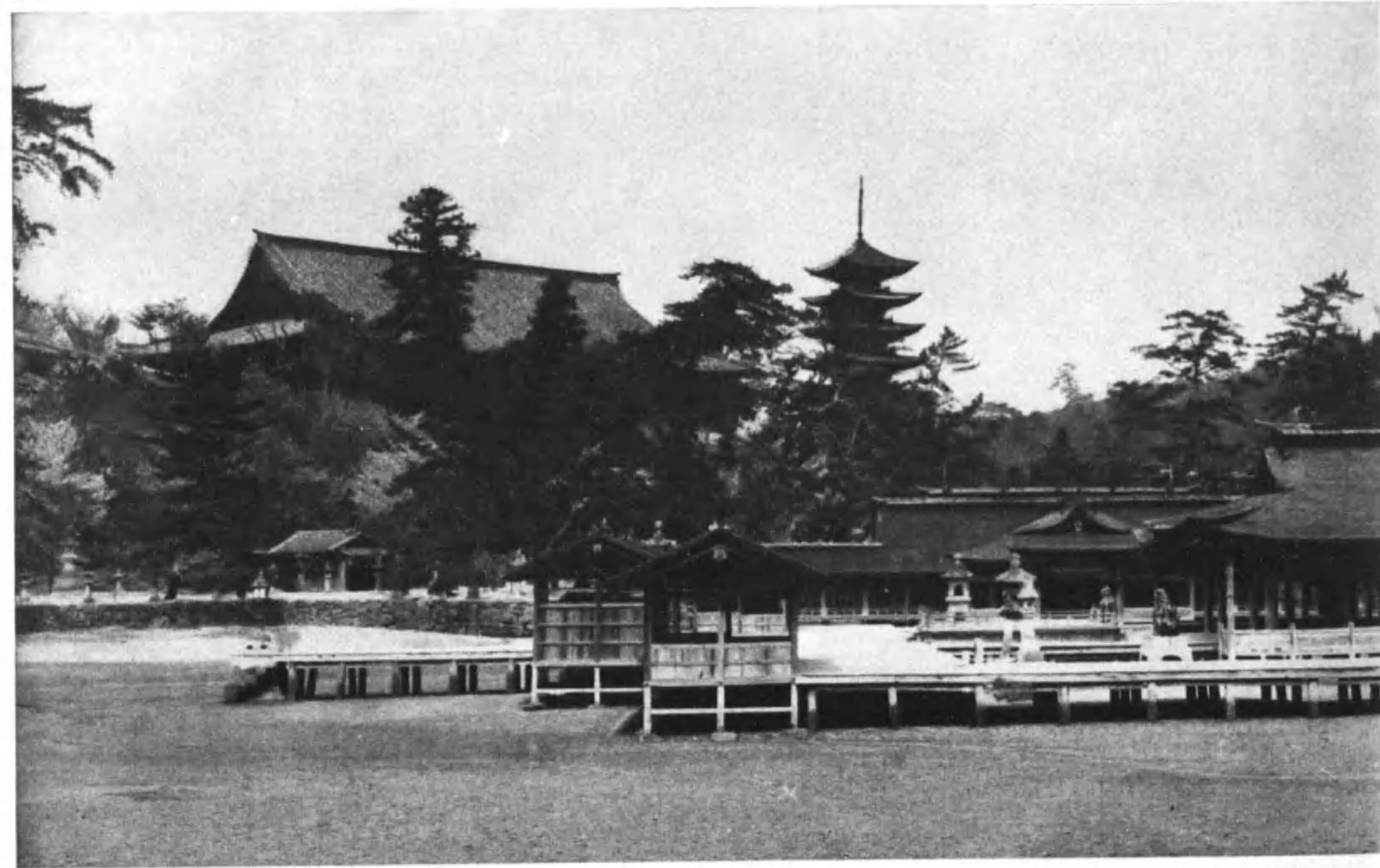


廣島城 (廣島驛より西二軒七、電車・自動車)
 天正十年毛利輝元の創築したもので、五層の天主閣は現存し今は第五師團司令部が置かれて居る。

長くも明治二七八年の戦役で、明治大帝親しく征伐を廣島に駐め給ひ、城中を大本營となし、八開月の入しきに且り海陸の軍事を統し給ひ内外の政務を御裁断あらせられたる國史上不朽の所である。

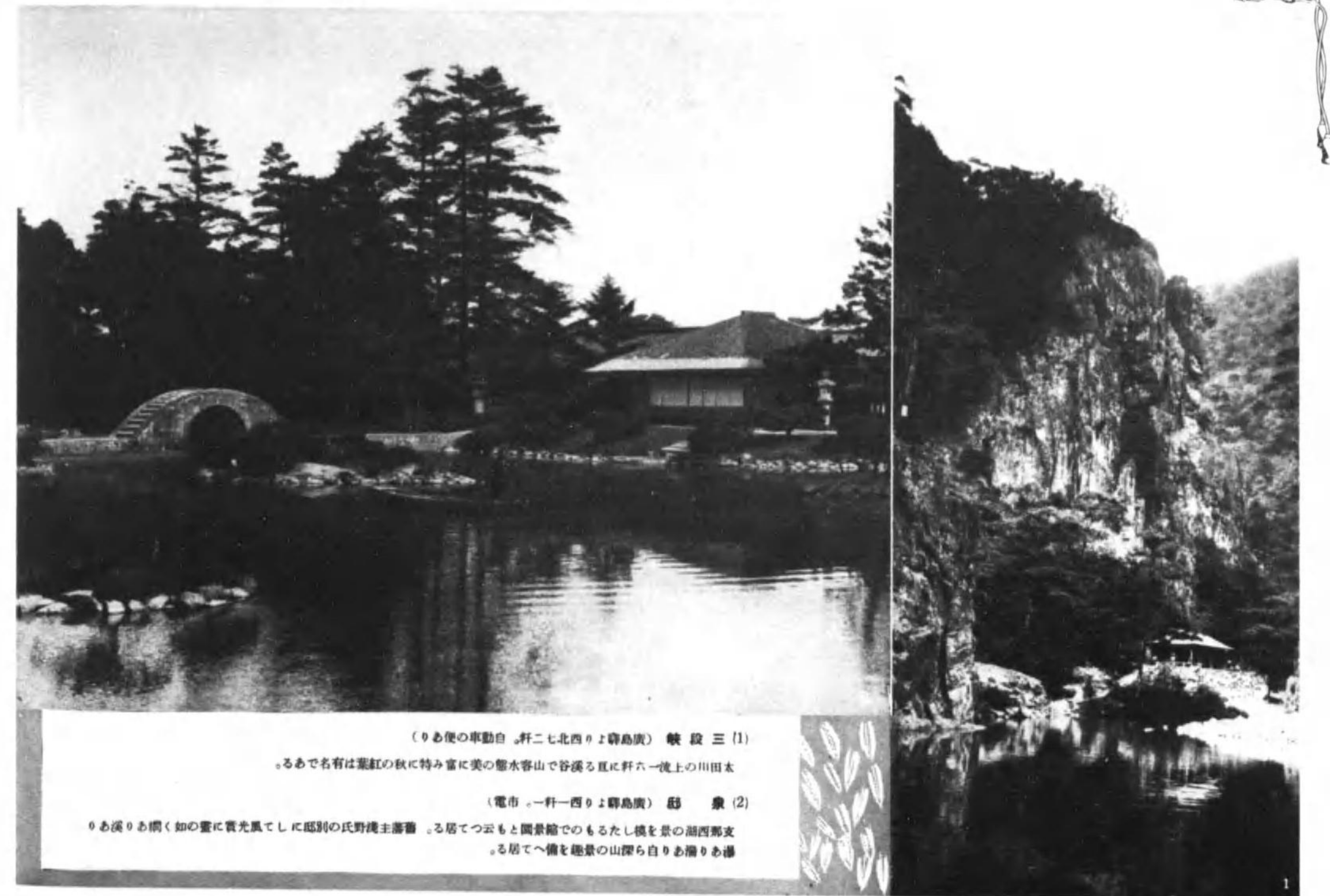
不動貯金銀行廣島支店 所在地 廣島市大手町
 開業 大正五年四月一日

縣 島 廣



かく古。る祀を神二外神大皇照天はに殿拜てしに社中幣官る祀を神女二外命姫島杵市は神祭。細明光風りるに島殿一の景三本日（りあ船絡連りよ橋樓の前驛。車下驛島宮嶺陽山）社神島廣
るるあに所ため極を妙の布拂の窓間殿し用利を形形の然白山江は禰結の社神のこそ凡。るあで所るす崇尊の民國てしと神の護御家國皇皇く厚敬崇の門武信着の廷朝ら
間太豊 人へのうの雲ふもおとやはせみ 島きついぬかあに詠りよし聞

縣 島 廣



（りあ便の車動自。軒二七北西りよ驛島廣） 景 三 (1)
るあで名有は葉紅の秋に特み富に美の響水谷山で谷溪る瓦に軒六一夜上の田田太
（電市。一軒一西りよ驛島廣） 景 象 (2)
りあ深りあ間く如の雲に貫光風てしに邸別の氏野茂主藩藩。る居てつ云もと園景館でのもるたし橋を景の湖西那支
る居てへ備を趣景の山深ら自りあ瀧りあ瀑

縣 島 廣



(1) 不動貯金銀行尾道支店 所在地 尾道市土堂町
開業 大正九年二月一日
(2) 尾道市全景
沼隈半島の西方松原の兩端の中間に尾道がある。
大陸交通に恵まれて市況繁榮人口二萬四千餘に達す。



(3) 吳市街
往時安藝郡南部の一僻邑は今大正軍港都市となつた。鎮守府造船廠製鋼所海軍園があり、江田島には海軍兵學校がある。人口約二十萬。
(4) 不動貯金銀行吳支店 所在地 吳市 中 通
開業 大正七年一月一日

縣 島 廣



第勢形へ控に前を等島后島・島天辨・島藤仙れら知てしと津要の海内戸瀬來古てしに地勝名の定借 (車下驛船鐵經朝りよ山福) 浦の新
酒命保は産名。るあで島藤仙はるへ見に方前。る居てれは云と一
一山立お様殿はれあ 一ぬら居もせ浮ぬせもえ生らか地 一か島浮かたえ生らか地 一は島藤仙のひ向の朝 明船の朝
日一月三年九正大 業 開 角町船市山福 地在所 店支山福行銀金貯動不

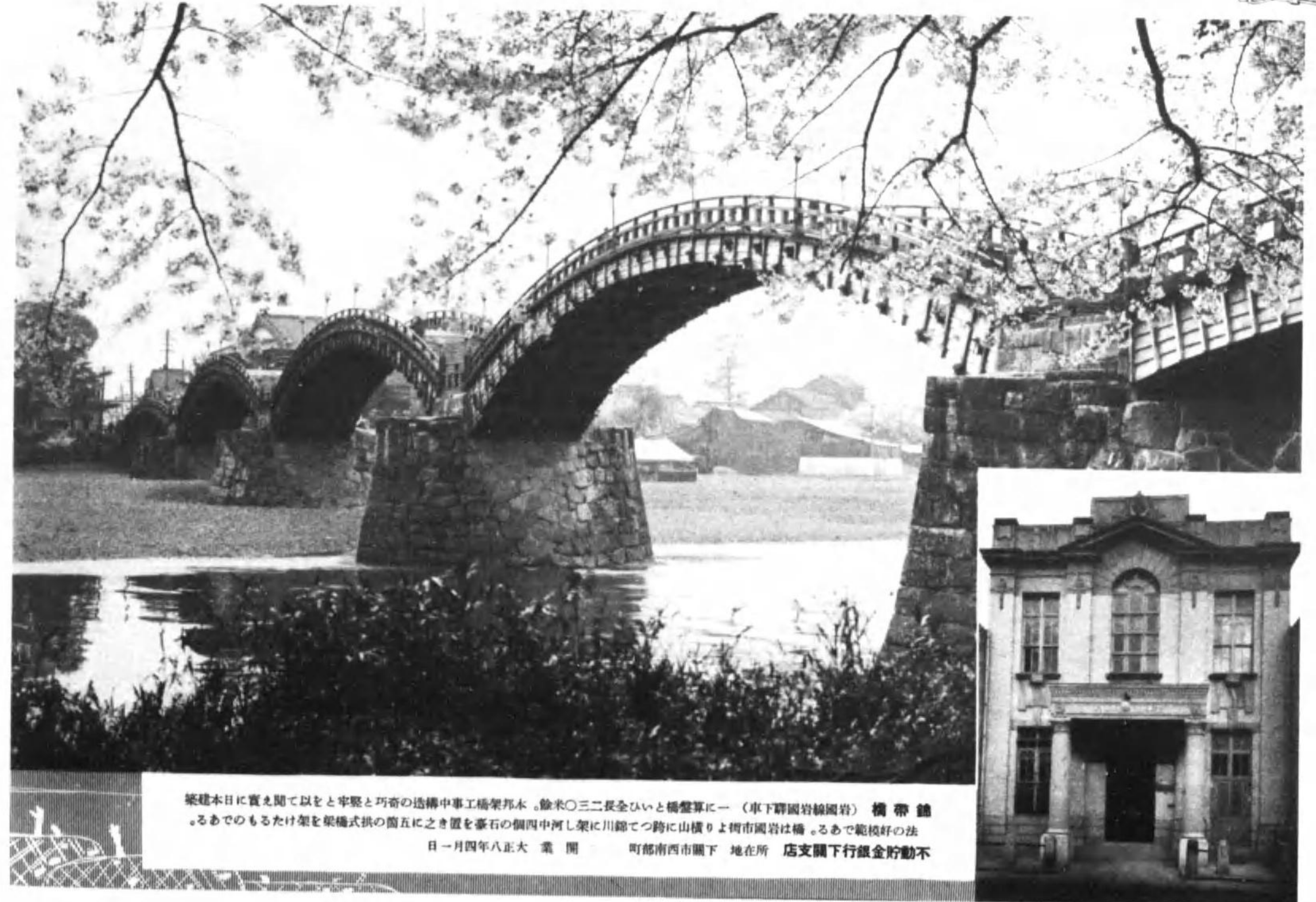




(1) 青海島の獅子岩
 (美禰正明市下車。自動車の便あり) 仙崎町の前面日本海上に横はる周圍二八軒の島。奇巖林立、豪宕雄大の景観。キリッポイにて五時間乃至七時間にて一周する事が出来る。

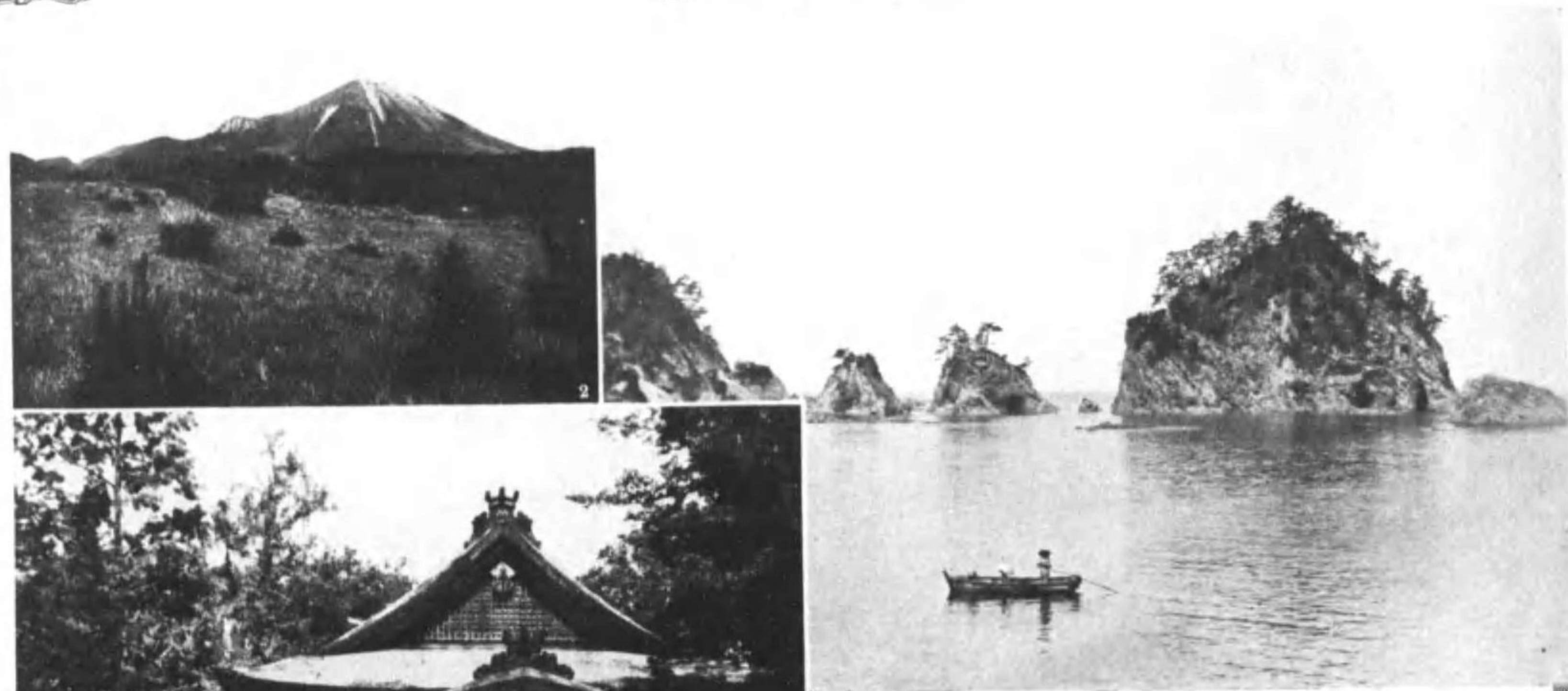
(2) 長門峡 (山口長門峡下車) 萩より金部出合まで約一〇軒に亘る阿部川溪谷を長門峡といふ。峡谷一帯殆んど石英粗面の大岩石に覆はれ、到る所深潭、飛瀑あり兩岸緑樹茂り合ひて瑠璃に映じ實に天下の奇勝である。

(3) 壺の浦 (赤間宮より東數百米) 都平の古戰場として知られて居る。二むかし榮華の夢は枯でさめ。注進のたぎに平家は後家が嘘え。



築建本日に實え聞て以と宇繁と巧奇の造構中事工橋架邦本、餘米〇三二長全ひいと橋盤算に一 (車下群國岩輪國岩) 橋帶鐘。るあでのもるたけ架を架橋式拱の箇五に之き置を豪石の個四中河し架に川歸てつ跨に山横りよ街市國岩は橋。るあで龍橋軒の法
 日一月四年八正大 業 開 町都南西市關下 地在所 店支關下行銀金貯動不

鳥取県



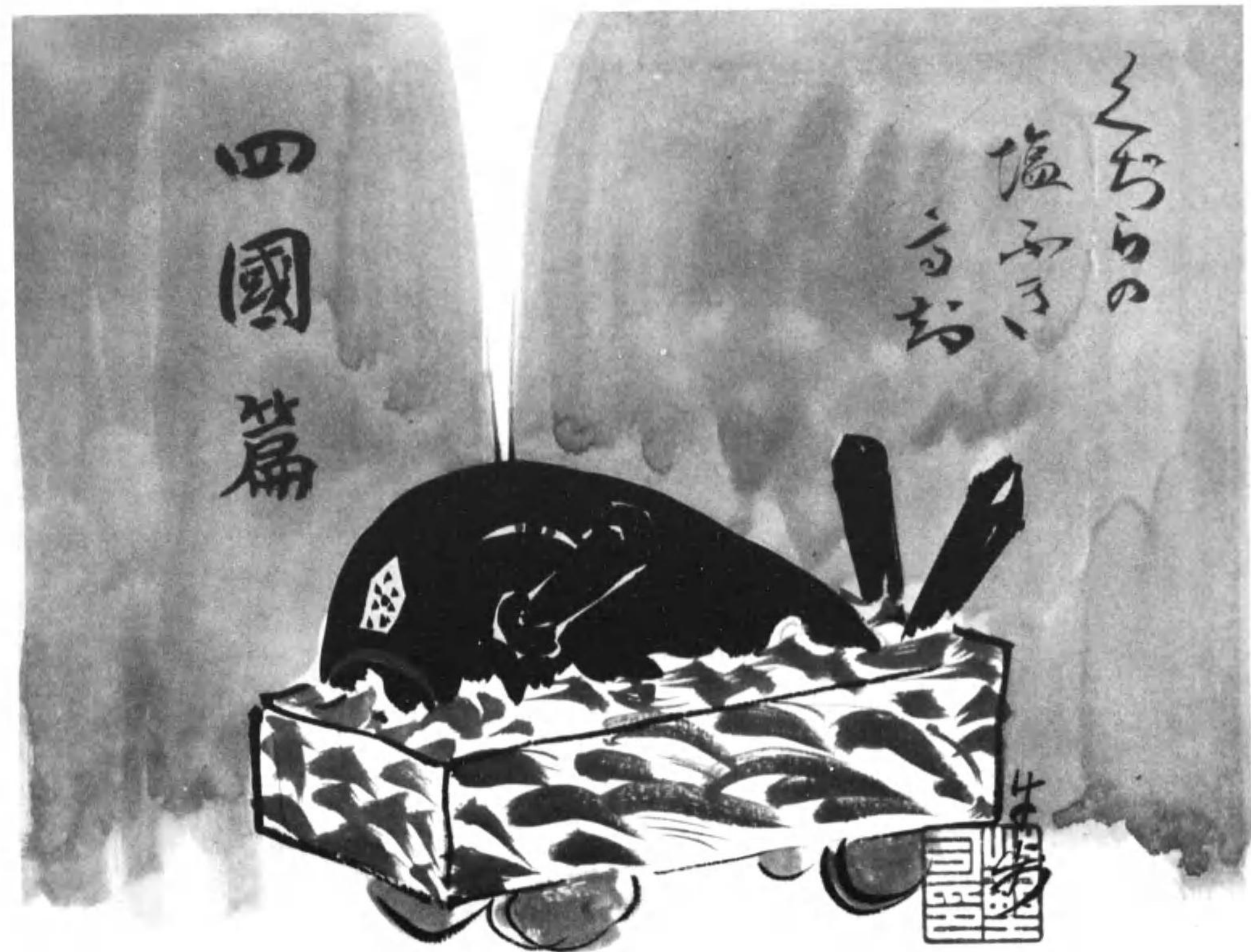
(1) 鳥種菜 (岸海浦宮)
 一鳥にぎすに春來ば花の種が候
 (2) 大山 (山崎)
 (3) 社神倍宇 (野五十東りと取鳥)
 (4) 安家廟

島根県

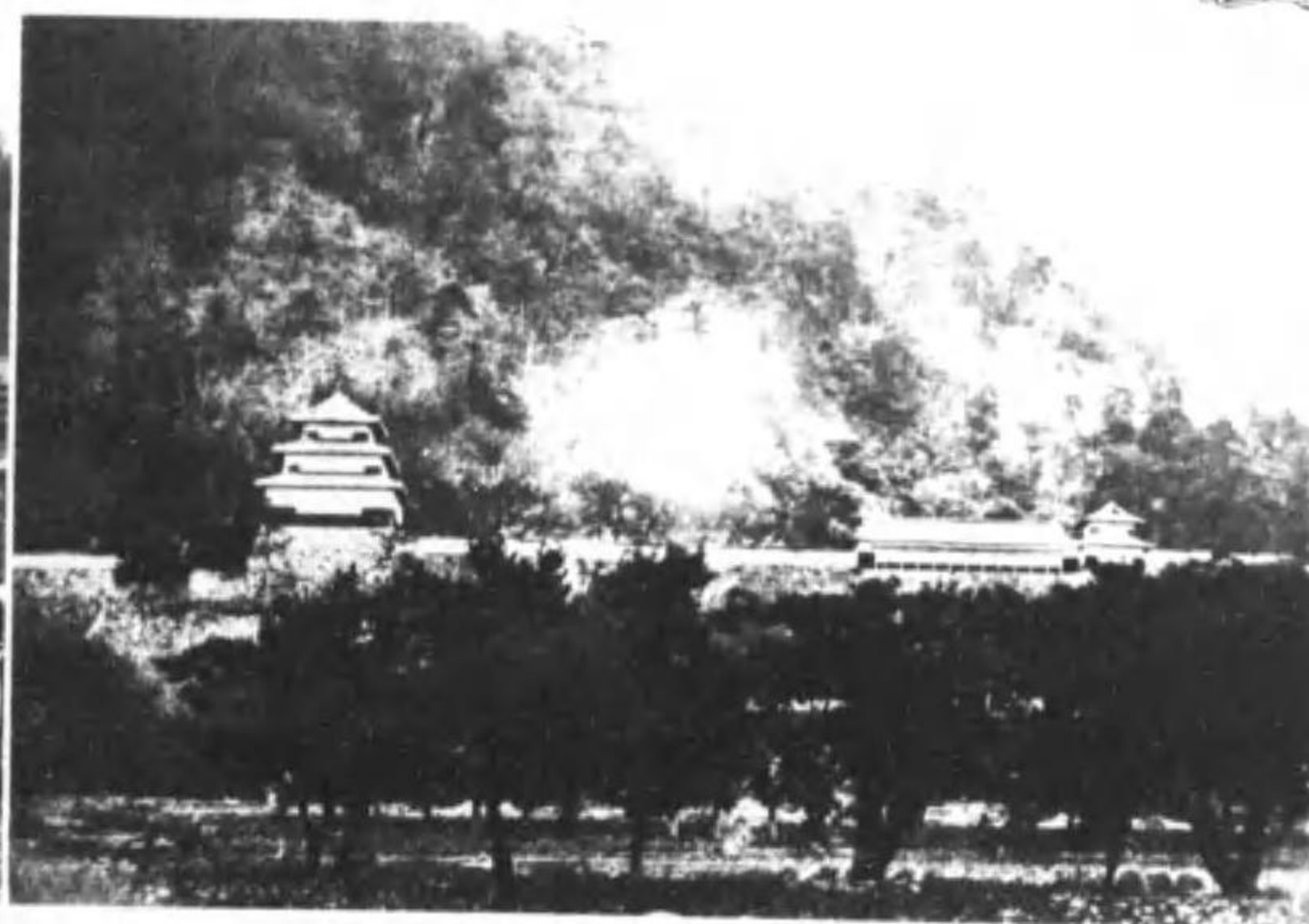


(1) 關の五本松 (境線より汽船便)
 (2) 美保關 (境線より汽船便)
 (3) 穴道湖 (松江より湖呼まで六丁)
 (4) 安家廟





鳥取縣



(1) 鳥取城址 (鳥取より二軒)
久松山麓に在り天文十四年山名誠通の築城にして、一名久松城とも云つて居る。

(2) 三朝温泉 (山陰本線土井驛より自動車)
ラヂウム含有量の著大なる事日本第一。常磐四周を掩ひ幽邃を極む。

(3) 田植祭
豊しくば尋ねござれ、米子まで、米子まで
米子の町のまんなかへ、
十七がやなぎが原でぬのさらし、ぬの晒し
さらいたぬのこそ白さる。
大國様は、せはちそけれど、福の神、福の神
千俵はらにこしかける。
紅が今花盛り、八重ぶけて、おそぶけて
つむすつますの花盛り。
今日の田の友達に文をやるのく
暇の文かや、なつかしや。

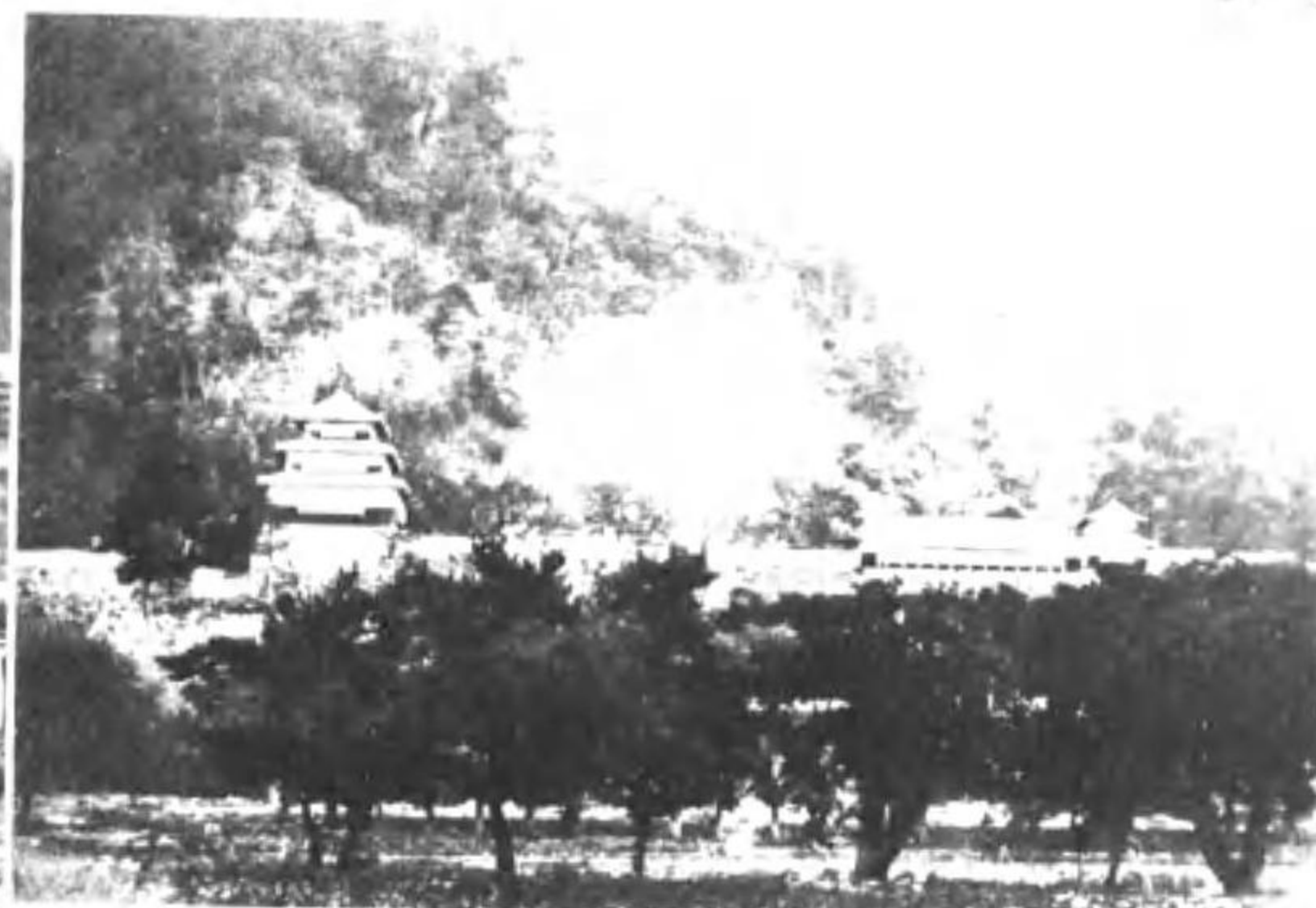
田植歌 (出雲、石見)

四國篇

くららの
塩ふき
高知



鳥取縣



山鳥取城址 鳥取市より 軒
又鳥取城に在り大文十四年山名誠通の築城にして、名久松
城と云ふに居る

三朝温泉 山陰本線十津野より自動車
にて、赤石の麓なる事日本第一、常時四時を地へ湧き
上る

田橋祭
朝一は海老（？）で、先子まで、先子まで
しりしり（？）のさし、ぬの納し
さるい（？）のさし、ぬの納し
大國様は、はちまき（？）の神、朝の神
手紙（？）は、おまけ、おまけ、
ついで、ついで、ついで、
今日の（？）は、ついで、ついで、
ついで、ついで、ついで、

田橋祭（鳥取市）



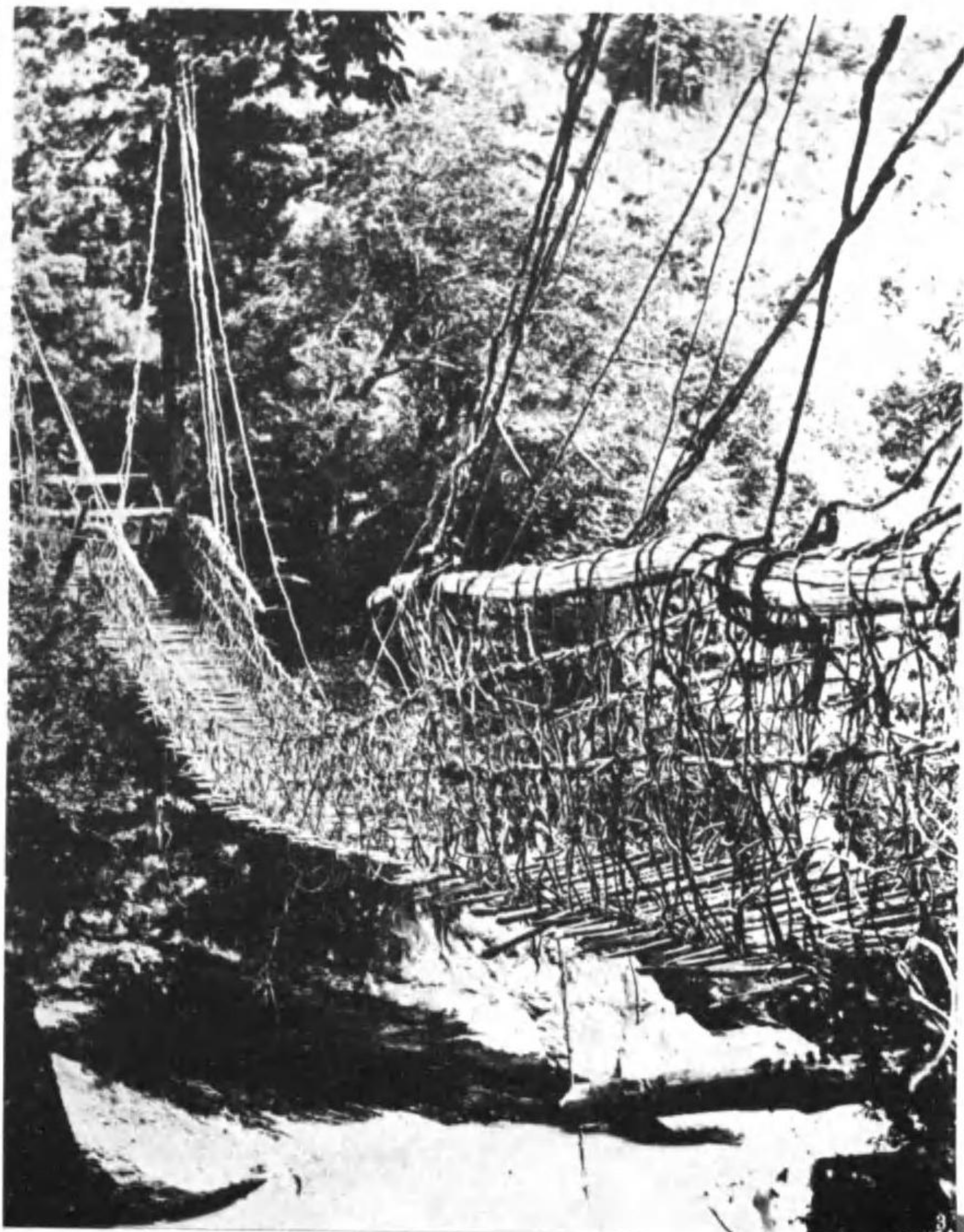
幸隆田戸(7) 天竹永富(6) 枝一本三(5) 茂豊七(4) 【内城區店支島嶺】 子茂都原藤(3) 建幸本大(2) 【内城區店支山福】 一健月望(1) 【内城區店支遠尾】
 郎八喜中竹(14) 一泰上村(13) 郎一原登(12) 【内城區店支山松】 俊昌野大(11) 彦邦田豊(10) 【内城區店支島丸】 子文干剛(9) 子茂本根(8) 【内城區店支松高】
 天明田益(22) 【内城區店支岡福】 馬菊岡笠(21) 勳・修・男仁久岡安(20) 子幸岡安(19) 子賢多本藤(18) 子房野矢(17) 登 田門(16) 世一部我家(15) 【内城區店支知高】

貯金に就いて

牧野元次郎

貯金の方法には種々あるが、先づ大體は普通貯金と定期貯金の二つに分ける。普通貯金といふのは、普通の貯金の方法で貯つたら預けるといふ郵便貯金のやうなものである。従来貯金と云へば、普通貯金ばかりであつたのであるが、普通貯金で一應の金を溜めるといふ事は、實際はなかく、難しいので、誰でも経験があるが、始めて見ると直に出してしまふ、又始める、又出すといふやうなもので、なかく一應の金を溜めるといふ事は、難しいのである。其處でどういふ方法を採つたら金を溜めるといふ事、早く貯金と云へば、普通貯金と考へて、今より三十年以前から始めた一つの貯金方法がある。それは「ニヨク貯金」と稱して居るが、多年の経験上、此の方法が一番的確に金を溜めるやうである。つまり此貯金の方法を設けたのは、従来世間から居るやうな普通貯金ではなかく、金を溜められないから、必ず溜まる方法を世間に提供した譯である。ニヨク貯金の方法といふのは今はよく世間の人にも知られて居る様であるが、要するに或る一定期間毎月一定金額を積立て行くといふ方法である。昔から話にも「石の上にも三年」といふ事を云つて居るが、三年間辛抱すれば、大抵のことは出来る筈である。さういふ様な點からして、三年間毎月一定の金額を積立て、斯ういふ方法で、即ち「ニヨク貯金」の方法で行つたならば、三年目には必ず一應の金が出るに違ひないのである。併し三年と定められては、大變不便であるといふやうな事を、よく云ふ人があつたが、不便なればこそ金が溜るので、便利に金を溜めるといふ事は、實際金が溜らない方法といふ事と同じで、どうしても金を溜める途をとるには、或期間は石に噛付いても、金と云ふものは、さう強固に出来るものではない。一應の金を溜めると云ふには、先づ第一に堅い決心を要する。三年間例へば一萬圓の金を溜めるといふ考へが起つたならば、どうしても是れを必ずやつて見せるといふ堅い決心を以て初めるのでなければ、三年経つても、五年経つても、一萬圓はさて置き、五百圓の金も溜るものぢやないのである。つまり普通貯金では溜つたかと思ふやうにしてしまふ、又初める又出す、いつも同じ事で、結局元の金も溜らない。其所で「ニヨク貯金」といふ方法が價値があるのであるといふ事で、世間に知られ直つたのである。此の「ニヨク貯金」の方法は、今日貯蓄銀行法の上にも明かに貯蓄銀行の一つの扱ひ方として記載せられて居るので、何處の貯蓄銀行でも貯金のやうに何時でも抽戻が出来ないといふ所に價

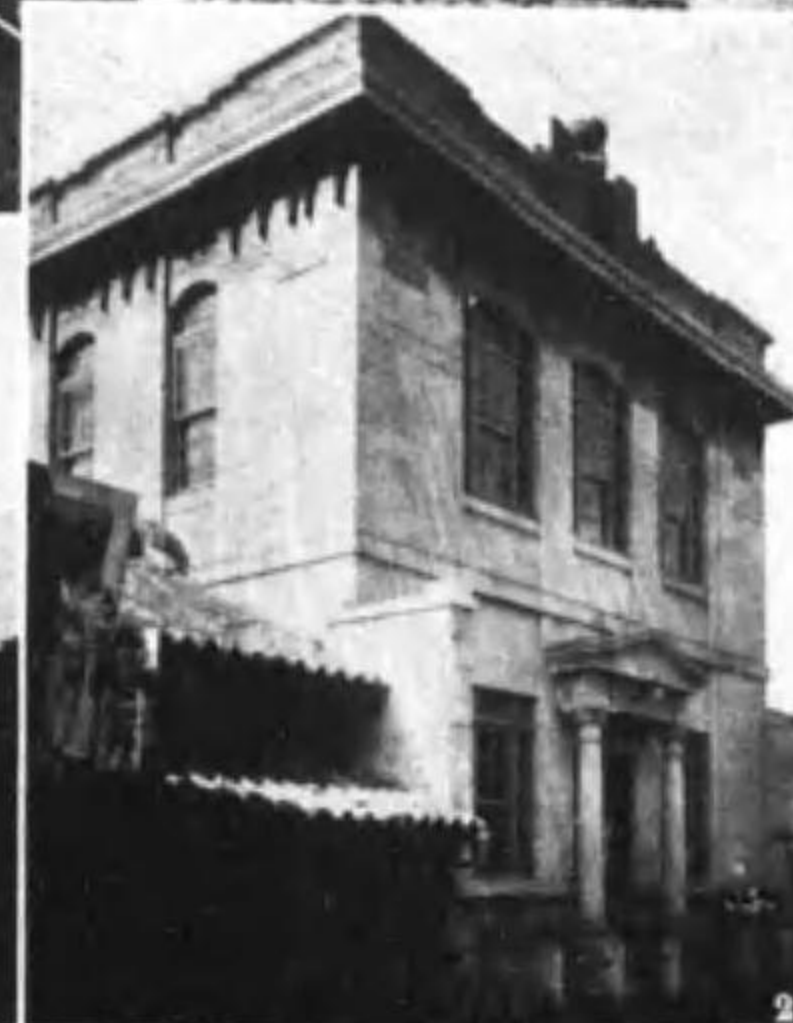
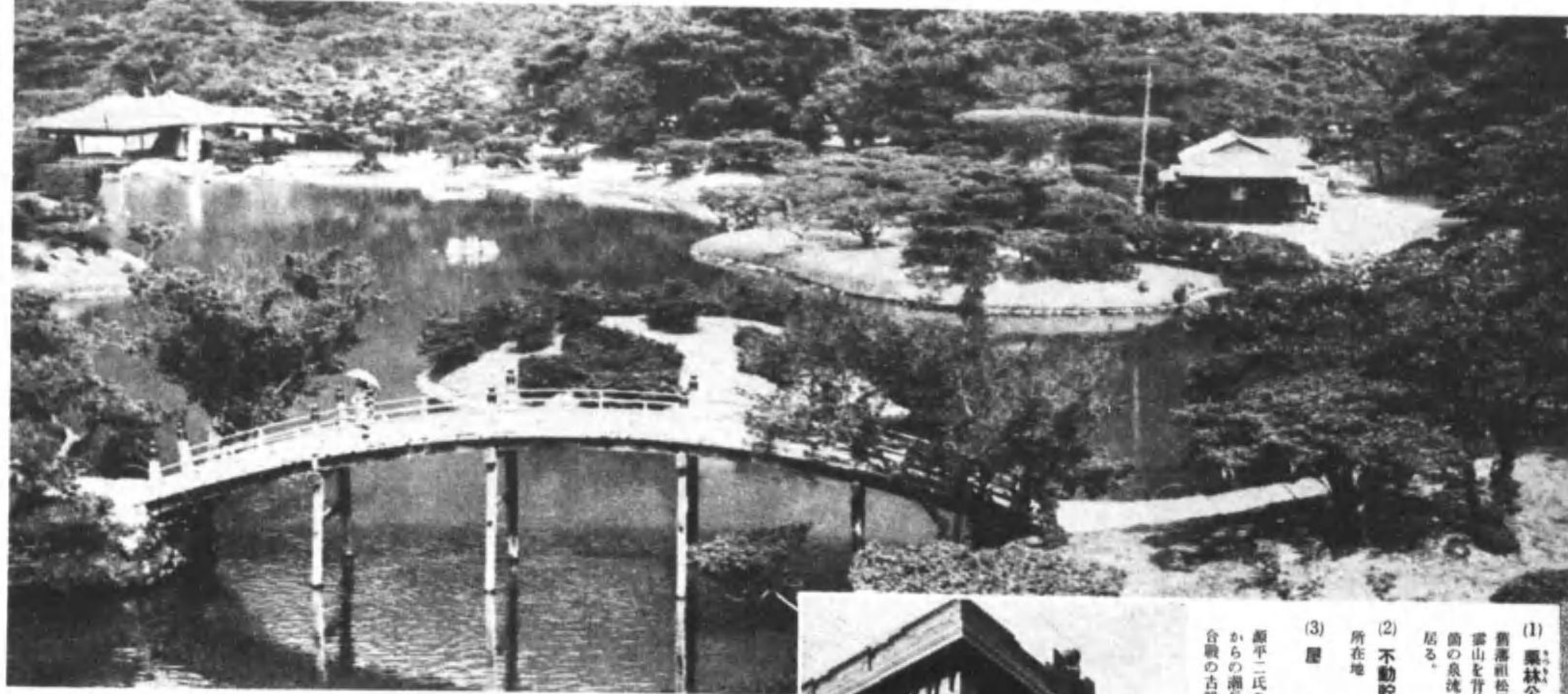
値があるのである。丁度厳しい伯父さんに金を預けて置くやうなものである。自分が欲しいと思つても直に出せないといふ爲めに、結局金が溜つて行くのである。出せない所に面白味がある、と斯う考へなければ此の貯金は初められるものぢやないものである。もと／＼樂に金を溜めようといふ事は考へる方が間違ひで、餘程の決心で、辛抱で、決して出さないといふ堅い心掛で、初めるので始めて三年間やつて行けるので、又三年間の辛抱で……一應の金といふものはさう溜められるものではないので、溜るといふ事は結局多年の辛抱の結晶であるのである。此貯金の趣味は、やつて見て初めて解るのでやつて見ないと、其趣味を味ふ事は實際難かしいのである。此貯金を、人に勧められて入つて見る、毎月集金が溜つて行くといふ事になる。其處に言ふに「これは面白い味が生じて来るのである。併し、永い間には飽きるといふ事が、必ず出て来るが、飽きたやうな心の起つた時には其集金に來た人からだん／＼と又勧誘されるので、自然と又やる氣になつて、掛け續いて行く。其内には満期になつて一應の金を受取る事が出来るのであるから、其時に初めて三年の辛抱の一結晶が故に出来上つたといふ愉快を誰にも感ずるのである。故に此貯金の趣味を覺えたい方は、又其後を續けて何時までもやつて行く、といふ事になるのである。斯ういふやうに毎月一定の金額を其収入の中から積立て、行くといふ事を各家庭が習慣としてやつて行くといふ事になると、其溜つて行く金は全體で非常な大きなものに、終ひにはなつて行くのである。今假りに日本全體の家庭を一千萬軒と見ると、三年目に一萬圓づゝの金が溜るとすると、其總金額は一百億圓になる。たつた三年間の辛抱の結晶がそんな大きな金になるのである。然るに今日日本全體の貯金を集めて、僅百億圓にもなつて居ない。さういふ事であるから、國民が辛抱して三年の辛抱で毎月一定の金額を積立てるといふ事になれば、日本國は非常なる金持の國となるのである。又一軒々の上から云つても三年目に千圓づゝの金が貯蓄して行かれるとすると三十年の間には其金が一萬圓となる。三年目毎に其の満期の金を据置貯金に預けて置くとする、彼は總體では二萬圓の金になる。一家庭に二萬圓の金が少しの心掛け次第で出来るとすれば一應の用に足る譯である。貯金の趣味は全くやつて見ないと分らないから、兎に角、何人も試みに貯金をお始めになるのが一番大切な事と思ふ。さうして出来るだけ堅い決心を以て、夫れを續けて行くといふ事に努力すれば、知らず／＼の間に、それが習慣となつて、貯金を續けて行けるものである。又さういふ決心を以てやり初めると必ず其目的を達せられるのである。目的の達せられると否とは、其決心の強弱と弱いと



(1) 阿波の鳴門 (阿波鐵道橋下車) 大毛島の北端... (2) 不動貯蓄銀行徳島支店 所在地 徳島市西新町 開業 大正五年四月一日 (3) 組谷溪 (徳島阿波池田下車自動車) 絶壁に懸る命懸けの奇蹟、奇蹟、徳島の妙蹟は比類なく、初夏はついで、山は赤く、秋は黄く、冬は白く、春は青く、四季を通じて、山は常に美しい。阿波の山に懸けたる有名な奇蹟である。

に關するから、三年目に一厘の金をつくらせて見やうといふ堅い決心を以て初めるとすれば、必ず誰でもやり遂げられるものである。「精神一到何事不成」といふ語が昔からあるが、これは抽象的の語でなく、確かに實際に適當な語と私は信じて居る。自分の精神が必ず志をなし遂げて見ようといふ堅い決心がつけば必ず其目的は達せられるといふ事は信じて疑ひを容れない事である。況して貯蓄の事であるから、必ず三年間やうとすれば、續けて行けるものである。其人々々相當の金額をやつて行くといふ事は心掛けてさへ行けば、必ず一厘の金は三年目々々につくり上げられるものである。さうして夫れをやつて行く間には段々と金が溜まる。其處に言ふには、安心と面白味が湧いて来るのである。一體、生活の安定を得ない程不安心なものはないのであつて、殊に人には何日何なる災難不幸といふやうな事が湧いて出ないとは限らないが、さういふ時があつても貯蓄さへあれば、非常な心丈夫に感ずるものである。金がだん／＼溜つて行くといふ楽しみを見るときに、萬一の不幸の場合の心配が段々と薄らいでくるのであるから、丁度貯蓄の金額に比し、不安の念も段々少なくなつて来るのである。即ち貯蓄を續けて行くといふ間に段々と金が溜まるといふ面白味と、楽しみとがある。同時に萬一の不幸の場合に於ける不安の念が段々薄くなるといふ其處に言ふには、安心が得られるのである。之は貯蓄をやつて見なければ解らない事柄であると思ふのみならず、緊張して毎月一定の金を三年間積んで行くやうな方には、天が是に報ゆるに其人の身體を必ず丈夫にせしめるものである。又其人の家庭も圓滿になるやうに自然になつて来るものである。貯蓄をやつて行くといふ一點のみからして其處にある／＼の徳が生じて来るのであるから、此位結構なものはないやうに考へるのである。貯蓄の趣味、又は面白味などといふ事は實行して初めて分る事であるから、先づ試みに何方も實行されるがよしいとして、さて貯蓄をやるといふ上に於て、先づ第一に注意しなければならぬのは、其預け先である。世間では金を預ける所を普通銀行と呼んで居る。銀行ならば何處へ預けても同じであるやうに素人は考へて居るが金の性質に依つて、自ら預け先が變つて行かねばならぬ事を知らなければならぬ。大體銀行を二つに分けて普通銀行と、貯蓄銀行と云ふて居る。普通銀行といふのは、普通の銀行で商工業者が金融機關として商業上餘つた金を一時預けて置くといふ所であるが、貯蓄銀行の方は段々に積立て置く金を預けるのが即ち貯蓄銀行である。是れを預金の種類によつて預け先といふものを變へなければならぬのである。丁度お互ひが旅行する時、小出しの金は褌口へ、萬一の用意金は財布へ、と入れて置く様に、それ／＼區別しなければならぬ。さうでないと萬一其

褌口を奪られて了ふやうな事があつた時、旅行先で二進も三進も行かなくなつて了ふので、何うしても二つに分けて置く必要があるのであるやうに思ふ。政府も此の點を考へて萬一の用意として積んで置く金を預かる所と、一時商業上の出入れをする金を預かる所と、自然法律で別けて居るのである。即ち大正十一年の一月より實施された貯蓄銀行法がそれである。一體政府が貯蓄銀行例を改正したのは、從來諸君が丹精して溜めた金を預かつてある貯蓄銀行が時に預金者に迷惑を掛けたと云ふやうな事があつた爲めに、さう云ふことがあつては折角の貯蓄心を阻害するから、これは嚴重に取締りしなければならぬと云ふことになつたのである。従來の貯蓄銀行は普通銀行をも兼ねて自由勝手の手の營業をしてゐたのであるが、この改正からは貯蓄銀行本來の貯蓄預金だけを専門にやらなければならぬ。普通銀行の仕事をしてはならない、と云ふことになつて全く従來とは性質が一變して了つたのである。従來の貯蓄銀行は、近頃ではさうであるが、未だ世間の人の中にはその點をトクと知らない人があつた。全國に五百も六百もあつた貯蓄銀行が現今では九十幾つと云ふ少數に減つて了つて減つて了つたのは、それだけならぬ程取締りが嚴重になつたのである。それだけ預金者は安心が出来るのである。將來丹精して金を溜めるといふ上からは貯蓄銀行の方へ當然預けて置く性質が出来てゐるのである。一例として、何れ貯蓄銀行では預金の三分の一を支拂保證として政府へ供託することになつてゐるが、普通銀行では、さう云ふ何等の取締りもないので、この一點からしてみても、貯蓄銀行は安全である。又預金を運用する上、貯蓄銀行には、嚴しい取締りがある。この點からみても、貯蓄銀行は安全である。これを家屋に譬へてみるならば、木造建築に鐵筋混土建との相違である。段々丹精して積んで行くと云ふ金を納めて置くには、火事にも焼けない、地震にも潰れないと云ふ性質の鐵筋混土の金庫に入れて置くことと云ふことが大切である。貯蓄銀行が即ち鐵筋混土の金庫である。次に注意すべきは高い利息に惚れないと云ふことである。利息の低いところ程不確實な所と思つて間違ひはない。反對に利息の安い所ほど、其銀行は確實と云ふことが出来るのである。銀行の確不確を手取早く素人が判斷するには、利息が高いか安いかを見るが一番であると思ふ。何故かと云へば高い利息を出さなければならぬ程、預金吸収に焦つてゐるやうな銀行は信用が置けない。故に萬一の用意金を積んで置くといふ上からは何處までも確實を第一として、決して高い利息を望まぬやうで、寧ろ安い利息の所を撰ぶやうに心掛けないと折角溜つた金が實際に於ては何んの役にも立たないといふやうな事になつて了ふからその點をよく考へなければならぬ。



(1) 香林公園 (高松より南二軒、電車の便あり)
 香林公園、香林の築造したもので面積十六萬五千餘坪、紫雲山を背後に負ひ林藪四方を環り、六の池次、十三の山、散童の泉流、十一の鳥嶋を巧に布置し林泉の美觀に世に聞えて居る。

(2) 不動貯金銀行高松支店
 所在地 高松市兵庫町 開業 大正五年四月一日

(3) 香川縣
 (高松市より山麓迄電車・タクシーの便あり)
 香川縣の地勢たるを認識して有名、獅子の鬚岩、香川縣からの瀬戸内海の眺望する佳、屏風寺は香川縣に於いて香川縣の古蹟を多く納す。



(1) 阿波の盆踊
 毎年七月十四、十五の二日間行はれ市内を挙げて盆の巻と申す。

盆踊の歌
 阿波はよいと舞踊買さん
 御盆踊りではおまける
 阿波盆踊りはおまける
 幸い舞に迷ふも無理やない
 舞も盆も一行為か来い
 後生樂歌
 阿波の盆踊後生樂歌よ
 沖の鳴門が音聞取る
 氣狂ひ舞歌
 踊る阿呆に見る阿呆
 おなじ阿呆なら踊らな損ぢや
 イラッリヤ、ヨイ
 ソリヤノ、ソリヤ

(2) 王爺魚の瀧 (高松より徒歩)
 川上村の地帯の瀧から約二軒、四圍の積雪を破つて直下し水聲轟々として耳を聳し白煙天に沖し其の壯觀言語に絶す。

愛媛縣

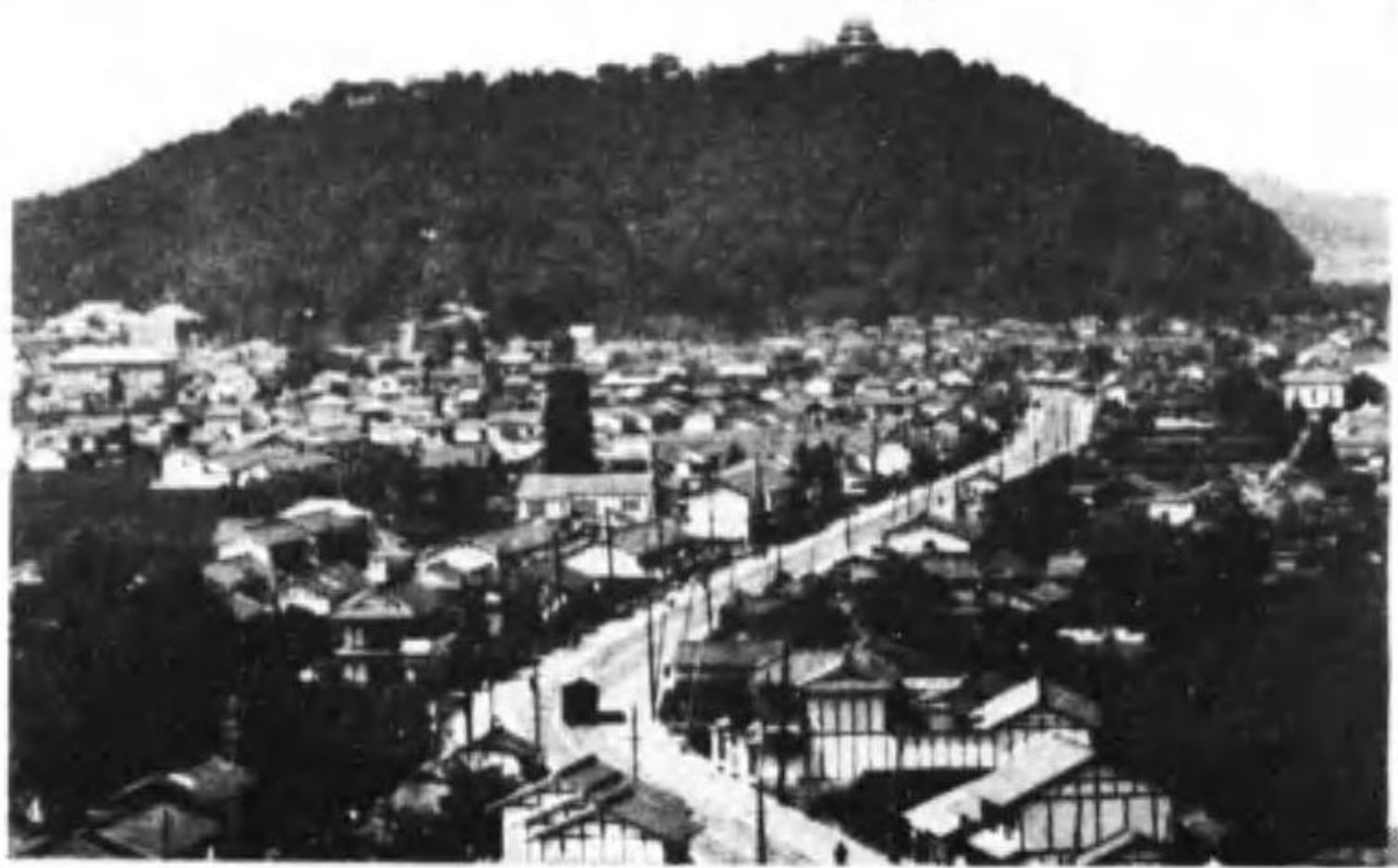


平の山松は西し位に麓の山後道 (車下驛後道鐵電伊) 泉温後道 (3) である。あで郷泉温の一第園四にしに朝明光風し對相と址城廣く近り遠に野をるあ事しひ給し浴の后四帝七下以皇天壽孝在に代神く遠は見發の其る來出が事る知をしりな名有に既時當の其もて以皇法理覺るけりなしるしの代神それと 石の玉るて立に打の湯の鹽伊 (央中の市・平軒一東驛山松) 址城山松 (4) 立え舞てしと然雖原白の隨主天は向今でのもしき樂の明高藤加年八反度樹老の來年百三に心中を城。るあがのもる足にるす見想を觀壯の時當ちる居てつなと國公山松は今山勝る茂と善響



(1) 面河溪 (松山市より西河行自動車あり) 断崖あり、奇石林立するあり、懸瀑、碧潭あり、奔流の碎けるあり、溪を覆ふ鬱蒼たる美林と共に溪谷美を悉く具現する神祕境で、殊に秋の紅葉は天下の絶景である。見頃は十月下旬より十一月上旬まで。

(2) 不動貯金銀行松山支店
所在地 松山市港町角 開業 大正九年三月一日



香川縣



(1) 善通寺 (丸龜驛より西一軒二、電車善通寺停留所下車) 弘法大師の誕生地で寺域は父善通の邸宅と云はれて居る。堂宇宏壯を極め讃州第一の名刹、四國第七十五番の靈場である。

(2) 金比羅宮 (丸龜驛平驛より西一軒) 象頭山の中腹にあり崇徳天皇、大日靈命を祀る國幣中社にして一般の崇敬極めて厚く、賽者の多き伊勢大廟に亞ぐ云はれて居る。神殿、繪馬殿、拜殿等何れも壯大華麗、例祭は十月で少女舞などの麗麗な奉養がある。

(3) 讃岐富士 (丸龜驛平驛下車) 正しくは飯の山と稱し平原の間に崛起する一小峯なれども其の山容秀麗にして風光絶佳。讃岐民謡 ほんにしほらし讃岐の富士よ ふもと桃山みかん山

(4) 不動貯金銀行丸龜支店
所在地 丸龜市通町角 開業 大正八年三月二十四日



福岡県



(1) 香椎宮 (鹿兒島縣香椎郡より電車の便あり)
三韓征伐の際行在所の置かれた由緒ある地で、仲哀天皇及び神功皇后を祭祀する官幣大社である。例祭は十月二十九日。

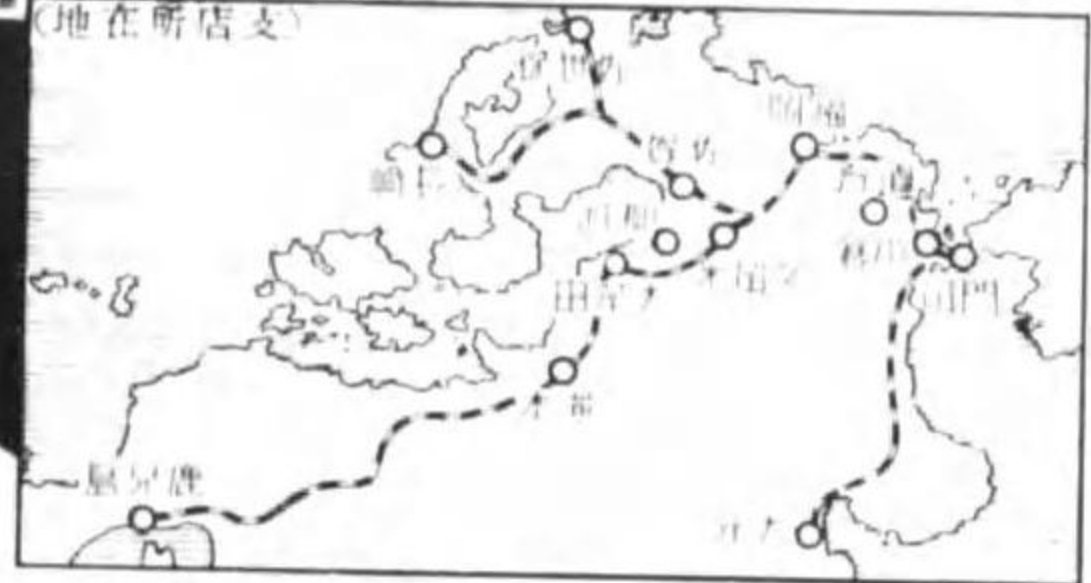
(2) 不動貯金銀行福岡支店
所在地 福岡市天神町角
開業 大正七年一月一日

(3) 笠崎八幡宮 (鹿兒島縣宮崎郡・電車)
源神天皇を祀る官幣大社。拜殿及び神殿は結構香美、権門と共に國寶になつて居る。権門の「祝國降伏」の扁額は後醍醐天皇の御宸筆を掲せるものである。

ニコニコ月報募集写真共七十



知正田山小 (9) 男一田真 (8) 郎四町岐志 (7) 助之慶藤進 (6) 三昭北田 (5) 也實北田 (4) 則道山本 (3) 子里邊山 (2) 子枝千間家社 (1) 【内城區店支同種】
諒 井土 (18) 也和村島 (17) 一信川中 (16) 勝 田濱 (15) 【内城區店支同門】 志龍森藤 (14) 光正崎村 (13) 已嘉藤重 (12) 安利宮小 (11) 夫忠迫奥 (10) 千澄田山小 (22) 子タシ田迫 (21) 【内城區店支米留久】 典安崎石 (20) 子利 森 (19)



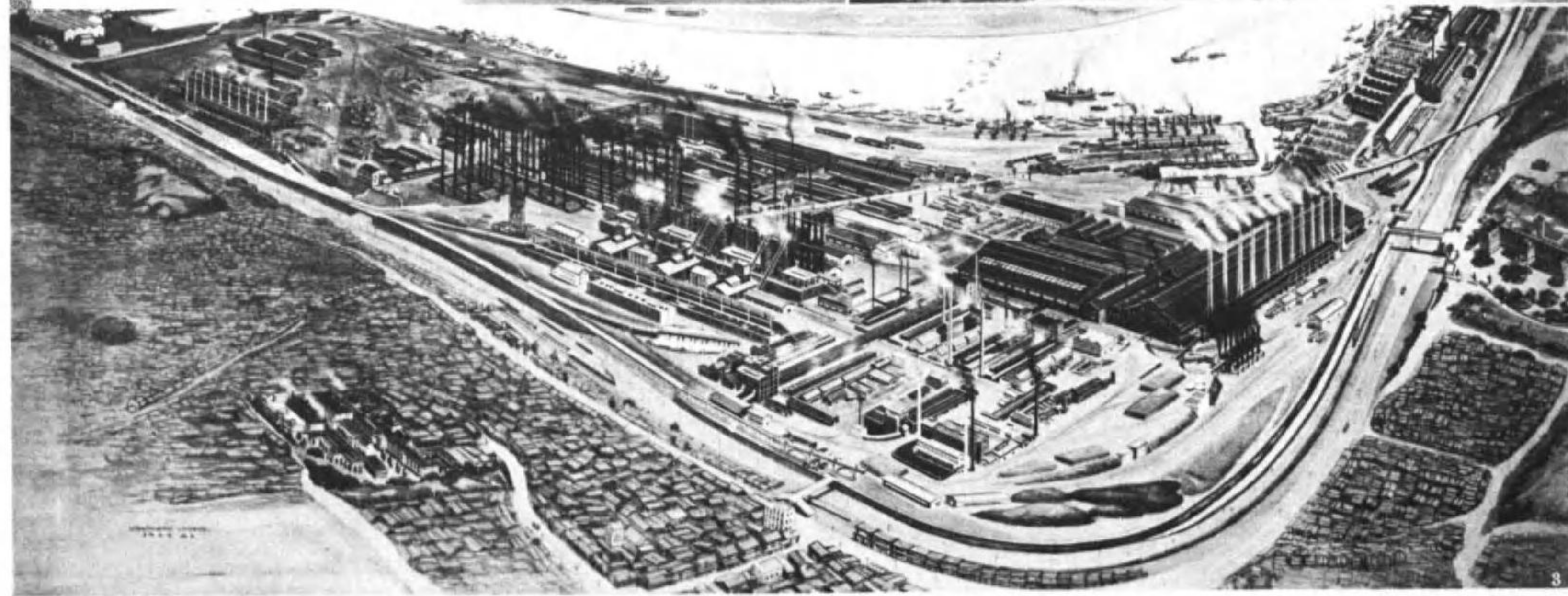
福岡縣



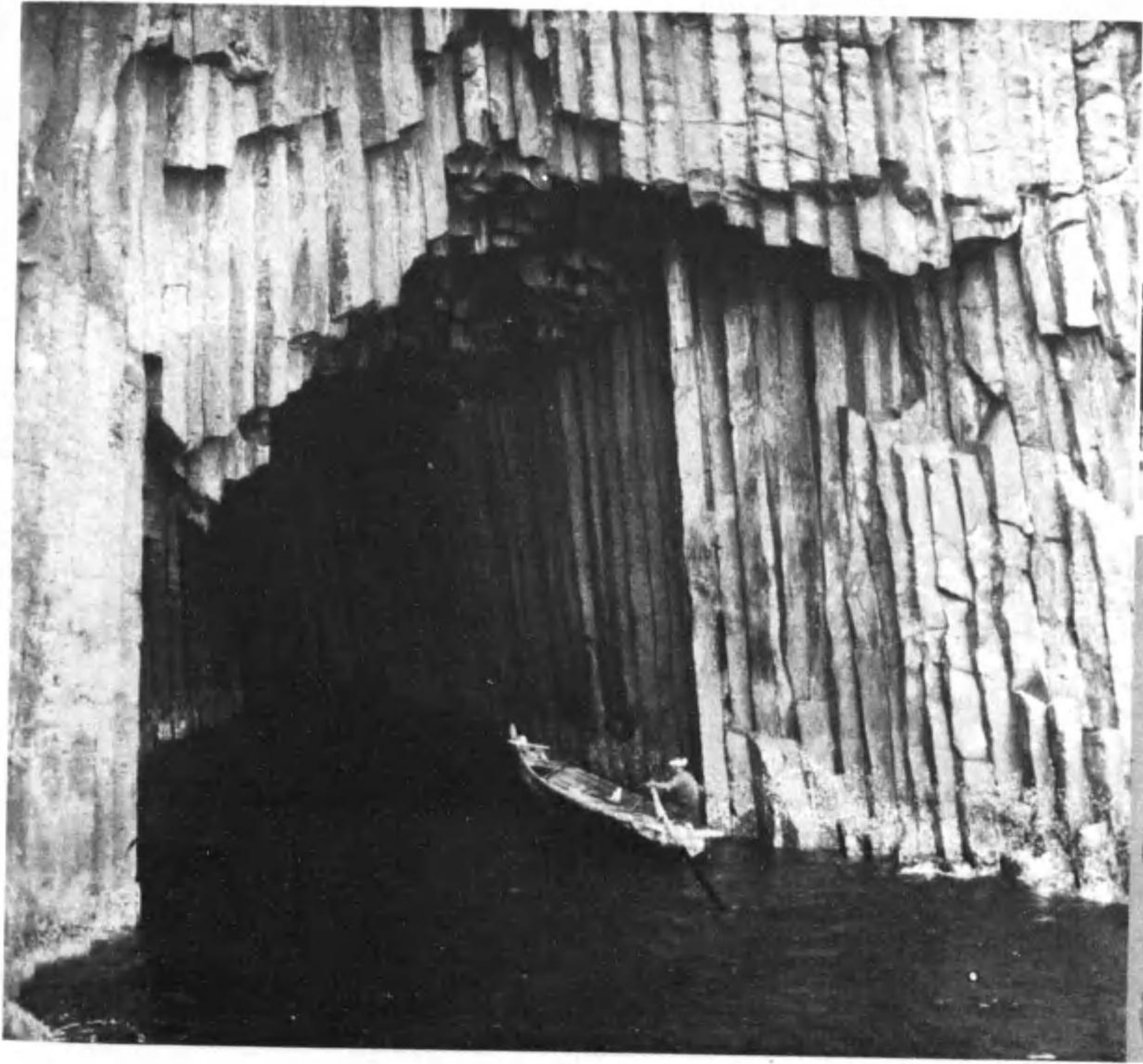
(1) 小倉城址 (小倉驛より半軒)
毛利、細川、小笠原の諸氏相次いで城主となつた所で、小倉市の中央部に臨み、今は第十二師團司令部が置かれて居る。

(2) 不動貯金銀行小倉支店
所在地 小倉市郡山橋西詰
開業 大正六年七月一日

(3) 八幡製鐵所
従業員二萬八千餘人(昭和三年)を擁し九州工業界の大本山と云はれて居る。規模廣大にして東洋一を誇る製鐵である。



福岡縣



芥屋の大門 (北九州鐵道前原驛より八軒)
井原浦の玄武洞からなる巨岩が懸崖に噴き出されて洞を穿つてゐる所で洞口から約三〇米近くまで小舟で入る事が出来る。其の奇觀壯絶である。

不動貯金銀行門司支店
所在地 門司市橋通 開業 大正八年四月一日

縣岡福



- (1) 不動貯金銀行柳河支店 所在地 福岡縣柳河町 開業 大正九年三月一日
- (2) 柳河水路 (東肥後道柳河町) 町はもと立花氏十二萬石の城下で柳河城址立花遺蹟などがある。
- (3) 英彦山神社 (田川縣郡田縣より自動車) 海拔一二〇〇米の英彦山上にあり、天津日子忌尊命を祀る。官幣中社で、いはゆる赤山権現である。
- (4) 博多人形
- (5) 不動貯金銀行直方支店 所在地 直方市古町 開業 大正八年四月一日

縣岡福



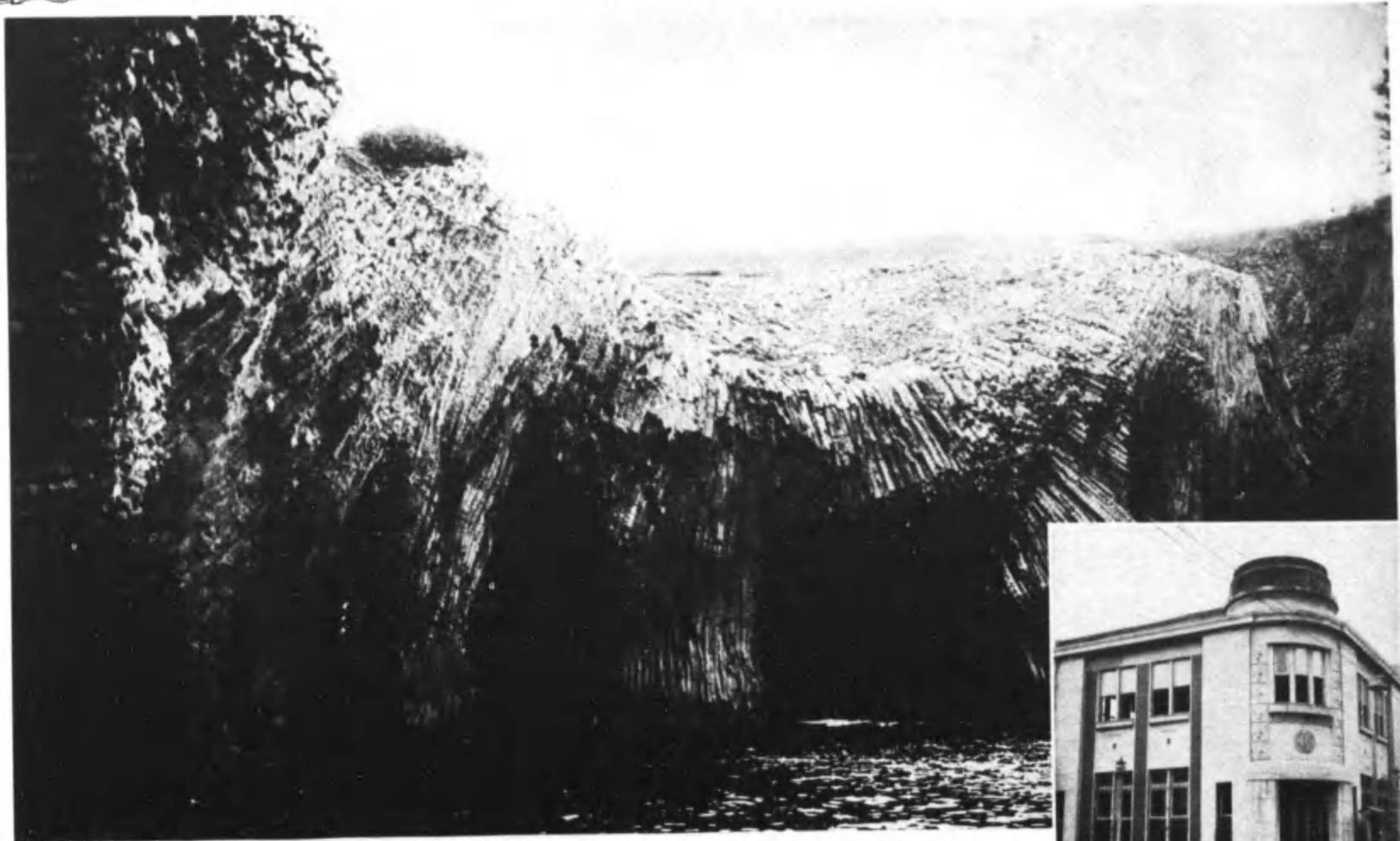
- (1) 不動貯金銀行久留米支店 所在地 久留米市新町 開業 大正七年一月一日
- (2) 水天宮 (縣社) (久留米驛より北西約一軒) 縁起門院に奉侍せし宮女伊勢子の創建に傳り東郡藤野町の水天宮は永正元年此地より勧請せしものなりと傳へられて居る。筑後山押にあり藤野の地を占め附近の流行神である。



- (3) 太宰府神社 (大宰府電氣軌道太宰府下車、電車・自動車) 菅原道真を祀る官幣中社。延喜五年乙丑八月の創建。社殿社殿を傳にして、境内に有名な菅公遺愛の飛梅がある。
- (4) 高山彦九郎の墓 (久留米驛より約二軒、福原院内) 高山彦九郎は寛政の三奇人の一人にして備々九州巡遊の途次慷慨の志を著し寛政五年藤原泰春の邸宅で自刃した。國のため心つくしいたか山のいさを空しくしてしあはれさ。



佐賀縣



七ツ釜の蓋（西津北九杆四・夏期遊覧船）全神武洞（り成り斗燈立先端分統し）三々狀を呈其の東の又の蓋
七ツ釜の内字観る。蓋の七々名所の以て。蓋の内字観る。蓋の七々名所の以て。蓋の内字観る。
不勤貯金銀行佐賀支店 所在地 佐賀市吳町 開業 大正九年二月一日

福岡縣



不勤貯金銀行大車田支店 所在地 大車田市有明町 開業 大正九年三月一日 大車田の紙園祭

長崎県



不動金貯蓄銀行長崎支店 (1)

所在地 長崎市長西町角 開業 大正六年七月一日
天正初年開港 長崎港 (2)
我が国に於ける西洋建築の先驅者として戸門の雄たけ入り受に國が
あで所なき畫の味ある憩園として
あがのもきべす愛に海光風にか霞渡しら橋を山丘面三洞港。る
御川 しかば給易交り響に風神
同 りが笑可が人一辭通をのたれば



(3) 護国神社 (3) 長崎護国神社
同てして社中幣圓る祀を神大貴刀坂八・神大方名御建り在に上山山西 (車電・二軒一東りよ長崎長) 社神訪談 (3)
碑の由備岡山。佳節祭りなど園公今は内境。るあで名有てしと一の物名三崎長はし流靈精の日五十月七。社安守
るあが
で一の景八本日る誇を笑の水露は多葉紅は秋ちいつは春 (りあ車動自・車下驛濱小道鐵泉運) 嶽仙雲 (4)
るあで區勝大一たね装を塔健保と地覽遊りあが蹟史の々數なか濃味興的古蹟にるふ加に響名は帯一城地。るあ



佐賀県



(3) 唐津松浦藩 (3)
地の朝明光風く種に原松の紅る走砂白路一松萬 (車下驛津唐松津唐) 淵浦松津唐 (3)
るあで名有てしと場浴水海に特てしに
家定 月の夜のきあの川の浦松 んらなれとや影の鏡んけめ沈



(1) 伊萬里 (1)
るあで名有てしと地出移の地田有來古は里萬伊 (點移線里萬伊) 灣里萬伊 (1)
陣際の轉征古海軍 (りあ便船渡らか子呼・車動自合乗りよ驛津唐) 址城屋蹟名 (2)
建が標木るな (跡ノ營陣轉征附太豐) に中の林松ふ傳を響の・風古千で所たい置を登
るあがのもるめしせ想道を園社の雄英り居てつ



熊本縣



熊本城 熊本市の中央にあり一に銀香城とも云ひ慶長六年加藤清正の築城にして堅牢無比天下の名城と稱せられたが西南の役兵火に罹り僅かに宇土櫓を残すのみ、谷千城が孤軍堅守五旬に亘る悲壯な史蹟となつてゐる、今は第六師團司令部が置かれて居る。

不動貯金銀行熊本支店
所在地 熊本市幸島町角 開業 大正七年一月一日

長崎縣



「るあで堆適好のび遊舟く如の雲光風へ浮に波を松幸しに散噴島の數無に上海の軒六十迄港戸平りよ港保世佐 (車下驛港原島道體原島)島九十九原島
日一月二年九正大 業 開 町島本市保世佐 地在所 店支保世佐行銀金貯動不

大分県

命名の陽山類書は美谷溪の此。るあでのもな名有も最中響の山溪るけ於に邦本は溪馬耶（車下群溪耶深道溪馬耶）溪馬耶
 るあで所ふ訪は度一すら必の著本題に州九でのもるたし
 日一月二年九正大 業 開 地新西市分大 地在所 店支分大行銀金貯動不



熊本県



(1) 阿蘇山（豊肥地方地群下車）
 阿蘇は世界有数の活火山で、火山口は東南から西北に延び、噴煙をなし、其の周囲凡そ一里道徑六百米で、火山口は絶壁削るが如く東北一帯は高く、噴煙状を呈して居る。其の火山口に立てば、空に黒煙渦巻くを仰ぎ、脚下に萬雷の響を聞く正に天下の壯觀である。

(2) 球磨川（豊肥地方地群下車）
 九州第一の急流で、源は遠く那須惟葉山五ヶ村邊から出で、球磨の人名の城下を経て八代に至り四十里許り流れ、肥後湾に入る。兩岸絶壁として奇麗を瞻所に見ることが出来る。

(3) 水前寺公園（豊肥地方地群下車）
 もと細川氏の庭園、林泉の美、風景の妙がある。九州第一の公園。



(1) 別府温泉 (日豊線別府下車)
別府は山岳及び温泉の東に傾いて別府灣に面するところ、十六軒に亘る大温泉郷で、日本新八景人煙によつて一層其名を著せられて居る。
別府温泉郷
別府湯どころの森とて
熱い湯の湧くところ
ヨイ／＼ヨイ／＼ヨイヤサア
ヨイ／＼ヨイ／＼ヨイヤサア
とけた心は離れやせぬ
ヨイ／＼ヨイ／＼ヨイヤサア

(2) 宇佐八幡宮
(宇佐藩宮城道子佐八幡より五〇米)
應神天皇、神功皇后を祀る官幣大社。古來朝廷の崇敬厚く、宇佐に於いて本殿は國寶となつて居る。和氣清賢の忠節を以て史上に名高い社である。

(3) 日田盆地 (耶麻溪鐵道守直驛より自動車)
筑後川の上流三脚川の平野にある緑の様な水郷である。



(1) 宮崎神社 (宮崎より北二軒餘。自動車あり)
舊郡高千穂宮に神武天皇を奉祀する官幣大社。境内に隈古館がある。

(2) 青島 (宮崎鐵道青島下車)
全島ローソク燭の他無帶植物を以て蔽はれ、宛然熱帯地方に遊式の地を現かせる。島中に幾大の洞窟あり、豐定御命を祀る青島神社がある。

(3) 高千穂 (日豊線延岡驛より自動車)
石器時代の遺蹟に富み天孫降臨の靈跡地。高千穂町の東端半村のところに「高天原」と稱する老杉數株聳立する高丘あり、皇孫はこゝに宮居し給ふたと傳へられて居る。

鹿兒島縣

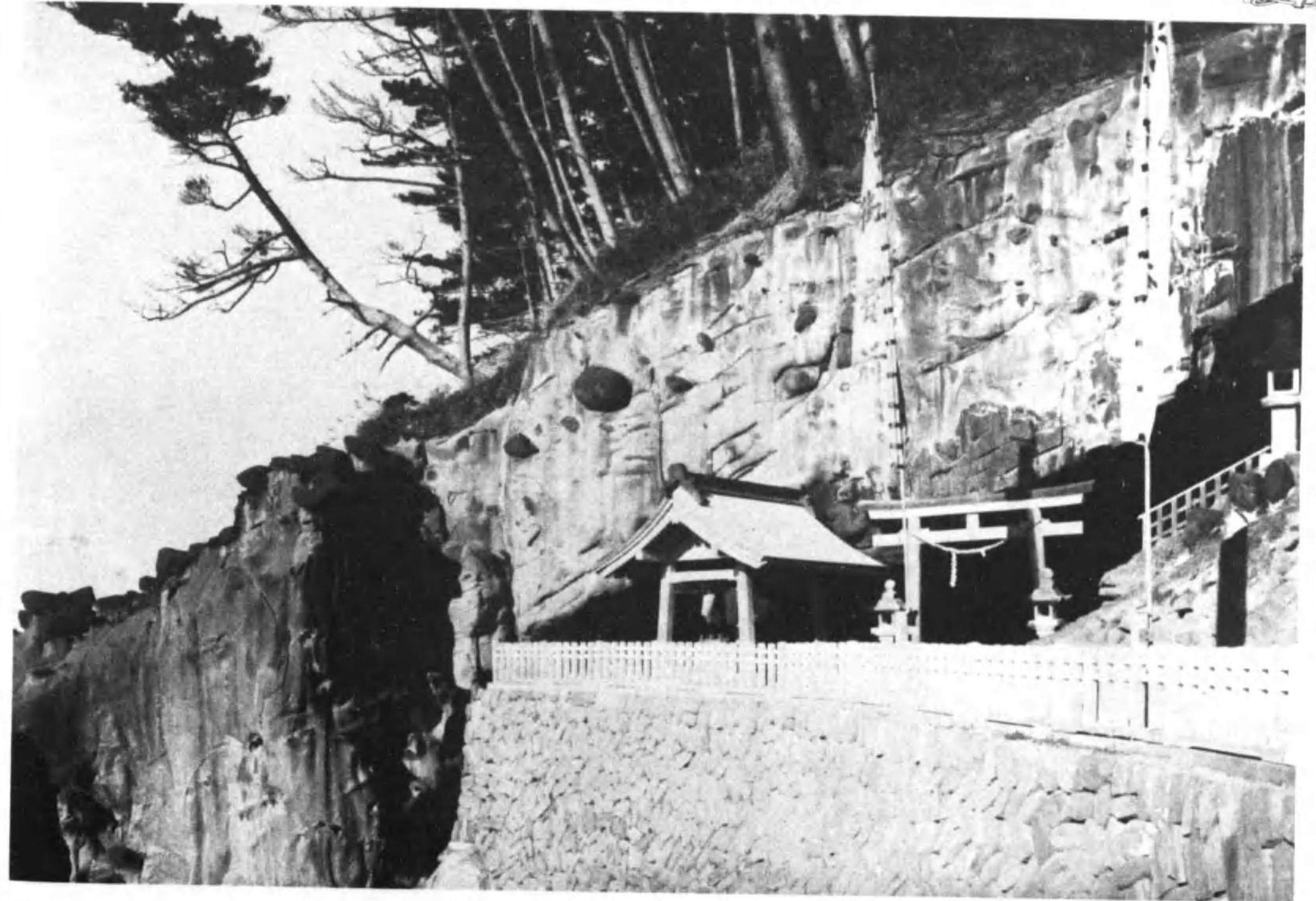


鹿兒島縣の山島は光風（りあ船渡りよ近附群島兒鹿）島標
 る來出がとふ云とるゐてつ立引層一り依に在存の山島のは光風の島兒鹿（りあ船渡りよ近附群島兒鹿）島標
 るへかてもひ神垂枝 は人ぬかびなて兒島らくさ 諸 國○
 島標く咲花の波 サヤイヲヨコト 里一に南てれ離島兒鹿
 島標の日朝る光燃 てけ明は摩羅らか酒の兒兵 との標のほ 嶼小島兒鹿○
 [アヲヤヂイ イツツガヤヂイソヤヂイソヤヂイソ ことかよ島兒鹿の摩羅ヲサヤサ]

日一月七年六正大 業 開 町口ノ山市島兒鹿 地在所 店支島兒鹿行銀金貯勸不

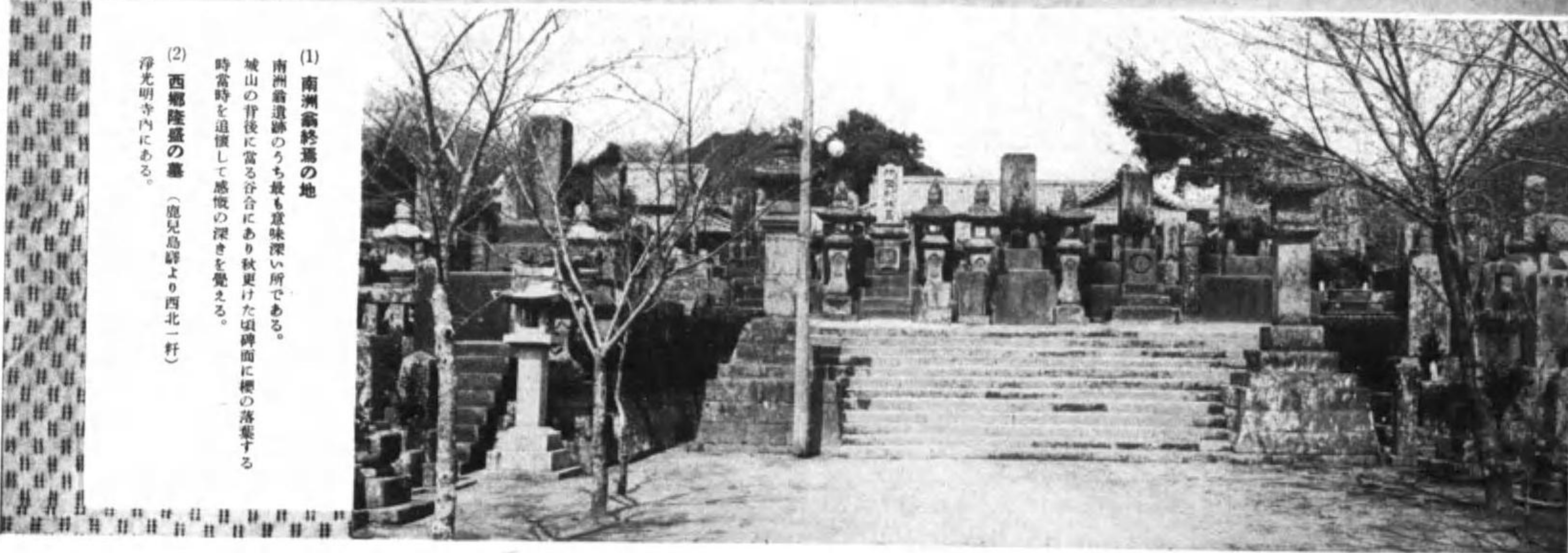
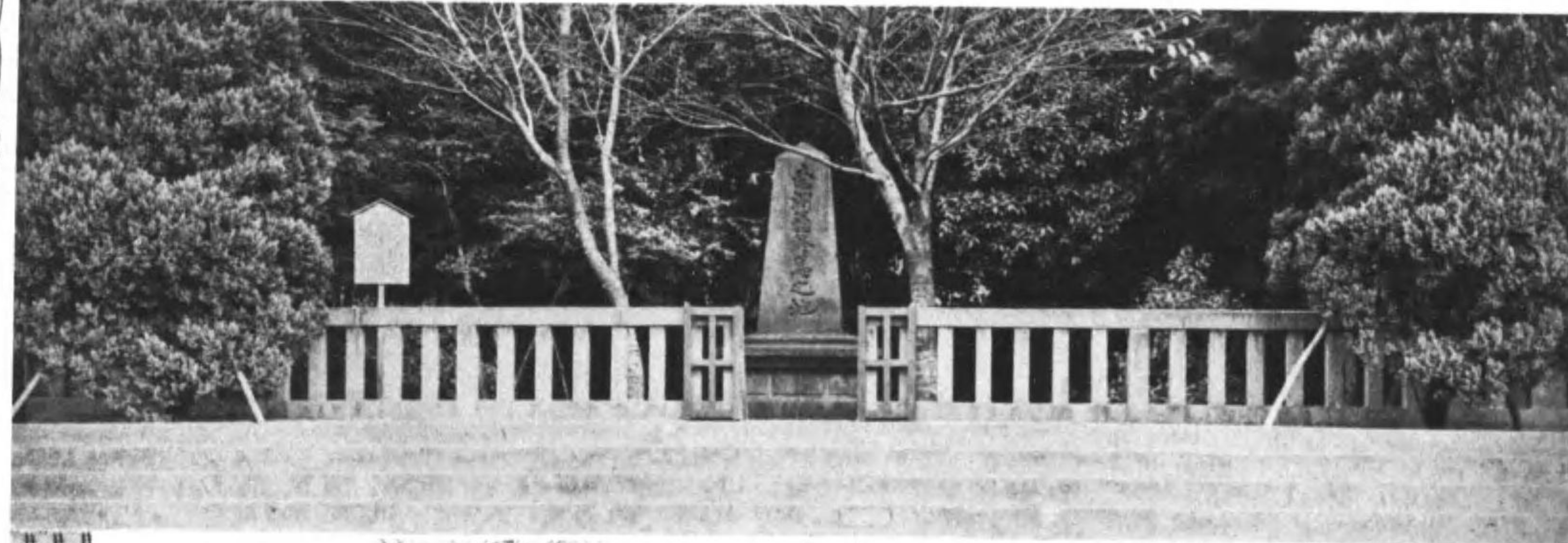


宮崎縣



大嶽光風てし立龍巖怪前社 龍社傳結殿社 社大勢官る祀と尊合不長草巖龍に内窟岩む臨に海（軒八一〇上群海内道嶺崎宮）宮神戸鶴

鹿兒島縣



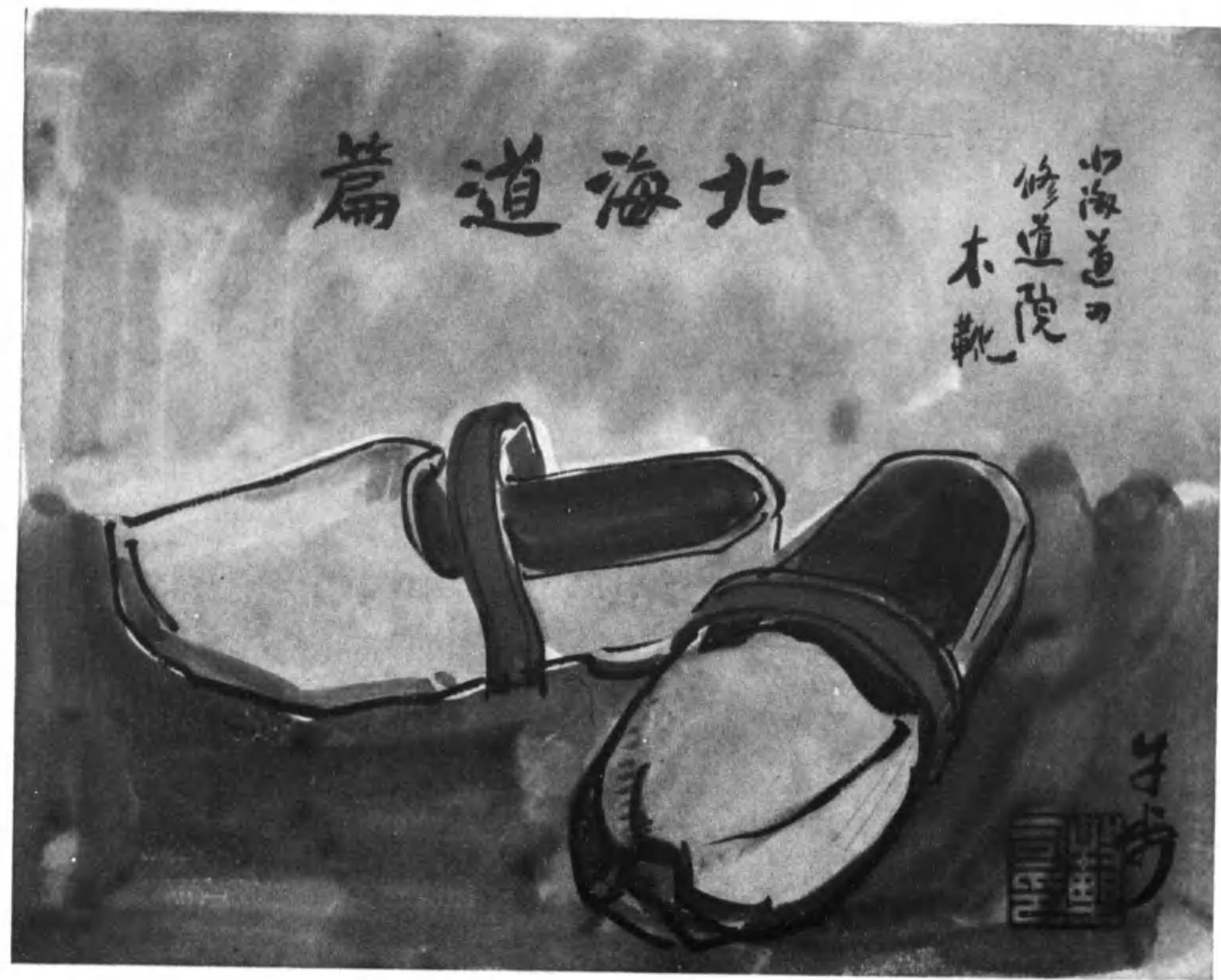
(1) 南洲(翁終焉の地)
南洲翁遺跡のうち最も意味深い所である。
城山の背後に當る谷合にあり秋更けた頃碑面に櫻の落葉する
時當時を道懐して感慨の深きを覺える。

(2) 西郷隆盛の墓 (鹿兒島縣より西北一杆)
淨光明寺内に在る。

鹿兒島縣



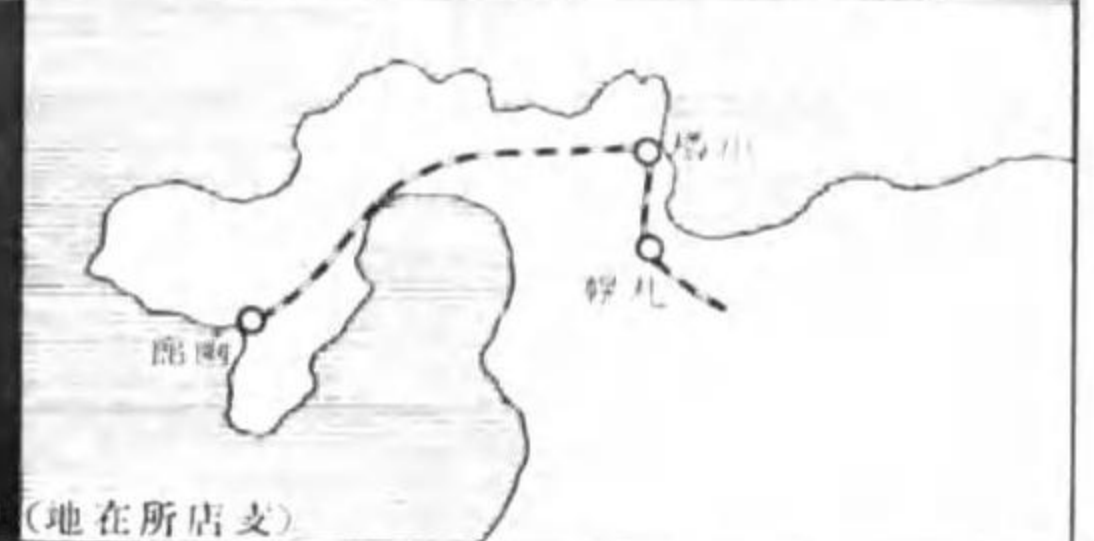
南洲神社 無格にあがるに参拜の絶ゆる事なく人衆の場である



鹿兒島縣



鹿兒島縣 鹿兒島 鹿兒島 鹿兒島



【内城區店支局長】 三洋野松 (5) 【内城區店支實任】 通博尾藤 (4) 男敏田上・洋安中田 (3) 【内城區店支方直】 子よき關井 (2) 子敏頭江 (1) 【内城區店支田平大】 子かた宮郡宇 (11) 【内城區店支本職】 雄智川中・富早川中・子秀川中 (10) 郎二賢田寺 (9) 【内城區店支保世任】 典保田池(左) 子*田池(右) (8) 吉良田池 (7) 明 寶大 (6) 子綿川小 (19) 子玲又敷 (18) 子成地岡 (17) 【内城區店支館函】 子敏我曾 (16) 子代香高 (15) 【内城區店支分大】 喜勝本橋 (14) 子藤米加 (13) 子茂田吉 (12) 子貞瀧間 (22) 子やい木鈴 (21) 【内城區店支橋小】 夫明友佳 (20) 【内城區店支橋札】

◆不動貯金銀行本支店所在地と電話振替番號◆

本 店	東 京 芝 大 門	電話 (43) 二三三、二三三、二三三	振替東京二六六
日本橋支店	東京日本橋本町角	電 話 (24) 二二二、二二二、二二二	振替東京二七四
上野支店	東京下谷區上野公園前	電話下谷(83) 二二二、二二二、二二二	振替東京三六六一
白山支店	東京本郷駒込曙町	電 話 (85) 三三〇三、三三〇三、三三〇三	振替東京七五五六
兩國支店	東京本所東兩國四丁目	電話本所(73) 五五五六、五五五六、五五五六	振替東京七六〇一
九段支店	東京麹町區九段下	電話九段(33) 二二二、二二二、二二二	振替東京七九五四
乃木坂支店	東京麻布區新龍土町	電話青山(36) 五六一一、五六一一、五六一一	振替東京八一四五
大阪南支店	大阪東區本町二丁目	電話本町(四三、四四、四五)	振替大阪五三八七五
大阪西支店	大阪西區京町堀上通一丁目	電話新橋二〇、二二一、七八九	
大阪北支店	大阪北區天神橋筋六丁目七九	電話土佐堀(14) 二二四、二二五、一九九三、四〇一一	
京都支店	京都三條通富小路角	(目下新築中)	
七條支店	京都七條通鳥丸角	電話本局二四一、二四一、二四一	振替大阪五三五二七
名古屋支店	名古屋市廣小路通伊倉町角	電話下局四七三、四七三、四七三	振替大阪二七〇二
神戸支店	神戸市相生橋東詰	電話本局一四六七、三六七	振替名古屋七二九
横濱支店	横濱市常盤町	電話元町八三三、八三四、二〇二	振替大阪五三六〇〇
札幌支店	札幌市南一條西五丁目角	電話(一六四〇、二〇七二)	振替東京五一三四八
小樽支店	小樽市稲穂町角	電話一〇五六、二八五九	振替小樽二二〇〇
函館支店	函館市鶴岡町	電話一三四五、二五五八	振替小樽一七〇〇
仙台支店	仙台市新傳馬町角	電話四六四	振替小樽二二一一
宇都宮支店	宇都宮市大工町	電話四五二、一九四	振替仙臺二二六六
前橋支店	前橋市堅町角	電話三二二	振替東京五一五七八
新潟支店	新潟市本町通角	電話六〇九	振替東京五一七四
長岡支店	長岡市表町四丁目角	電話八〇六	振替東京五一二六六
富山支店	富山市木町角	電話六三八	振替長野一〇五八
高岡支店	高岡市木舟町角	電話六四一	振替金澤三〇一一
富山支店	富山市南町角	電話一四八	振替金澤二八六〇
金澤支店	金澤市南町角	電話三一	振替金澤二八四七
福井支店	福井市佐久良中町	電話七〇四	振替金澤二八八六
横須賀支店	横須賀市旭町	電話一四一	振替東京四三三三〇
甲府支店	甲府市八日町角	電話三七一	振替東京五一二九九
静岡支店	静岡市吳服町角	電話五二七	振替東京五一二七
濱松支店	濱松市傳馬町	電話四二〇	振替東京五一二七
豊橋支店	豊橋市札木町	電話二、五四三	振替東京五一二三九
岡崎支店	岡崎市龍田町	電話三一六	振替大阪五三六三一
岐阜支店	岐阜市神田町角	電話二二二、四一三	振替名古屋二二一一〇



(1) 五稜廓 (函館より四軒、電車の便あり)
幕末脱藩の榎本武揚、大島圭介等が最後の決戦をした所で、今は公園となつて居り、城郭を繞る外堀は清水を流へ夏は水泳に多は、カートの好適地になつて居る。

(2) 五稜廓の櫻
忍路海岸
江差道分
忍路、高島及びもなが、ソメイ
せめて歌聲園谷まで、ソメイ
あぶらこ、櫻、真鏡、一生に三枚ばつたばた
帯も十勝で、そのまゝ根室
落るなみだの櫻、ソメイ
厚岸、中ぶらぶら、あたら掛取ほほい、
大島小島あひ行く船は
江差がよひか懐しや。



(1) 定山溪温泉 (定山溪鐵道定山溪下車)
曹平川の上流の溪谷に位し、四圍峰帯を繞らし、山光水色の美を占め、春は櫻、夏は青葉、秋は紅葉、冬は純白の雪を映るる遊樂地である。
(2) 後方羊蹄山 (函館線知安駅下車)
死火山にして美麗なる圓錐形をなしてゐるので、「蝦夷富士」の名がある。海拔一八九三米、北海道一の巔峰で山頂からの眺めは雄大絶佳である。
あつまつ路の富士の姿に似たる哉
雲に響ゆるしりべし山 三條相國



(3) 不動貯金銀行小樽支店
所在地 小樽市船橋町 開業 大正六年七月十三日

(4) 小樽
本道西海岸唯一の良港、明治元年戸數四百四十戸を有する僅々たる一漁村であつたが長足の進歩を續け今人口十五萬六千を有し、遂に北海道の海運並に商業界の樞を稱ふるに至つた。市内に小樽、千宮の二公園がある。

北海道

146



(1) 札幌
右野平野の西部に位し、全道交通の中心點で行政上の首府である。北海道的、道庁、通信局、市役所、警察署、放送局等全道首腦官衙を網羅す。

(2) 神居古潭
二田龍神居古潭下車。雄神對して右野川の兩岸穿り、奇岩怪石錯峙するところ、恐ろしく洗れ來る水は、此處に滑れる石に赤はれ岩に墜いて紫雲の深淵をなす其の景美人を魅するといはれて居る。

(3) 不動貯金銀行札幌支店
所在地 札幌市南一丁目西五丁目角
開業 大正八年四月一日

昭和六年六月廿六日發行

昭和六年六月廿六日發行

定價金參圓五拾錢

不許複製

編輯者 東京市牛込區天神町八拾貳番地 中村雅次
印刷所 東京市神田區錦町三丁目廿四・五番地 合名 菊地三色版工場

發行所 誠賢堂書肆
東京市牛込區天神町八拾貳番地
振替東京六一五五六番